新宇土市史基礎資料　第三集

町在(三)

―天保四～嘉永元年―

宇土市教育委員会

（町在三）　目次

天保四年
一四一　筑紫春吹……1
天保五年
一四六　清八　他……2
一五四　勇七……3
一五八　後藤五郎右衛門　他……4
一六〇　辛川良右衛門　他……6
天保六年
一六四　作兵衛……10
天保九年
一六八　沢田良平……11
一七〇　北野甚七　他……12
一七一　伊勢田渡右衛門……17
一七二　宇土町御本陣再興御作事出来目録……19
一七三　小田久次郎　他……21
一七四　糸石玄磧……22
一七五　上田藤吉……24
一七六　神尾三伯　他……25
一七七　卯八……31
一七八　幸平……32
一七九　松山徳七……32
一八〇　貞平列六人　他……34
一八一　市兵衛……35
天保十年
一八二　郡浦新五左衛門……35
一八三　中野信次……40
一八四　郡浦又太……41
一八五　橘庄助……42
天保十一年
一八六　虎口源左衛門……43
一八七　渡　三壽……44
一八八　谷村佐平次　他……45
一八九　岡村伊八郎……47
一九〇　田河内茂平、藤九郎……49
一九一　竹下恵吉……50
一九二　大田黒圓右衛門……51
一九三　田代勘右衛門……52
一九四　銭塘久右衛門　他……53
一九五　田上壽助　他……56
一九六　郡浦新五左衛門、隈部徳七……59
一九七　森内甚兵衛　他……62
一九八　桑原作平次……65
天保十二年
一九九　本郷岩吉……66
二〇〇　伊勢田渡右衛門、伊勢田渡恵太……67
二〇一　隈部徳七　他……69
二〇二　大田黒藤兵衛、卯兵衛……70

二〇三　徳永半兵衛　他……72
二〇四　文助……76
天保十三年
二〇五　神尾等載、金田亀齢……77
二〇六　松岡謙濟、庄野逸記……79
二〇七　尉右衛門　他……82
二〇八　岡村儀平次　他……83
天保十四年
二〇九　堀内徳右衛門、伴右衛門……89
二一〇　柘植玄迪……90
二一一　愛甲　操　他……92
二一二　北野甚七、喜平……96
二一三　清七……98
二一四　壽七郎……99
天保十五年
二一五　中園英之助、郡浦又太……100
二一六　竹馬幾右衛門、中山直右衛門　他……101
二一七　井上育太郎　他……103
二一八　藤九郎、直次　他……104
弘化二年
二一九　小郷藤兵衛……109
弘化三年
二二〇　西　玄甫……109
二二一　中村角太……110
二二二　竹馬圓次……111
二二三　岡村弥次兵衛、稲原久左衛門　他……112
二二四　堀内徳右衛門……112
二二五　啓右衛門、嘉右衛門……113
二二六　神尾喜栄……114
二二七　矢沢源次郎　他……115
二二八　野村新助……116
弘化四年
二二九　小郷藤兵衛……118
二三〇　木下喜兵衛、木下和作……118
二三一　中村小左衛門……119
二三二　芥川倉之助……120
二三三　竹下恵吉……121
二三四　北野安右衛門……122
二三五　虎口源左衛門……122
二三六　廣次、茂七……123
嘉永元年
二三七　郡浦新五左衛門　他……124
二三八　辛川良右衛門、虎口源左衛門　他……135
二三九　北野甚七、田河内茂平　他……138
二四〇　郡浦新五左衛門　他……141
登録番号対照表……146

例　言

一、本書は、宇土市史編纂の基礎資料を集成したもので、その第三集として財団法人永青文庫所蔵の細川家史料『町在』の宇土市関係分を抄録したものである。掲載の許可をいただいた財団法人永青文庫（細川護貞理事長）に感謝する。

一、底本は、熊本県立図書館架蔵の複製本によったが、複製本に齟齬があるものについては、熊本大学附属図書館寄託の原本と対照させ、それによって修正した。閲覧にあたってご便宜いただいた熊本県立図書館・熊本大学附属図書館に感謝する。

一、史料は、今回検索を行なった宇土市関係史料の中から任意に番号を付したものであり、便宜的に人名を表題とし、目次と対照させた。

一、表題となった人名の下に、原本の分類目録番号を付した。この番号は、細川藩政史研究会刊行の『永青文庫、細川家旧記・古文書分類目録　正編』に収められた整理番号である。熊本県立図書館の架蔵番号とは異なるため、巻末に登録番号対照表を付した。

一、釈文は、下記に従って活字化したものである。

　一、それぞれの史料には適宜、句読点「、」「。」および並立点「・」をつけた。

　一、文書の年月日、差出、当所等の位置や高さは、底本に係わらず統一した。

　一、用字については、次のとおり配慮した。

　　旧漢字・異体字は固有名詞をのぞき原則として、現行の漢字に改めた。

　　変体仮名「る」「ゐ」「へ」「え」は、原則として、現行の仮名にあらためたが、助詞の者・茂・江・而・并・ニは、そのまま用い、活字を小さくした。

　　二字、又は三字繋の仮名（ゟ、〆等）は、二字または三字の仮名になおした。

一、地名・人名等の固有名詞については底本に拠った。ただし補記の必要なものについては傍註を付した。

一、底本の不明部分は□とした。疑わしい文字については、ママを付した。

一、敬称のための欠字・平出・台頭等は行わなかった。

一、史料収録にあたっては差別や人権について十分配慮したが、できるだけ原本に忠実な釈文を行なったために、現在の価値観では律しきれないような内容の文も含まれている可能性がある。歴史資料としての存在意義をそこなわないための止むを得ない判断であることをご了解いただきたい。

一、史料の検索・釈文・校訂は井上正（市史編さん委員会委員長）、光永文熙（市史編さん委員会委員）、根本なつめ（市史編さん調査員）、堤克彦（北稜高校教諭）、菊池古文書研究会会員が行い、校正・編集は右記のほか、市史編さん室において実施した。

（天保四年）

一四一　筑紫春吹　（九―二二―三）

御内意之覚

河江手永下中間村居住独礼医師

筑紫春吹

当辰六十五歳

右者文化三年御郡代直触ニ被召出、同五年御郡医師並ニ被仰付、文化八年独礼ニ被仰付、当天保三年迄都合廿七年相勤、所々御普請等之節々罷出出精仕、先年小川尻手永開築立之節出精相勤、出夫之者江施薬等茂仕候ニ付、金子百疋被下置候。惣体兼而療治方之儀年齢茂宜敷、先者於所柄第一之大医ニ而病家茂手広、去ル卯ノ年病人数左之通、

河江手永

新田村　南小川村　小川町
西海東村　江頭村　河江村
竹崎村　豊福村　中間村
下中間村　内田村　下江村
久具村　浦川内村　南萩尾村
小萩尾村　曲野村　松橋村
南古保山村　北古保山村

中山手永

堅志田町　下江村　糸石村
安見村　山崎村

野津手永

鏡町　鏡村　鹿嶋村
内田村　七百丁御新地村々

松山手永

大見村　手場村　松合村
永尾村　松山村　境目村

郡浦手永

底江村　網津村

廻江手永

古閑村　廻江村　田尾村

病人数千三百人余

右之通療治仕貧民等江者施薬茂仕候由ニ而、所柄一稜之為合ニ相成申候間、年功旁被賞、御目見医師ニ進席被仰付被下候様。

同手永松橋町居住御郡医師並

岡本謙益

当辰五十一歳

右者文化六年御郡代直触ニ被召出、文政八年御郡医師並ニ被仰付、当天保三年迄廿四年相勤、所々御普請等之節々罷出出精仕、右在勤中御賞美被仰付、稜々併病家員数施薬等之儀、左之通。

一文化九年疫病流行之節、家伝之退邪湯、松橋町・御領町・高良町・大野村江三百貼程施薬いたし候。

一高良町・御領町疫病流行之節、人馬平安散三百包施薬仕、其後伝染之者少ク所柄為合ニ相成候段、御聞御聞届之御達ニ相成申候。

一松橋町疫病流行之節、人馬平安散弐百七拾九包施薬仕、其後伝染之者少ク所柄為合ニ相成候段、御聞御聞届之御達ニ相成申候。

河江手永
松橋町　大野村　曲野村
久具村　北古保山村　南古保山村
中間村　豊福村　下江村
郡浦手永
長崎村
松山手永
小曽部村　塚原村　高良村
御領村　柏原村　松山村
境目村　立岡村　松合村
病人数千百人余　但去卯ノ年療治仕候分
一勝金丸　百包　一黒丸子　百包
右者文政十二年
御参勤之節奉願御供中、道中用意ニ差出申候。
一勝金丸　百包　一黒丸子　百包
右者天保二年
御参勤之節、右同断。
一犀角　百包　松山村
一同　百包　高良村
一同　百包　塚原村
一同　三拾包　小曽部村
一同　五拾包　柏原村
一同　百包　郡浦手永長崎村
一同　三拾包　河江手永大野村
一同　五拾包　□江村
一同　七拾包　曲野村
一同　三百包　松橋町
一同　五拾包　南萩尾村
右者文政十二年痘瘡流行之節、施薬ニ相成申候。
一人馬平安散　百包
一テリヤアカ　百貝
右者当正月松山手永松合村疫病流行ニ付、施薬相成申候。
右之通療治方出精仕、旦余計之施薬等茂仕、右外兼而貧民等江者施薬も仕候由ニ而、所柄一稜之為合ニ相成申候間、年功旁被賞、独礼ニ進席被仰付被下候様。
右之通両人之医師数十年出精相勤、手広療治茂仕所柄一稜之為合ニ相成、謙益儀者余計之施薬も仕候間、年功旁被賞、前条之通被仰付被下候様、乍恐於私奉願候、此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上
天保三年四月　新居市左衛門
御郡方
御奉行衆中

（天保五年）

一四六　清八　他

（九―二三―四）

御内意之覚
郡浦手永新開村
一銭五百目　清八

一銭五百目　卯平
但右両人之者共傘・小脇差御免被仰付被下候様。
一同弐百目　同村　友八
一同弐百目　新開村　吉次郎
一同弐百目　同村　吉兵衛
一同弐百目　同村　両助
一同弐百目　同村　市兵衛
一同弐百目　同村　寿三郎
一同弐百目　同村　栄助
一同弐百目　郡浦手永椿原村　源助
但右八人之者共傘・菅笠御免被仰付被下候様。
右者関東筋川之御普請、御手伝御用ニ付而、寸志銭差上申度奉願候処、願之通被仰付、夫々上納相済申候間、御賞美筋之儀、前条但書之通、被仰付被下候様、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上
天保四年十二月　中嶋九郎左衛門
御郡方
御奉行衆中
清八・卯平儀・寸志高究之規矩ニ相当申候間、傘・小脇差可被成御免哉。
友八以下源助迄八人、寸志高右同断ニ付、傘可被成御免哉。
右五月朔日達

一五四　勇七

（九―二二―四）

御内意之覚
廻江手永南田尻村庄屋
勇七
当午六十二歳
右勇七儀、文化三年北田尻村庄屋当分申付、同十年三拾町村庄屋兼帯申付、同十三年三拾町村庄屋差免、廻江手永横目役兼帯申付相勤居候処、同七年庄屋本役申付、天保四年手永横目併北田尻村庄屋差免、南田尻村庄屋申付、当午年迄惣年数二十九年ニ相成申候。右之内文政三年銭塘手永奥古閑新地築立之節、出精仕候故ニ而、鳥目五百文被下置候。右之通ニ而数年出精相勤居申候間、何卒被賞、礼服御免被仰付被下候様、於私奉願候。左候ハヽ、弥以出精可仕と奉存候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上
天保五年　新居市左衛門
五月
御郡方
御奉行衆中

勇七儀、達之通ニ而庄屋当分以来廿九年之内、本役二十五年ニ相成、年数見合ニ越居候間、礼服可被成御免哉。

右付礼之通右月廿七日達

覚

廻江手永南田尻村庄屋

勇七

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、役前多年心懸能出精いたし、勤年数等書面之通相聞申候。尤、北田尻村庄屋本役之儀者、文政七年申付ニ相成候由、其外追々之様子、本紙之通承申候。以上

午

七月　　山口文左衛門㊞

一五八　後藤五郎右衛門　他　（九―二三―五）

御内意之覚

在勤中御郡代直触杉嶋手永杉嶋村庄屋

後藤五郎右衛門

右同杉嶋会所手代

今村彦兵衛

杉嶋会所御普譜方根扨

緒方淳右衛門

右者上益城大水理御普請ニ付而者、追々余計之出夫仕、旦去々夏以来数度之洪水ニ付而者、手永々々数ヶ所之塘切、其外所々破損仕、地場之御普請、暫茂難答ヶ所多、大水理混合、莫太之出夫ニ御座候処、何れ之村々茂近年凶作打続候上、杉嶋廻江之儀者、追々之洪水等ニ而、必多物及零落、差寄之粮物茂所持不在もの多、農力相衰居候。折柄、大造之出夫、旦明俵払方等、甚以村々及難渋申候処、右五郎右衛門列差はまり万端根ニ成、昼夜無差別、格別相働候ニ付、大水理御普請を初、手永内急場其外之御普請等茂、夫々無手抜、速ニ成就仕候。殊ニ杉嶋手永之儀、去々夏之洪水ニ而杉嶋村裏塘破損仕候ニ付而ハ、会所内者勿論、其外地低之家々暫時之間ニ軒を包候程之水没相成、小前々々者塘筋、或者二階梁上等ニ逃散、前夜より食事茂不仕候者多御座候処、五郎右衛門儀、御惣庄屋引続格別相働、焚出配当を初、四・五日之間者昼夜裸同前ニ而、舟筏通り兼候家々江者、游越壱人茂飢不申様心配仕、其跡嶋内之地方迄作廻候者者、米一粒之収納茂不仕者多、素より野菜類ニ至迄、少茂無之程御座候処、荒地開・明年季請開等、穏々相誘候付、洪水荒茂即年より作地相成、相救等茂付紙之通相誘候付、彼是之間を合、漸無難ニ取続申候。彦兵衛・淳右衛門茂同様御惣庄屋江引続相働、洪水之砌、会所内数尺之水没ニ付而者、自身〳〵居敷者差置、会所内諸御用物取片付方ニ懸、格別相働候付、諸帳面等濡腐不申、夫々取囲申候。旦水没之者共江数日之焚出、配当方之心配、濡米拝借引渡等、彼是無間抜取計候付、数百人之者共、及飢不申、其跡稗種子求方苗植継之心配、塘手御普請引続、空地極荒開明年季受しらへ等、昼夜不分出精仕候付、即年より産米茂出来仕候。右之通三人共大水理、旦地場之御普請ニ付而者、根ニ成相働候上、杉嶋裏塘破損非道之洪水ニ付而者、格段出精仕候間、乍恐被賞、鳥目壱貫五百文充、被為拝領被下候様。

（中略）（杉嶋手永・アリ）

廻江手永

本札村庄屋
辻忠次郎
榎津村庄屋
紫垣喜三右衛門
藤山村右同
水野圓助
南田尻村右同
小原善次
上宮地村右同
甲斐又助
沈目村先庄屋
栗崎嘉兵衛
東阿高村庄屋
武田七左衛門
陣内村庄屋
赤星恵七
下宮地村右同
林田彦左衛門
志々水村右同
荒木勘兵衛
三拾町村右同
弥左衛門
嶋田村右同
才右衛門
廻江村六田村右同

小左衛門
西田尻村右同
丹次
中宮地村土鹿野村右同
彦作
沈目村庄屋
和兵衛
木原村右同
利八
北田尻村庄屋
勇七
新村右同
甚兵衛
本行甚兵衛儀病死仕候事（付箋）
西木原村右同
祐助
中野村右同
仙助
阿高村尾窪村右同
敬作
古閑村右同
貞七
鰐瀬村右同
平作
土鹿野村先庄屋
運次

廻江会所下代
紫垣章兵衛
廻江会所根居ニ而
手永見扨兼帯
萩原喜三郎
右同会所詰
下山群次
茂助
惣右衛門
右同小頭
平井繁平
又七
太郎助
茂左衛門
右同小頭代
林田格助
順助
倉次
敬太郎
謙太郎
寿太郎
右同外廻小頭
紫垣寿吉
茂三郎
孫三郎

仙左衛門
（中略）（河江手永・中山手永・砥用手永アリ）
右同断御普請ニ付而者、村々難渋之折柄、庄屋会所役人共、別而心配多御座候処、何れ茂格別相働出精仕候付、御普請茂速ニ成就仕候間、乍恐被賞、御酒被為拝領被下候様。
右之通、大水理御普請を初、手永々々地場之御普請ニ付而者、何れ茂格別相働出精之稜々者、前条之通御座候間、乍恐夫々稜書通御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内達仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上
十一月　新居市左衛門
御郡方
御奉行衆中

一六〇　辛川良右衛門　他

（九―二二―五）

御内意之覚
地士ニ而郡浦会所手代　辛川良右衛門
手永見扨ニ而在勤中御郡代直触同所手代　虎口源左衛門
在勤中御郡代直触ニ而手永見扨并松山会所手代　野村新助
御郡代直触小郷覚兵衛養父松山会所副手代　小郷彦太
御郡代直触ニ而松山会所下代

無苗御惣庄屋直触松山会所根扨　小郷覚兵衛
同所下代　藤九郎
同所根扨助役　茂平
郡浦会所根扨小頭　清七
甚次郎

右者、去々卯夏洪水ニ而川尻大水理破損所御普請之節、宇土両手永村々出夫ニ付而出役仕、丁場割、村々小積夫仕迄始末、野田村江相詰厚ク心配仕、御普請之儀茂速ニ相済、且又、同夏手永中洪水ニ付而、川塘破損所御普請、又者水害村々取計筋ニ付而、何れ茂昼夜厚心配仕候付、乍恐被賞、鳥目五百文宛、被為拝領被下候様。

松山手永
地士ニ而永尾村庄屋　西山新左衛門
御郡代直触ニ而松合村右同　後藤徳之助
右同手永横目　北野甚七
右同下松山村庄屋　中山直右衛門
右同小曽部村右同

竹馬幾右衛門
右同立岡村右同　釜賀五平次
御郡代直触ニ而築米村江部村庄屋　中野源八
右同笹原村右同　大田黒圓右衛門
地士平居武平忰松原村右同　平居助次郎
御郡筒ニ而高良村先庄屋　病死　関清右衛門
御郡代直触北野甚七四男松山会所雇小頭　北野茂次郎
御惣庄屋直触ニ而古保里村庄屋　本郷文右衛門
無苗御惣庄屋直触網津村右同　弥十郎
右同境目村右同　甚兵衛
右同大見村先庄屋　病死　清七
岩熊村庄屋　直次
佐野村庄屋　次助

上古閑村右同　儀平
三日村右同　丈平
松山村右同　作兵衛
布古閑村右同　長左衛門
曽畑村右同　喜平
御領村右同　宇平
柏原村右同　喜八
大口村右同　作右衛門
馬瀬村右同　喜助
下網津村右同　源次郎
高良村庄屋助役　寿七郎
松山会所詰　作右衛門
同　同　病死　平八
同　藤平
同小頭　恵七
同　栄助
同　嘉平太
同　弥五兵衛
同　藤兵衛
同　源兵衛
同　古次郎
同　喜三郎
同　政次郎
同　真作
郡浦手永
地士ニ而戸馳村庄屋　松浦新内
養替受込在勤中御郡代直触　病死　本田定次
御郡代直触ニ而波多村庄屋　岡村弥次兵衛
右同郡浦手永井樋方小頭　稲原覚兵衛
地士吉田八之允養子網田村庄屋　吉田慶蔵
御郡筒ニ而大田尾村赤瀬村右同

松浦平右衛門
右同手場村右同　三浦久兵衛
御郡代直触嶋田源之助養子戸口浦村庄屋　嶋田源吾
右同稲原覚兵衛親栗崎村右同　稲原久左衛門
御惣庄屋直触中村右同　次平
右同長崎村右同　伝十
右同網引村右同　尉七
右同石橋村神山村右同　徳右衛門
御郡代直触高橋尉助悴　伊左衛門
里浦村庄屋　喜之助
三角浦村右同　庄兵衛
下網田村庄屋　藤左衛門
長浜村右同　廣次

新開村右同　啓右衛門
宇土惣代　清兵衛
恵里村庄屋　嘉左衛門
鷺見塚村右同　清蔵
飯塚村右同　清左衛門
下椿原村右同　用右衛門
下新開村右同　半左衛門
宮庄村右同　弥左衛門
神原村右同　弥右衛門
浦上村右同　改助
下長崎村右同　武左衛門
郡浦会所詰　新兵衛
小頭

弁次

〃　藤兵衛

右同断、大水理破損所御普請之節、出夫等何れ茂厚ク心配仕、且手永中村々御普請之儀も、夫仕等出精仕、何れ之ケ所も夫々速ニ相済申候間、乍恐被賞、御酒肴被為拝領被下候様。

右之通大水理御普請を初、手永中所々御普請ニ付而、何れ茂格別出精相働申候間、乍恐夫々稜書之通、御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段御用達仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

十二月　中嶋九郎左衛門

良左衛門以下甚次郎迄九人、達之通ニ付、鳥目五百文完可被下哉。

新左衛門以下別冊しらへ之通、苗字有者御間承届、無苗之もの江者御樽肴可被下置哉。

松山手永　二十七人
一酒五升
一干肴壱枚

郡浦手永　二十三人
一右同断

杉嶋手永　二十五人
一右同断

廻江手永　二十七人
一右同断

河江手永　二十一人
一右同断

中山手永　二十九人
一右同断

砥用手永　三十四人
一右同断

右付礼之通、未三月廿一日達

(天保六年)

一六四　作兵衛　(九―二二―六)

御内意之覚

松山手永松山村・善道寺村庄屋　作兵衛　当午三十九才

右作兵衛儀、気働有之、筆算達者ニ而、役前格別心懸厚出精相勤申候。然処、松山手永之儀、桑蚕相応之土地と相見、繁昌可仕様子御座候処、右請込壱人者申付置候得共、届兼候稜茂御座候ニ付、壱人相増両人ニ而御座候得者、行届可申奉存候ニ付、右作兵衛儀、桑蚕請込申付度奉存候間、在勤中御郡代直触被仰付被下候様奉願候。此段、御内意仕候条宜敷被成御参談可被下候。以上

午十二月　中嶋九郎左衛門

御郡方
御奉行衆中

作兵衛儀、達之通ニ而、替桑請込被申付度御座候。在勤

中御郡代直触可被仰付哉。
但御郡方付紙之通ニ付、本文之通相しらべ申候。
二月廿九日達

覚

松山手永松山村善道寺村庄屋
作兵衛

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、右作兵衛儀、気根強ク有之、筆算相応ニいたし申付ニ相成候。役前差はまり出精いたし候者之由ニ相聞、手永中庄屋之内ニ茂目当ニ相成候程之人柄之由ニ承り申候。右見聞仕候趣、御達申上候。以上

未二月　村田仁右衛門 ㊞

（天保九年）

一六八　沢田良平　（九―二二―一一）

御内意之覚

郡浦手永居住御郡代直触
沢田良平

一銭壱貫目
但地士ニ被仰付被下候様
同手永右同御郡代直触
坂本太郎右衛門弟
坂本太郎助

一同弐貫五百目
但御郡代直触被仰付被下候様

一銭三百目完
郡浦手代下代
傘・菅笠御免
伝兵衛
右同　同村
勇助
右同　同村
嘉之平
右同　同村
米助
右同　同村
茂三次
但五人之者共、小脇差御免被仰付被下候様
椿原村
嘉左衛門
波多村
与茂作
但両人小脇差御免被仰付被下候様
波多村
唯助
同村
實右衛門
恵里村
儀三次
椿原村
利八

一同五百目完

一同弐百目完

但四人傘・菅笠御免被仰付被下候様

右者今度窮民御取救為御手当、寸志銭依願被召上、夫々上納相済申候間、但書之通、御賞美被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条可然様被成御参談可被下候。以上

酉十二月　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

良平儀寸志高究之規矩ニ相当候間、地士可被仰付哉。

太郎助儀右同断ニ付御郡代直触可被仰付哉。

伝兵衛より茂三次迄五人右同断ニ付小脇差可被成御免哉。

嘉左衛門・与茂作儀右同断ニ付、小脇差可被成御免哉。

唯助より利八迄四人右同断ニ付、傘・菅笠可被成御免哉。

右付礼之通三月九日達

一七〇　北野甚七　他

（九―二二―一一）

御内意之覚

松山手永御郡代直触ニ而、馬瀬村居住、松山手永横目

北野甚七　七十四歳

右甚七儀、天明元年五月馬瀬村庄屋役、文政三年迄四十ケ年精勤仕候処、同年馬瀬村者差免、松原村庄屋江所替、翌年手永横目兼帯、文政七年松原村庄屋役ハ、依願差免、手永横目一扁（ママ）ニ相勤候処、天保六年新開御米山床、御役人中引払跡見扨兼勤、当年迄五十八年無怠慢相勤申候。

一享和元年役方数年精勤、且父代寸志之訳ニ被為対、苗字御免・御惣庄屋直触ニ被仰付、猶又父甚右衛門存生之内、追々近郷及類焼、難渋之者共江、米銭差遣候ニ付被為賞、家内不残傘・菅笠御免ニ相成申候。

一文化八年馬瀬村零落之所柄、役方多年厚ク心を用、格別出精仕候旨ニ而、御郡代直触被仰付候。

一天保二年八月、役方五十年余心懸能、出精仕候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置候。

右之通、天明元年親跡庄屋役申付候以来、当年迄五十八年相勤、最早及老年候得共、生得堅固第一ニ而、必多度村々打廻り、見聞筋無怠、至貧・病者等飢寒凌キ兼候者共江、格別ニ心を用、衣類等富家々々より貰遣シ候様之儀、近年厚ク心懸、別而子年以来凶作打続、難渋者多御座候ニ付而者、米穀相対取救等之申談も行届キ、貧民者別而感服仕、将又近年新開御米山取起候ニ付而者、彼方見扨をも、無勤料ニ而相勤、其上自勘ニ而、小屋懸等をも仕、御蔵払之節々、払子共江湯茶を給サセ、深切ニ取計、其外万端手厚世話仕、一統之為合ニ相成、五十八年之勤労被為対、地士進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

松山手永御惣庄屋直触ニ而、松山村庄屋

竹下恵吉

六十一歳

右恵吉儀、寛政元年松山会所見習ニ罷出、同六年小頭本役、同十一年会所詰、文化三年井樋方小頭兼帯、同七年出銀方受込、同九年馬場村庄屋兼帯、文政二年下代役、同年馬場村庄屋役者差免、同四年下代役差免、宇土駅惣代、同九年惣代役ハ差免、新町庄屋役、天保七年新町庄屋役者差免、松山村庄屋役ニ所替申付、当年迄都合五十年手全相勤申候。

一文化六年九月役方多年手全ニ相勤、会所向諸御用筋厚ク心を用、数百艘之井樋御手入、年文絶不申候処、余計御入目銭受払、手堅取計、各別出精仕候旨ニ而、礼服、小脇差御免相成申候。

一文政十二年十二月、役方数十年出精いたし、立岡堤堀添之節、出役之御役人・人馬継等、格別心配仕候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一天保五年役方数十年心懸能出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付候。

右之通、寛政元年松山会所江罷出候以来、会所役・惣代・村庄屋共、当年迄五十年無怠慢精勤仕、別而当時勤懸り松山村之儀者、千三百石余ニ而、松山手永第一之大村ニ而、多人数之所柄・人気茂異り居申候処、恵吉儀者、生得篤実ニ有之、一体手堅ク功熟ニも御座候ニ付、村方申諭も行届、御年貢・諸出銀速ニ相納、諸公役之儀も、格別出精仕、村方取締も能御座候間、被為対五十年之功労、御郡代直触被仰付被下候様。

松山手永御惣庄屋直触ニ而、古保里村庄屋

本郷文左衛門

七十二歳

右文左衛門儀、寛政三年古保里村頭百姓役、文化二年迄十五年相勤居候処、父惣左衛門庄屋役申付候ニ付、頭百姓者差免、文化十年同村庄屋役、当年まて庄屋役二十六年、頭百姓役共前後都合四十一年精勤仕候。

一古保里村之儀、中道往還筋ニ而、諸御役人通行、薩州公御上下之節之御小休所ニ而、以前者同村先庄屋古保里喜三右衛門宅江、追々之見合を以、御入ニ相成居候処、同人宅損候ニ付、文化五年より右文左衛門宅江御小休ニ相成候処、家居間狭ニ付、自勘を以一間取建、御用相勤度段相願、入目銭四貫三百目余程ニ而、建方成就仕候処、文政元年自勘を以、一間新規取建、大造之作事、彼是心配出精仕、且乍恐濱町様日奈久御出之節、御用夫々相動候ニ付、苗字被成御免候而、御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一古保里通之儀ハ、南目出在之御役人弁利ニ相成、芦北御郡代并八代御郡代交代往来之節、人馬継替等、即日文左衛門方ニ立寄、相休ニ、其外諸御役人・人馬継替等之儀も同様ニ而、兼而心配強ク、昼夜之無差別速ニ取計申候。

一文左衛門儀ハ、生得之精農ニ而、悴儀も不相替精農仕、作子等引連レ、肥シ手入等十分ニ行届、夫ニ応シ作徳も多御座候ニ付而ハ、自然ト村方一統之目当ニ相成、田根付等も近村より先立取上、収納も同前ニ而、既ニ文左衛門受持坪々限り、病も薄ク相見、鯨油等差入候ニもおよび不申、数通草凌手入等、誠以小前々之手本ニ相成、非常之天災之外、不作仕候儀も無之、近十年御損引等も奉願候儀無御座、彼是一稜所柄為合ニ相成申候。

右之通、頭百姓以来数十年、各別精勤仕、殊ニ自身精農ニ而、数十年御損引も不奉願、村方帰服仕、御年貢　諸出銀・諸公役等、

別而速ニ相勤申候。文政元年自勘を以、一間家居取建候ニ付而ハ、被為賞、御惣庄屋直触被仰付候得共、未タ数年之功労之御賞美無御座、前条之通精勤仕候間、御郡代直触被仰付被下候様。

右同手永上古閑村庄屋

儀平　五十四歳

右儀平儀、文化四年父武右衛門庄屋役、病中故障等之節、代役同十四年武右衛門儀及老年、依願庄屋役差免、其跡儀平江本役申付、当年迄都合三十二年之内、代役十年・本役二十二年手厚精勤仕候。

一文政十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、合羽・傘并菅笠御免相成申候。

一上古閑村之儀、高五百四拾石余、田畝数弐拾六町余御座候内、以前より跡作仕候畝数拾壱町程外無之、残り拾五町余之儀者、跡作成兼申候坪々、文政五年糺方仕、其後新井手立等之仕法ニよって、跡作地相増、当時ニ而者、苗床又者纔之水田迄ニ相成、近年粮物高直之折柄、旁一稜所柄之為合ニ相成申候。

一文政二年小無田と申水田之所柄ニ新井手掘方仕、早速乾地ト相成、菜麦之作所相増申候所より、村方も競立、、其後追々新古井手筋掘浚も行届キ、作喰を得、秋作実乗能、彼是後年一稜之為合ニ相成申候。

右之通、儀平儀亡父以来村方之儀、諸事深切ニ厚ク世話仕、一統精農ニ基キ、手永中手本ニも相成申候程之功労ニ而、既ニ亡父武右衛門儀ハ、寛政十年より文化十年迄都合十六年之勤功ニ而被為賞、礼服御免相成申候而、儀平儀も父同様礼服御免被仰付被下候様。

右同手永佐野村庄屋

次助　五十八歳

右次助儀、数代庄屋役之家筋ニ而、文化十三年庄屋役江申付、当年迄庄屋役二十三年精勤仕候。

一文政十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付而出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免ニ相成申候。

一佐野村之儀、高五百石余ニ而、惣人数四百二十人余有之、高ニ応候而者、多人数ニ而田畑作り足不申、近在村々江懸ケ、出作勝ニ而、村方田畝数弐拾弐町余之内、拾四町余ハ以前より跡作仕付来り、残り八町余者水田ニ而、跡作成兼申候処、文政年中潤川と申所、水気抜キ井手立仕、早速乾地ニ相成、跡作地大略四町程相増、養水之弁利も宜敷、春秋之両作出来、肥シ・手入ハ十分ニ行届、麦作者反ニ四俵程之取実ニ而、一ケ年百六拾俵完之出来増ニ相成、秋作も実乗り能、彼是後年一稜之為合ニ相成申候。佐野村之儀も上古閑村同様初発ハ、新井手立等進ミ兼居申候処、外々之功験をも及見、第一ハ庄屋・村役人之倡方も深切ニ有之候処より、一毛作之場所跡作出来、変化仕候儀、庄屋役精勤之功労と相見申候。

右之通ニ而、次助儀庄屋役二十三年相勤、村方江申諭筋行届、勧農ニ基キ、御年貢・諸出銀之儀も、年々手永中二三番之内ニ皆済仕、諸公役之儀茂相立ニ励合、彼是数年精勤仕候間、何卒礼服御免被仰付被下候様。

右同手永三日村庄屋

丈平　五十一歳

右丈平儀も父代より庄屋役相勤、文化十三年父跡ニ庄屋役申付、

当年迄二十三年手全出精仕候。

一文政十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免ニ相成申候。

一三日村之儀、惣高四百石余ニ而、田畝数拾弐町余之内、七町五反程ハ以前より跡作仕付来り、残り五町弐反余者水田ニ而、跡作成兼居候処、文政十一年新井手間数四百間余掘方仕、急速水抜ケ乾地ニ相成、即年より菜麦等仕付、畝方弐町五反程相増、春秋之両作出来宜敷、養水之弁利を得、作喰相増、後年一稜為合ニ相成申候。

右之通丈平儀、庄屋役二十三年精勤仕、別而三日村之儀者、零落処ニ而、御年貢・諸出銀等取立方も心配強ク村方成立ニ付而ハ、前条之通、新井手立等之仕法をも仕、彼是厚ク心労仕候間、何卒礼服御免被仰付被下候様。

右同手永曽畑村庄屋

喜平

六十九歳

右喜平儀、先祖以来曽畑村庄屋役之家筋ニ而、文政三年庄屋役申付、当年迄十九ケ年父代役共ニ都合二十七年手全出精仕候。

一文政十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免ニ相成申候。

一曽畑村之儀、高六百石余ニ而、田畝数三拾三町余有之、其内跡作仕付来り申候畝数拾弐町九反程外無之、残弐拾町余之儀ハ、水気強ク菜麦作仕付出来兼候処、文政五年より追々新井手立、亦ハ古井手凌方等ニ而、跡作地相増、当時ニ而ハ、纔ニ苗床又ハ端々之水田迄相残り居、近年粮物高直之折柄、村方一稜之為合ニ相成申候。

右之通喜平先祖父茂平と申者より、当年迄庄屋相勤候年数百十四年ニ、殊ニ喜平儀ハ、手全成生付而、諸御用筋行届、御年貢、諸出銀之取立等、厳密ニ取計、年々速ニ皆納仕、諸公役之儀も、同様ニ、村方気受も宜敷、漸々勧農ニ基キ、同様申諭、当年迄代役より二十七年精勤仕候間、何卒礼服御免被仰付被下候様奉願候。

此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

甚七儀、達之通ニ而、惣年数五十八年之内、以前村庄屋も四十四年相勤、当時手永横目ニ而、新開御米山床見扨相勤、及老年候得とも、必多度村々打廻、貧民取救等之申談行届、貧民共別而致感服、且新開御米山床見扨之儀ハ、勤料を茂請取不申、自勘ニ而相勤、御蔵払之節ハ、払子共江湯茶を茂給サセ、万端手厚致世話、一統之為ニ相成候由、委細書面之通ニ付、年数見合も有之候間、地士可被仰付哉。

本文之内、御郡代直触被仰付候以来、二十八年作紋上下拝領より八年ニ相成申候。

例

竹迫手永庄屋

御郡代直触

林　改助

右者惣年数五十七年之内、御郡代直触以来六年目地士被仰付候事。

五町手永会所
根扨小頭
右同
小田利平次
右者惣年数五十六年之内、御郡代直触より十一年目地士被仰付候事。

見合

恵吉儀、会所見習以来、五十年之内、村庄屋前後二十一年、苗字御免以後五年ニ相成、出精相勤候付、御郡代直触被仰付候様、達之通候処、前賞以後之年数浅、達之趣先可被見合置哉。

但七十歳以上極老之者江者、前賞以後五・六年ニ而、猶被賞見合有之候得共、恵吉儀者当年六十一歳ニ相成、未極老と申に而も無之候付本文之通相しらべ申候。

例

内田手永庄屋
深草團次

天保元年二月

右者会所見習以来五十四年、苗字御免より六年目、老年ニ付、御郡代直触被仰付候事。

内牧手永庄屋
今村喜助

同二年五月

右同断、五十二年、苗字御免以後五年目、右同断。

文左衛門儀、頭百姓以来四十一年之内、村庄屋二十六年相勤、農業格別出精いたし、数十年御損引を茂願出不申、村方一統之目当ニ相成、一稜所柄之為ニ相成、旦御役人・々馬継替等、厚心能いたし候由。委細達之通にて、是迄年功之被賞も無之候付、例も有之候間、達之通御郡代直触可被仰付哉。

但村庄屋之儀ハ、二十五年以上にて無苗、御惣庄屋直触被仰付究ニ候処、本文文左衛門儀ハ、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付置候付、此節右年数ニ而、一階進、本文之通相しらへ申候。

例

中山手永庄屋
御惣庄屋直触
赤星藤左衛門

文政十年十月

右者下地寸志ニ而、御惣庄屋直触被仰付置、村庄屋二十七年ニ相成、是迄年功被賞無之候付、御郡代直触被仰付候事。

村庄屋之儀ハ、二十二・三年以上にて礼服被成御免見合御座候。本文儀平儀、庄屋本役以来二十二年ニ相成、新井手立等之仕法ニ付、田方跡作相増、一稜所柄之為ニ相成候由、達之通ニ而、年数見合ニ茂至居候付、礼服可被成御免哉。

但儀平儀、傘御免以後十年相成申候。

次助儀、庄屋二十三年相勤、所柄水田多候処、水抜井手立等仕法を付候付、跡作出来いたし、年々取実相増、且村方江之諭方行届、勧農ニ基キ、御年貢・諸出銀等も、速ニ相納候由、達之通ニ付、礼服可被成御免哉。

但次助儀、傘御免以後十年ニ相成申候。

丈平儀、村庄屋二十三年相勤、前条次助同様之功績有之候ニ付、礼服可被成御免哉。

但丈平儀も傘御免以後十年ニ相成申候。

見合

喜平儀、村庄屋十九年相勤、傘御免以後十年相成、功績も相応ニ有之候得とも、未役方見合之年数ニ至り不申候間、達之趣、先可被見合置哉。

但親代役年数ニ立不申見合ニ付、本文之通御座候。

右付札之通、四月廿八日達

覚

松山手永御郡代直触ニ而、馬瀬村居住、松山手永横目北野甚七列七人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂役前心掛能、村方世話筋茂行届候様子ニ而、年数精勤之次第、委細者本紙書面稜々之通ニ承り申候。尤本郷文右衛門儀者、頭百姓十五年相勤、暫頭百姓者差免ニ相成、文化十年庄屋役申付ニ相成、当年迄二十六ヶ年、頭百姓年数共、都合四十一ヶ年相勤候由、相聞申候。以上

戌

四月　　外山喜助　㊞

一七一　伊勢田渡右衛門

（九―二二―一一）

御内意之覚

宇土町独礼

伊勢田渡右衛門

五十七歳

一　銭三拾貫八百五拾弐匁三分八厘

但天保二年宇土町御本陣、伊勢田渡右衛門宅再興入目・出来目録前

内

拾六貫目七百七匁四分七厘

但御間御銀年賦拝借被仰付候分。

六貫五拾八匁八分五厘

但吉田大次郎より出銭仕候分。

残八貫八拾六匁六厘

但此分御本陣亭主、伊勢田渡右衛門より自勘才覚を以、出銭仕候分。

右者宇土町之儀、宿駅を受居申候ニ付、兼而球磨・薩摩之御家中并公義衆御休泊ニ相成、乍恐　御在国之節者、三宮社杯　御社参、泰雲寺　御払詣等節、且御順見衆・遊行上人御休泊所之義御座候ニ付、以前者新町筋桜間善十郎と申之宅、御本陣ニ而御作事等所柄引受ニ而、余計之御出方ニも相成来候処、棟・梁落損如何体ニも御本陣相勤り兼、其上新町筋ニ而者、御下宿之家居も無之、寛政元年御順見衆御止宿之節より、本弐丁目伊勢田渡右衛門宅、新規

自勘作事を以、御本陣ニ相成、乍恐　大守様　濱町様　御出之節ニ茂、無御支様相勤、別而文化十三・四年　濱町様江者、数度被為遊　御入、御繕作事等之手入、渡右衛門自勘を以相勤申候ニ付、被為賞、下地・無苗之町独礼ニ而御座候処、文政元年苗字御免相成申候。其後去ル亥九月火災ニ付、家財共都而及類焼、いつれ茂甚当惑仕、差寄御本陣無之候而ハ、難相済由ニ御座候得共、家居ハ勿論明屋敷等も無御座、新規之御作事相成候へハ、御出方も相増、彼是後年ニて、御出方茂不一形成儀ニ付、所詮渡右衛門宅と御本陣再興仕材木等、御山より被為拝領、諸入目銭之儀者、年賦拝借奉願候処、願之通渡右衛門宅江三拾貫目一割利付十ケ年賦返上納ニ而、被為拝領材木之儀ハ、御山より被渡下、再興ニ取懸申候処、渡右衛門儀、下地難渋之上、焼失旁ニ付而ハ、余計之返納筋、往々見込付兼候存念ニ而、自力之才覚仕、同町居住吉田大次郎より茂、同様之内存ニ付、出銭申談、拝借銭減方之仕法、重畳手を懸シ申候処、前条願高三拾貫目之内、拾三貫目余ハ相減、残拾六貫七百目余ハ、拝借ニ相成、御本陣夫々出来仕、返納之儀も、少ニ而も御難題薄ク有之候様ニ、一円ニ了簡仕、難渋之中より、八貫目余ハ、自分才覚を以出銭いたし、拝借銭過半相減シ、其上天保元年之冬、宇土山　御持之御模様ニ付而者、右御本陣　御成間初、所々内作事等手銭有之候得共、渡右衛門、猶自勘を以相調へ、吉田大次郎よりも出銭いたし、御入少も無御支様ニ出来仕候ニ付而ハ、彼是出銭之訳を以被為賞、天保三年御紋服被為拝領候間、渡右衛門儀も一同御賞美奉願筈之処、届兼居候間、渡右衛門儀、先年八貫目余之出銭、且其後御用ニ相立申候訳旁ニ被為対、此節刀御免被仰付、外ニ御品物被為拝領被下候様奉願候。則御本陣再興ニ付、出来目録写別紙相添、御達仕候間、可燃様ニ被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

渡右衛門儀、父代寛政元年以来、宇土町御本陣相勤居候処、文政十二年類焼いたし候ニ付、銭拾六貫目余拝借被仰付、材木者御山より剪出被渡下候得共、少ニ而茂御難題薄様心懸、八貫目余者、自分才覚を以致出銭、作事夫々出来いたし候処、天保元年宇土山　御狩之御模様付而者、御本陣内所々内作事等、手銭有之候間、猶自勘を以相調、吉田大次郎よりも出銭いたし、御支無之様出来いたし候ニ付、渡右衛門儀被賞、刀被成御免、外ニ御品拝領被仰付候様、達之通候処、右八貫目余之出銭者、官宅之作事と申ニ而も無之、自分居宅ニ而、兼而居住いたし、専一其身弁利ニ相成、出銭いたし候儀者、有内之儀と相聞候由、御横目見聞書之通候へ者、此儀者格別被賞候ニ及申間敷哉。尤御本陣廿四年相勤、天保元年　御狩之御模様付而者、内作事等自勘出方を茂いたし、苗字御免已後茂廿一年ニ相成、三宮社　御社参・泰雲寺　御払詣等、其外薩州・球磨御家中并　公義衆御休泊を茂相勤、致心配候由付、右年労旁を被賞、左之例斟酌を以、作紋麻上下一具被下置候而者、如何程ニ可有御座哉。

但左之例者、一時之出精ニ有之、渡右衛門儀者、数十年致心配候事ニ付、本文之通斟酌之しらへ仕候。

例

文政二年九月　　別当列　　笠屋幸助

閏四月五日申渡

一七二　宇土町御本陣再興御作事出来目録　　（九―二三―一一）

天保二年

宇土町

御本陣再興御作事出来目録

卯

十二月　　宇土町

一　御本陣壱軒　間口七間三合　　伊勢田渡右衛門宅

但

御成間弐間ニ弐間半、御次・御玄関・庭屋迄表口七間・入七間半、御台所・釜屋横三間・入三間半、御間取之儀者、最初絵図面御達申上置候通、御手水所・御通椽四間半、御湯殿・御雪隠九尺ニ弐間半并御次通り椽三間半・湯殿等七尺ニ弐間、惣尾葺しめ出来前。

右建方内作事迄、現入目銭左之通

一銭弐拾九匁　　但再興積方筆紙・墨其外造用共

一同三百四匁弐分　　但大竹四百本買入代、

一同百弐拾五匁　　但大工小屋建方ニ付、藁縄竹代日雇夫賃共

一同六拾壱匁四分八厘　　但切組小屋入等之規式・雑用共

一同六拾五匁五分　　但大曲より船場迄、材木筏廻雇夫賃分

一同弐百拾六匁九分　　但地揚并地形撫雇夫賃、其外共ニ

一同五百五拾壱匁　　但　御成間通以下、ケヤキ材木買入代銭

一同六拾五匁　　但　右同、イチョヲ材木弐本買入代

一同百目　　但松大平物弐挺代

一同九拾弐匁四分　　但柄材木四本四合代

一同六百六拾七匁三分三厘　　但劫小縄兼松煙并板等荒物代

一同弐百三拾四分　　但八寸角土台石弐拾間代銭

一同弐百九拾弐匁五分　　但六寸廻、右同三拾九間代

一同弐百弐拾五匁　　但割石百五拾代

一同五拾壱匁七分　　但砂代持賃共

一同四百七拾壱匁　　但栗石弐拾三坪五合五勺

一同百拾八匁弐分　　但辛竹七拾三束代併葭調代

一同三拾六匁弐分　　但苦竹代

一同拾四匁弐分　　但株呂縄代

一同百五拾弐匁七分　　但勝手通入用材木并小割代

一同四拾壱匁　　但檻天井板六坪代

一同六百八拾壱匁壱分六厘　　但櫃こふる材木買入代

一同百七拾四匁　　但杉皮百拾六坪代

一同四匁五分　　但上渋四升五合代

一同壱貫五百七拾九匁弐厘　　但網田山より材木被渡下候ニ付、杣手間料諸造用共

一同壱貫七百七匁四分七厘　　但網引山より材木被渡下分、杣手間料并其外造用銭共

一同弐百六拾四匁　　但御成間御畳拾壱枚代
一同四百九拾弐匁弐分五厘　但御次より御玄関迄右同断拾七坪五合分
一同三拾三匁　　但窓鉄具代
一同弐貫五百七拾五匁三分弐厘　但土山□(寸)代
一同弐百五拾三匁　　但松橋□(寸)代
一同弐拾七匁五分　　但釘隠九ツ代
一同三拾壱匁八分五厘　但大工・左官ニ元気付造用
一同壱貫三百弐拾匁壱分三厘　但釘鉄物代鍛冶屋渡分
一同八百三拾弐匁　　但白灰代
一同弐百六匁七分壱厘　但ふのり代
一同七拾八匁　　但鯨油代銭
一同百五拾目　　但茶間一式入目分
一同壱貫九百五拾六匁　但諸手伝日雇夫六百五拾弐人、雇賃壱人前ニ付三匁完
一同弐貫五匁五分　　但木挽五百七拾三人、雇賃壱人前三匁五分完
一同七貫五百拾壱匁　　但大工弐千百四拾六人、右同断
一同三貫弐百七拾弐匁五分　但左官九百三拾五人、右同断
一同五百弐匁弐分五厘　但右同手拭分百四拾三人分、右同断
一同五拾壱匁四分壱厘　但棟上ケ規式諸職人祝物共
合弐拾九貫七百弐拾六匁八分八厘
　拾六貫七百七匁四分七厘　御間御銀拝借分
内　四貫九百三拾三匁三分五厘　吉田大次郎殿より出方分
　八貫八拾六匁六厘　　伊勢田渡右衛門より出銭仕候分

右之入用銭ニ而素立より屋根裏内作事・外囲ニ至迄、可也ニ出来仕候処、此上渡右衛門自力ニ而　御成間より御玄関向　御目通分之手入出来兼、既去冬宇土山　御狩之御模様ニ付而　御小休所御支ニ相成申候ニ付、尚又吉田大次郎殿出方申談、御手入仕候入目、左之通ニ御座候。
一銭百五匁　　但大工三拾人、一日三匁五分完
一同弐百四拾壱匁五分　　但左官六拾九人、右同断
一同百八拾九匁　　但手伝夫六拾三人、一日三匁完
一同百拾六匁　　但白灰五拾八俵代
一同弐拾三匁弐分　　但苫弐拾九貫目代
一同三拾目　　但麩のり代
一同八匁五分　　但苧苫松桧代
一同弐拾目壱分　　但腰張紙代
一同三拾八匁四分　　但塵紙代
一同弐拾弐匁四分　　但定形紙代
一同式拾壱匁式分壱厘　但美の紙三百三拾枚代
一同弐匁八分　　但正麩ふのり代
一同三拾六匁五分　　但張付方手間料
一同四拾目　　但障子四枚代
一同百五拾八匁七分　　但御畳代
一同七拾弐匁壱分九厘　但諸雑費分
合壱貫五百弐拾五匁五分
　右之銭辻、去十月吉田大次郎殿より出方ニ相成　御入無　御支様出来仕候儀ニ御座候。
一紙

銭合三拾貫八百五拾弐匁三分八厘
但御本陣惣出来御入目分
右之内
拾六貫七百七匁四分七厘
但御本陣再興ニ付而、御間御銀三拾貫目年賦拝借被仰付候内、本行之銭辻、渡右衛門より拝借仕候分。
六貫五拾八匁八分五厘
但此分吉田大次郎殿より出銭ニ相成候分。
合弐拾弐貫七百六拾六匁三分二厘
残八貫八拾六匁六厘
但此分御本亭伊勢田渡右衛門才覚を以、出力仕候分
右者宇土町　御本陣伊勢田渡右衛門宅再興御作事出来目録相違無御座、相調差上申候。以上
天保二年卯十二月　宇土町　伊勢田渡右衛門家代　恵助
同町丁頭　貞吉
松山小頭　恵七
右御本陣御作事之儀、私共立会取計出来惣御入目等相違無御座候間、雇書印形仕上申候。以上
宇土町横目　宇兵衛
同町別当　沢田善次郎
藤本茂作
松山権兵衛殿
清成八十郎殿

覚
宇土町独礼　伊勢田渡右衛門
右者別紙之趣ニ付、見聞仕候処、渡右衛門儀、宇土町ニ而御本陣御用相勤居、去ル亥ノ年類焼後、再興ニ付而者、本紙書面之通、余計之拝借被仰付、且吉田大次郎寸志銭を茂被渡下候由ニ而、既ニ同人儀者、右寸志之訳ニ因テ、御賞美茂被仰付、渡右衛門茂拝借等之外、八貫目余之出銭仕、追々御宿用相勤、一稜御弁理ニ相成候趣等者、委細書面之通ニ相聞、尤右拝借之外、八貫目余之出銭仕候儀者、官宅と申ニ而茂無之、自分居宅兼而居住仕居、第一其身之弁理ニ相成、出銭仕候儀者有打之儀と茂相聞、左候得者、右大次郎寸志いたし候見合せニ者、些至り兼可申哉ニ承り申候。以上
戌　四月　外山喜助　㊞
一七三　小田久次郎　他　（九―二三―一一）
御内意之覚
郡浦手永御郡筒　小田久次郎
一銭壱貫五百目
但御郡代直触被仰付被下候様。
戸口浦村　久次郎
一同壱貫五百目

但無苗・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

傘・菅笠御免　網田村
儀三郎

一銭三百目

但小脇差御免被仰付被下候様。

一同弐百目完

中村　徳兵衛
同村　又次
網田村　用助
戸馳村　真作
同村　久次郎
同村　茂吉
同村　五次郎
同村　久次郎

但右八人之者共、傘・菅笠御免被仰付被下候様。

右者今度窮民為御取救寸志銭、依頼被召上、夫々上納相済申候間、御賞美筋之儀、右但書之通被仰付被下候様奉願候、此段可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年五月　斎藤三郎

御郡方
御奉行衆中

久次郎儀、寸志高究之規矩ニ相当候間、御郡代直触可被仰付哉。

久次郎儀、右同断ニ付、無苗、御惣庄屋直触可被仰付哉。

儀三郎儀、右同断ニ付、小脇差可被成御免哉。

徳兵衛より久次郎迄八人、右同断ニ付、傘可被成御免哉。

右六月十三日及達。

一七四　糸石玄碩

（九―二二―一一）

御内意之覚

郡浦手永下網田村居住、御郡代直触之医師ニ而病死仕候糸石寿軒養子

糸石玄碩
三十二歳

右玄碩養父寿軒儀、御惣庄屋直触糸石幾右衛門枠ニ而、依願寛政四年変業御免相成、医業心懸能、療治方出精仕、付方之会江も数年無怠罷出候付、文化四年六月苗字御免・御郡代直触ニ被仰付、療治方各別手広出精仕、且難渋之者共へ、施薬を茂仕居候内、病死仕候。右養子玄碩儀、飽田郡銭塘手永方丈村居住、医師緒方玄幾門弟ニ而、医学・経学共稽古仕、去ル天保元年迄十二ケ年滞塾仕、再春館出席等心懸厚相励、親療治懸之ケ所々、不相替出精仕、難渋之者共江施薬を茂多ク、近年不作打続候ニ付ハ、薬礼之儀、時々届兼、中以下之百姓ハ、誠ニ、施薬内蔵ニ御座候。少シ厭不申打廻リ申候間、いつれも相歓、手永之儀遠在不弁利之所柄、右之通、療治方等格別ニ出精仕、所柄一稜之為合ニ御座候間、玄碩儀親同様御郡代直触之医師ニ被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

治験三條

一男子壮年頭頸疼痛三日而、喉内腫痛、不能言語。薬飲不入、苦楚太甚矣。与半夏苦酒湯強而嚥之。忽吐膿血。飲食能納五日而、得復常矣。

其二

一産後続感冒、肌熱盗汗、咳嗽頭目昏、痛身体疲痩、脉浮而無力、与人参散、二七日而諸症皆癒。三七日而復常矣。

其三

一男子歳六十余、毎至冬月則必患痢裏、急後重小腹彎、痛与小健中湯、十日余而全癒。已後無再患矣。

糸石玄績

覚

糸石玄績

右者、治療学業篤志ニ有之候様子、見聞仕候。則同人付方并治験相添、御達仕候。以上

五月　　桑満伯順 ㊞

田中元勝 印

選挙方

御奉行衆中

病案

傷寒論　菌蔯蕷湯之証

病人頭汗出、身無汗。剤頸而還小便、不利渇引。水漿者此瘉熱在裏。　可　白虎湯

仝前

吐利止而身痛、未休者、当消息和解其外

破的　桂枝湯

金匱要路　葵子茯苓散之証

妊娠有水気、身重小便不利酒淅、悪寒起即頭眩

可　苓桂木甘湯

糸石玄績

覚

郡浦手永下網田村居住、御郡代直触医師ニ而相果候糸石壽軒養子

糸石玄碩

右者医師業吟味役上達書之趣、科目照合候処、私共見聞之趣同様御座候間、別段御達仕不申候。此段御達仕候。

右之通ニ御座候。以上

六月　　田代元兵衛 印

江村晾具 ㊞

平橋宗程 印

玄碩儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合候処、治療学業篤志ニ有之候由ニて、再春館御目附より茂見聞、右同様之由、別紙達之通ニて、科目丁科ニ相当申候処、御郡代より ニ者、親同様御郡代直触被仰付候様、達之通ニ御座候得共、数代医業之家ニ候へ共、右科目ニても、親同様被仰付見合有之候処、玄碩父糸石寿軒者、御惣庄屋直触之枠ニて、医業ニ相成候者ニて、家柄之訳も無之候ニ付、玄

碩儀科目相当見合之通、苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。

右六月十三日及達。

覚

郡浦手永下網田村居住、御郡代直触之医師ニ而病死仕候糸石壽軒養子

糸石玄碩

右者、親跡相続、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、医業心掛能、相応ニ者、療才茂有之候様子ニ而、近村之次第ニ病家向相増候由之処、廻診等貧福之無差別療治方、懇ニ相届、療治掛之内ニ者、貧民等ニ而謝儀届兼候者茂不少候由ニ而、其分者施薬ニ茂相成候趣ニ而、彼是所柄為合ニ相成候儀共、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

戌五月　外山喜助　㊞

一七五　上田藤吉

（九―二二―一一）

御内意之覚

郡浦手永下網田村居住　御郡代直触ニ而病死仕候。上田要右衛門養子

上田藤吉

三十八歳

右藤吉儀、人物宜敷、筆算等も可也ニ仕、養父要右衛門庄屋在勤中代勤をも相勤、武芸之儀兼而心懸厚、出精いたし、炮術藤崎太右衛門・剣術小崎平八門弟ニ而稽古仕、養父上田要右衛門儀、天明五年親跡下網田村庄屋役申付、天保二年十二月迄前後三十二ケ年相勤申候処、及老衰、役儀勤兼候付、差免申候。尤同人儀、寛政四年津波之節、寸志差出候付被為賞、御郡代直触ニ被仰付候事。右之通養父三十二年役方出精相勤、且藤吉儀、惣体手全成者ニ御座候間、親跡相応差出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

御直触上田要右衛門儀、天保五年病死仕、則其節御達申上候通ニ御座候。右跡目之儀、其砌早速奉願筈之処、養子藤吉儀、継目寸志差出、養父同様御直触相続支度、内望御座候内、病災等打重、寸志調達出来兼、免哉角押移、跡目申立、延引仕候段、奉恐入候。何分宜被被付可被下候。此段覚書を以申上候。以上

天保九年五月　郡浦新五左衛門　㊞

斎藤三郎殿

藤吉儀、達之通ニ付、御郡代直触、諸目見合之通、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

但申立延引ニ相成候訳者、御惣庄屋書付之通ニて、外々煩敷子細も無之様子ニ付、外々ニも見合御座候付、其侭可被容哉。

右六月十三日及達。

覚

郡浦手永下網田村居住、御郡代直触ニ而病死

仕候。上田要右衛門孫養子
上田藤吉

右者、親跡相続別紙之趣ニ付、見聞仕候処、正道成人物ニ而行状等吳候唱、承り不申候。尤養父勤年数之儀者、天明五年より下網田村庄屋役相勤居候由之処二十ケ年目、文化二年差免被相成、文政三年猶又庄屋帰役申付ニ相成、天保二年迄十二ケ年相勤、都合全勤三十三ケ年と相聞申候。以上

戌
五月　　外山喜助　㊞

一七六　神尾三伯　他

（九―二三―一二）

御内意之覚

宇土町居住、御郡医師
神尾三伯
五十七歳

右三伯先祖以来、数代医師相談之家筋ニ而、祖父代より不相替御扶持方被下置、御郡医師相勤、当代三伯儀者、文化七年家業心懸能、療治方出精、且被対寸志之訳三人扶持被下置、御郡医師被仰付当年迄二十九年相勤、療治方手広出精仕候ニ付、既ニ文政十二年被為賞、作紋衿御羽織一ツ被下置候処、其後猶又出精仕候次第、左之通

一療治懸之村数五拾弐ヶ村

松山手永ニ而、江部・築龍・松原・馬瀬・馬場・城神山・岩熊・布古閑・曽畑・上古閑・佐野・三日・立岡・古保里・善道寺・境目・松山・下松山・伊無田・小曽部・柏原・御領・高良・塚原・笹原・笠岩・網津・下網津・大口・大見・松合・永尾

郡浦手永ニ而、長崎・下長崎・浦上・神山・神原・栗崎・石橋・宮庄・飯塚・椿原・恵里・伊津野・城塚・新開・下新開・網引・長濱・郡浦・波多・三角

一右同宇土御家中数拾軒、宇土町数百軒

右之家数五百竈、病人数六百人余有之候段申出候得共、内輪之しらべ前ニ而、現実相糺申候ハヽ、余計ニ相増申候由ニ御座候。

右之通兼而療治方手広、殊ニ数年出精仕、功熟ニ有之、就中血道療治之儀者、家伝も有之由、大病之節ハ、遠近之医業より立会、療治之儀、必多度頼来候ニ付、次第ニ手広相成、当時之療治懸り、前条之通ニ而、流行病ハ別段ニ而、右懸り町在之内ニハ、格別零落所も多、施薬同前之療治勝ニ而、去ル子ノ秋以来者、下方別而難渋強ク、一昨年者猶更ニ而、飢寒凌兼候者多、漸種々仕法を以取続申候位之儀ニ御座候へハ、疫病其外流行病も多有之候処、昼夜之無差別三伯儀打廻リ候ニ付、施薬之人数等、御惣庄屋共より承合候而も申出も不仕、太体療治懸りの病人之内、三ヶ一位ハ全施薬ニ相見候段申出、惣体薬品等も入念、価茂厭不申、急度功験御座候間、諸人一稜之為合相成申候。

一松合村之儀、数度之大火・風災等打続、亡所同前ニ罷成、去ル天保二年十月以来、疫病流行夥敷、都合千八百人余相煩候内、弐百弐拾人ハ病死仕候程之儀ニ御座候処、右村医師療治方差支、四人之内、両人程疫病相煩、当惑仕候様子ニ付、神尾三伯以下医師数人差出候得共、其内ニハ疫病伝染仕候者も有之、病人ハ日増多相成、既ニ松合村医師四人之内、両人ハ疫病ニ而病死仕、跡両人も

伝染ニ而打臥居候位ニ而、一流之医師療治方不進ニ相成候ニ付、前条三伯儀粉骨を尽シ差はまり、疫病之臭気強ク御座候得共、少シも厭不申、増々手厚ク療治仕候ニ付而ハ、村方之もの共、いつれも相歓、看病其外世話筋も行届、漸々快腹仕候由、偏ニ三伯働ニより候儀と奉存候。

一宇土町之儀も、去ル天保三年夏より疫病流行仕、次第ニ増長いたし、市中ニ而都合家鵜五百人程相煩候内、百人程者病死仕、新町と申所ハ、兼而零落・飢寒凌兼候程之者多有之候所柄ニ而、殊ニ去ル子年以来ハ、凶作打続、粮物高直之上、流行病多、就中三ケ日と申所ハ、四拾軒欤無残相煩、専ラ三伯別段手厚ク療治仕、薬礼等受可申様も無御座、竈数四拾軒ニ而施薬数壱万千八百八拾貼ニ而御座候。

右之通、今年迄二十九年無懈怠相勤、市在手広、貧福之無差別、昼夜手厚ク出精仕、松合村・宇土町疫病流行ニ付而者、身命を抛候働茂有之、加之宇土町之儀者、宿駅ニ付、兼而薩州・求摩通行之病用ニ茂罷出、其外　公義衆御休泊之津も出役いたし、家業筋ハ勿論、其外療治方等心を委せ、於所柄ハ先ハ格別ニ出精仕、誠ニ功熟医師ニ御座候間、何卒進席罷仰付被下候様。

松山手永笹原村居住、御郡医師並

柘植桂淳

五十四歳

右桂淳祖父以来医業之家ニ而、先代依精勤、御郡医師並ニ被仰付、桂淳義者、文化八年家業心懸能、療治方手広ク出精仕候旨ニ而、祖父同前御郡医師並ニ被仰付、今年迄二十八年無懈怠療治方、増々手広出精仕候稜々、左之通

一療治懸竈数七百八拾五軒、此村数拾壱ケ村、松山手永ニ而笹原村七十軒、笠岩村百三拾軒、網津村九拾五軒、下網津村八拾軒、郡浦手永ニ而網津村百軒、城塚村六拾軒、伊津野村五拾軒、鶴見塚村弐拾三軒、恵里村四拾軒、新開村七拾七軒、下新開村五拾軒、右之外、銭塘手永弐町・八町・弐拾町三ヶ村并郡浦手永長濱村江も療治ニ罷越申候。

一新開大曲川筋江兼而入津仕申候御米舟并商船共病用者、都而桂淳より療治仕来申候。

右之通手広療治仕、流行病等有之説者、別段ニ而平常之病人之数一ケ年撫シ九百人余ニ而、右懸村々之儀ハ、零落之ケ所勝ニ而、難渋者多、施薬又ハ施薬同様之療治仕、去ル子ノ年以来凶作打続、在中難渋強ク去年以来ハ、別而困窮打重リ、飢寒ニ通申候もの多御座候得ハ、諸流行病相増シ、昼夜無差別打廻リ、骨折格別御座候得共、謝礼等も至而纔計之由ニ而、内輪難渋之綾も御座候付、御惣庄屋より施薬人数等、内密承合申候而も申出も不仕、難渋者相煩候段承候へハ、手前より罷越、診察いたし、跡ハ奉公人、鰥寡、孤独者抔相煩、施薬ニ罷越候得者、病症次第ニハ、其者を自身宅江留置、薬用仕セ候様之取計も、間々有之、将又兼而病家数十軒打廻リ候ニ付而ハ、日々及暮或ハ深更ニおよび罷帰候儀も多、其外風雨暑寒之無厭、藁鞋かけニ而打廻リ、第一急病等之節ハ、尻軽ク罷越候ニ付而ハ、次第ニ療治向キも手広ク相成、格別貧民之為合ニ相成申候。

一松合村之儀、去ル文政二年十月以来、疫病流行夥敷、都合千八百人余相煩、不一形難渋之次第ハ、委細神尾三伯身分御達仕候書面之通ニ而、烈敷折柄ハ虫役等申付、外ニ医師中も伝染、亦病死仕

候段位ニ而、一村中臭気強ク御座候得共、少シも厭不申、日夜数百人之診察いたし出精仕候。

右之通療治方格別精勤仕、其上祖父以来、本道、外科兼、山付在石工数も余計ニ居申候所柄ニ付、不慮之怪我等も多御座候処、外科兼候間、至而弁利ニ而速ニ怪我等も平諭仕、惣体篤実ニ生付而前条之通昼夜深切ニ病家打廻り、心懸厚ク、最早当年迄二十八ヶ年之間、御普請場所、其外御郡並之勤方を初メ、彼是出精仕候間、独礼進席被仰付被下候様。

松山手永馬場村居住、御郡代直触医師

金田亀齢

四十一歳

右亀齢先祖代々医業之家筋ニ而、曽祖父・祖父代迄八、在医ニ而居候由。父松栄儀、文化四年御郡代直触ニ被召出置候処、病死仕候ニ付、亀齢儀、文政二年苗字御免・御惣庄屋直触ニ被仰付、其後天保二年十二月家業心懸能、療治方手厚ク、貧福之無差別、厚ク心を用、出精仕、且又立岡堤掘添之節罷出、療治方出精仕候旨ニ而、御郡代直触ニ、進席被仰付、親跡相続被仰付候以来、当年迄十六ヶ年療治方出精仕候次第、左之通。

一療治懸之村町弐拾三ヶ所、神山村・神原村・浦上村・両長崎村・栗崎村・石橋村・宮庄村・両椿原村・飯塚村・両恵里村・両新開村・伊津野村・竈見塚村・高良村・御領村・城神山村・馬場村・松橋村・宇土町・外ニ宇土御家中

右之通家業心懸厚、近郷市在病家向キ、簡易ニ而尻軽ク打廻り、出精いたし、一体生得手全ニ有之、療治向キも、次第繁昌仕、再春館出席も無怠慢医術熟練いたし候間、何卒屹ト被為賞被下候様。

宇土町居住、歩御小姓列

松田三成

四十五歳

右三成養父松田三淳儀、八代御郡代直触医師松田三達弟ニ而、明和八年宇土町入医仕、本道・外科を兼、療治方出精仕、平日心懸宜敷、所柄之為ニも相成候旨ニ而、安永二年七月宇土御郡代直触ニ被召加、其後寛政二年療治方出精、且寸志之訳ニ而、御郡医師並ニ被仰付、文化元年寸志之訳ニ付而、三人扶持被下置、文化七年家業志厚出精仕、数年施薬をも仕、且寸志をも差出候ニ付、御目見医師ニ被仰付置候処、同十三年病死仕候。然処右三成儀養父三淳より文化十三年十月為継目寸志銭三貫目差出置候処、文政二年八月家業心懸能、病用手全出精仕、且養父三淳寸志之次第ニ而、弐人扶持被下置、歩御小姓列ニ被召出、今年迄二十年療治方出精仕、家法之製薬等、貧民江施シ、将又御参勤之節々、龍虎丹差上、其外稜々左之通。

一龍虎丹弐百貼

但文政四年松山・郡浦両手永辺鄙之村々、貧窮之者共江、急病等之節取用候ため差出置、其節々村々配当仕候分。

一玄妙散百貼　熊胆丸五拾貼

但文政五年八代麓川御普請之節、出夫之者共江為気付差出候分。

一玄妙散三百貼　萬能膏拾貼

但文政九年走潟新地御普請之節、出夫之者共江為気付差出候分。

一龍虎丹円拾貼　熊胆丸五貼　玄妙散五拾貼

但文政十一年郡浦手永波多村新地出夫之節、右同断。
一龍虎丹拾貼
但文政十二年大水理御普請出夫之節、右同断。
一龍虎丹弐拾七貼　熊胆丸弐拾七貼
但天保五年松山手永窮民江毎年施薬仕候分。
一龍虎丹五拾弐貼　熊胆丸五拾弐貼
但天保六年、右同断。
一龍虎丹八拾壱貼　熊胆丸八拾壱貼
但天保七年、右同断。
龍虎丹合三百八拾壱貼　玄妙散合四百五拾貼
熊胆丸合弐百拾四貼　萬能膏合拾貼
右之通分政四年以来、追々施薬ニ仕候分。
右之外宇土町之儀者、宿駅ニ而往来之旅人相煩候節、又者病人継送候節、追々施薬仕候様子ニ御座候得共、委敷相分不申。
一龍虎丹七百貼
但文化十四年二月、本行之通貼数、　御参勤之節、御供中江為気付差出申度、養父三淳より奉願、差出来申候。
一同七百貼
但文政四年、右同断
一同七百貼
但文政六年、右同断
一同七百貼
但文政八年、右同断
一同七百貼
但文政十年、右同断
一同五百貼
但同年、右同断
一同七百貼
但文政十二年、右同断
一同七百貼
但天保二年、右同断
一同七百貼
但天保四年、右同断
一同七百貼
但天保八年右同断
龍虎丹合六千八百貼
右之製薬差出候儀、養父三淳代より之儀ニ而、三成相続被仰付候以来、不相替差出申候。三成儀、当時療治懸之家数弐百軒余、病人数五百人余ニ而、最早廿年無怠慢家業出精仕、数年之施薬、貧民取救、殊ニ宇土町之儀ハ、宿駅を受、自他之通行、病用も多、昼夜之無差別、出精仕、纔之儀とハ乍申、御参勤之節々、製薬数年之間差上、被是格別之者ニ御座候間、同年独礼進席被仰付被下候様。

松山手永佐野村居住、御郡代直触医師
浦上真壽
六十三歳

右真壽と申者之祖父真庵と申者代、天明六年十二月宇土御郡代直触ニ被召出、右真壽儀、文化八年御郡代直触ニ猶又被行付、当年迄弐拾八年療治方出精仕候処、近年病気相成、病家打廻り、存分ニ出来兼候間、当時者悴浦上茂儀専ラ出精仕、兼而療治懸之

村々松山手永ニ而、佐野・三日・立岡・古保里・曽畑・上古閑・松山・境目・布古閑、河江手永ニ而古保山村、都合十ヶ村、其外村々臨時ニ罷越候儀茂有之、病人数千人余、施薬之人数百人余ニ而、当年迄二十八ヶ年出精いにし、療治懸之村々も多、近年病気罷成候ニ付而ハ、悴茂儀親名代として、昼夜格別心懸厚ク貧福之無差別打廻り、一稜諸人之為合ニ相成候間、何卒父子之志被為賞被下候様。

松山手永下網津村居住　御郡医師並

西元章

六十九歳

右元章先祖西甫格と申、元文五年御郡奉行直触被召出、寛保四年御郡医師並ニ被召直、安永三年依願御免相成、同年元章父梅壽儀医業心懸能療治方手広出精仕候旨ニ而、御郡医師並ニ被召出、享和元年病死仕候処、右元章享和三年家業心懸能、療治方出精仕候旨ニ而、親跡御郡医師並ニ被仰付、当年迄三十六年療治方仕懸之村々網引・網津・笠岩三ヶ村ニ而、家数弐百軒、病人数六百人余、其外近郷より有打頼来候病人百八拾人余、且家伝之療治方ニ付、遠在より頼来候病人百人余ニ而、旅船・旅人之療治方も六十人余有之、別而去春以来物貰体之者ニ、施薬をも五拾人余仕候由而、曽祖父以来元章之四代医業仕、相続いたし候而、当年迄三十六年出精仕、療治懸之村々、為合ニ相成、殊更近年一統不作ニ付而ハ、施薬勝ノ療治多御座候処、昼夜心懸厚打廻り、最早及老年申候ニ付、何卒相応被為賞被下候様。

右之通、神尾三伯以下之医師身分御達仕候間、いつれ茂重ク被為賞被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

三伯儀、文化七年家業宜、且寸志之訳旁ニ被対、御郡医師被仰付候以来、二十九年ニ相成、療治方手広致出数、既先年松合村并宇土町疫邪流行付而者、夥敷病人ニ而候処、差はまり出精いたし、近年凶作打続候ニ付而者、薬礼を茂滞、余計之薬絶薬ニ相成候由ニ付而進席被仰付被下候様。達之通ニ付、家業之様子、医業吟味役江及問合候処、治療・学業共篤志ニ有之由。再春館御目付見聞之趣も同様ニて、科目丁科ニ相当申候右科目ニ而者、進席ハ難被仰付、其上御郡医師ニ者、進席被仰付見合無之、旁進席之儀ハ、見合可被置哉。尤右之通手広出精いたし候事ニ付、例も有之候間、金子弐百疋可被下置哉。同人儀、文政十二年療治出精且立岡堤掘添之節、出役出精ニ付而、作紋衿羽織被下置候以後、十年ニ相成申候。

例

川尻町御奉行支配

合志大春

天保五年四月

桂淳儀、文化八年御郡医師並被仰付候以来、二十八年ニ相成、療治方手広出精いたし候由。達之通ニ付、医業吟味役江問合候処、治療習熟、学業篤志有之由、

再春館御目付見聞も同様ニて、治療者科目丙科ニ相当申候。右之科目ニてハ、御郡医師並十二・三年以上ニて、独礼被仰付見合有之候間、桂淳儀、独礼可被仰付哉。

亀齢儀、達之通ニ付、医業吟味役江及問合候処、治療・学業共、篤志有之由、再春館御目付見聞之趣も、同様ニ有之、科目丁科ニ相当申候。右之科目ニて、三十五年以上ニて無御座候而者、進席ハ難被仰付、前賞より者、十年ニ相成、療治方之様子も各別手広と申ニても無之候間、此節者被賞之儀、見合可被置哉。

三成儀、文政二年家業出精、且寸志之訳旁被対、歩御小姓列被召出候以来、二十年ニ相成、療治方出精いたし施薬をもいたし候付、独礼被仰付候様。達之通ニて、医業吟味役江及問合候処、治療・学業共、篤志ニ有之由、達之通ニて、再春館御目付見聞之趣も同様有之、科目丁科ニ当、右之科目ニて者、進席ハ被難被仰付儀御座候。然処窮民其外御普請出夫なと江、家法之製薬数年施薬いたし候貼数千貼余、御参勤御供中江為気付、養父代より差出候龍虎丹六千貼余ニ及候付而者、無味ニも難被差置可有御座哉。左之側ニより、作紋羽織ニても可被下置哉。尤右為気付差出候龍虎丹者、御供中江配当ニ相成候儀ニて、貧民江無謝礼施薬いたし候と者様子も違無とも、事済可申品とも相見候得共、其身より之出方ハ、相替儀無之事ニ付、三成儀作紋単羽織一可被下置哉。

例

川尻町御奉行直触　　清田言物育之医師

文化二年十二月

真壽儀、文化八年御郡代直触被仰付候以来、二十八年相成、療治方出精いたし候由、達之通付、医業吟味役江及問合候処、治療習熟・学業篤志ニ有之由、再春館御目付見聞之趣も同様ニて、科目丙科ニ相当、此科目并年数ニて者、進席被仰付候而も、可然儀ニ御座候処、近年病気ニて、充分之廻診出来兼、忰名代として打廻候由ニ付、自身専ら手広出精いたし候もの、同様の御賞美者難被仰付方ニ可有御座哉。御郡代直触等之医師江者、多ハ初賞銀三両被下置事ニ御座候処、真壽儀、科目も宜敷、進席をも可被仰付哉之地位ニ至居候事ニ付、銀五両程も可被下置哉。

但父子之志被賞候様、達之通御座候得共、茂儀父を助、名代ニ療治いたし候事ニて、いつれ之医生も同様の事ニ可有御座候間、被賞ニ者及申間敷と奉存候。若別途之稜目も有之、猶申立之趣も有之候ハヽ、其節及僉議可申候。

元章儀、享和三年御郡医師並被仰付候以来、三十六年ニ相成、療治方出精いたし候由ニ付、医業吟味役江及問合候処、治療習熟いたし、老年ニ相成候而も、療治方手厚致出精候由、再春館御目付見聞之趣も、同様ニ而、科目丙科ニ相当申候。右科目ニて者、進席被仰

付見合ニ御座候処、申立ニ進席之願も無之、且御郡御目附付御横目より之達書面ニも、療治方各別手広と申程ニ者無之由ニ候得共、被召出候而三十六年ニ相成、科目も右之通ニ有之候付、独礼可被仰付哉。

例

田浦手永御郡医師並　大塚清眠

天保元年十二月

右之通七月十一日奉窺、同廿五日申渡、且沙汰。

覚

宇土町居住、御郡医師　神尾三伯

松山手永笹原村居住　御郡医師並　柘植桂淳

同手永馬場村居住　御郡代直触医師　金田亀齢

宇土町居住　歩御小姓列　松田三成

松山手永佐野村居住　御郡代直触医師　浦上真壽

同手永下網津村居住　御郡医師並　西元章

右六人身分別紙之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂家業心懸能、貧富之無差別療治方出精いたし、就中三伯・桂淳・亀齢三人儀者、手広療治方有之、松山手永ニ而者、先ツ篤医之由。真壽儀者、近年病気ニ罷成、療治向奔走等、思わ敷出来兼、当時之処ニ而者、悴茂儀心懸深切ニ尋向等ニ打廻り、父子申談、療治方仕候由。三成・元章儀者、平常療治方格別手広と申程ニ者無之由。尤三成儀者家製の龍虎丹、去ル文政四年以来、年々施薬仕所柄者勿論、貧民之類者別而、為合相成候由。其外近年不作続キニ付而者、何れ之面々より茂、貧民等江広薬遣シ候於者、多ク謝礼相滞リ、其分施薬之形ニ相成居候由。且勤年数等之儀、孰茂本紙書面之通ニ相聞申候。以上

戌　四月　岩佐慶次郎　印

一七七　卯八　（九―二二―一二）

御内意之覚

一銭五百目　銭塘手永　小岩瀬村　卯八

右者、二御丸御修覆御手伝寸志銭として、右之通納方相済申候間、小脇差・傘・菅笠被成御免被下候様。

一銭弐百目完　銭塘手永　東走潟村　丈右衛門　同村　只右衛門

同村　惣吉
同村　忠助
銭塘手永　弐拾町村　両助
同村　茂七
同村　米助
同村　直助
同村　善助
同村　甚平

右者前条同断納方相済申候間、傘・菅笠被成御免被下候様。右之通御内意仕候条、夫々宜敷被成御参談可被下候。以上

八月　飽田　御郡代

御郡方
御奉行衆中

卯八儀達之通ニて、寸志高究之規矩ニ相当候間、傘・小脇差可被成御免哉。

丈右衛門以下十人右同断ニ付、傘・菅笠可被成御免哉。
右之通八月廿七日及達

一七八　幸平

（九―二二―一二）

御内意之覚

郡浦手永下網田村　幸平

一銭弐百目

但傘・菅笠御免被仰付被下候様

右者窮民取救為御手当、寸志銭依願被召上、上納相済申候間、乍恐但書之通御賞美被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

戌八月　斉藤三郎　御郡方

御奉行衆中

幸平儀達之通ニて、寸志高究之規矩ニ相当申候間、傘・菅笠可被成御免哉。
右之通八月廿七日及達

一七九　松山徳七

（九―二二―一二）

御内意之覚

松山手永御惣庄屋　松山徳七

四十七歳

右徳七儀、文化十二年四月、玉名郡中富手永下千田村庄屋役、文政二年十月同手永持松村庄屋兼勤、文政三年五月右両村庄屋持懸ニ而、同手永見扨役申付候ニ付、在勤中御郡代直触被仰付、同四年四月同手永奥永在零落所八ヶ村、人畜増殖受込兼勤申付、文政十二年七月右役々差免、小田手永御山支配役被仰付、山北在五ヶ村惣見扨并両白木村・西安寺村庄屋後見を兼勤申付、櫨方御仕立、櫨楮見扨役も仕、天保三年四月山鹿手永御山支配役所替被仰付、同年八月阿蘇郡坂梨手永御惣庄屋并御代官兼帯被仰付、御知行弐拾石被下置、相勤居候処、天保五年五月南郷高森手永江所替被仰付、同手永在勤中年々御知行高拾石分之御物成被下置、精勤仕居候内、天保八年五月宇土郡松山手永江所替被仰付候。

一庄屋役并手永見扨零落所受込等打混年数十四年、御山支配役三ヶ年、当御役七ヶ年、都合弐拾四年相勤居申候。

右之通数年出精相勤、稜々之功業も有之、庄屋役等在勤之内ニ者、洪水荒地開明且旱田所養水之仕法立等厚ク心を用、新堤掘方等奉願、分水之仕法を茂相立候ニ付、其功験を以、弁理を得候ヶ所も多ク、其上中富手永之内、零落所成立之仕法立等ハ、格別ニ心を用、種々取扱誘立候ニよって、一致ニ農力を得、御年貢払等励合、当時外村々並程ニ立直シ候村方も有之、御山支配役左勤中ニも、小田手永御山藪ニ杉、桧数万本植立、其外新御在立之ヶ所々手入方等、格別ニ示方行届候ニ付、其後御山繁茂之ヶ所々も有之、将又同手永山北在零落所庄屋後見中、徳七誘立ニ付、小前々相競、御年貢払をも速ニ相成、なり立之験屹ト相見、右之外坂梨手永御惣庄屋在勤中ニも、川幅掘広、水害除之仕法を立、種々力田ニ心を懸シ、且御備米銭増殖之儀等、手厚ク仕、高森手永江所替被仰付候後者、霾害等種々之変災打続、無類之凶荒ニ而、零落ニ陥候村方多、諸拝借等余計之儀ニ御座候処、夫々ニ返納方之仕法を立、且連々拝借滞ニ相成居候御囲籾を仕解之筋を付、彼是同所在勤中者、格別ニ分骨を砕キ、出精仕候。其外稜々ハ、則別冊郡浦新五左衛門より差出候書付之通御座候。前末庄屋役以来ハ、最早二十四年精勤仕、いつれ之稜々も心懸厚ク、功積も御座候間、此節自分苗字御免被仰付、猶先勤以来之功労被為賞、御品物ニ而も被下置候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年二月　　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

徳七儀、当役七年ニ相成、庄屋以来者、二十四年ニ相成、零落之村々成立之仕法等、従来心配いたし、功業も顕し、各別出精いたし候付、自分苗字被成御免、庄屋以来之功を被賞、拝領物を茂被仰付候様達之通ニ御座候。御惣庄屋自分苗字御免之儀ハ、十五六年位ニて被成御免、十年内外又者各別能之功蹟等ニより候而者、七八年ニ而被成御免候見合も有之、左之例書之内、松山権兵衛儀者、苗字御免之上、御知行増之儀も申立有之候処、各別之者ニ付、上等之科を以、七年目苗字御免可被成と僉議相済候上、及再議、猶作紋帷子一被下置候。徳七儀者、権兵衛同等ニ者難論有之哉ニ相見候処、庄屋以来之功蹟等取結候へ者、普通之御惣庄屋ニ者難比相見申候間、銭

塘平右衛門儀ニ因り、自分苗字可被成御免哉。
但本文之通ニて、此上ニ者難被賞、拝領方ハ及僉議不申候。
例
天保四年八月　松山権兵衛
天保元年八月　銭塘平右衛門
右之通八月廿八日申渡。

覚

松山手永御惣庄屋　松山徳七

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、多年御役前心懸能、庄屋并御山支配役在勤之中、村方零落成立之仕法、且御山藪仕立方等茂、厚ク心配いたし、坂梨・高森両手永御惣庄屋在勤中茂、諸事厚心を用、精勤仕、就中高森会所御用銭并御囲籾等、村々より之拝借、同所歩入所延、両替等之儀茂、莫太之銭辻返納方紛雑ニおよび居候由之処、夫々返納等之成行相捌キ、将又御免割帳之儀茂、去ル文政六年以来、外手永ニ相異候手数ニ為有之由之処、是又外手永同様之手数ニ旧復仕せ、前条会所御用銭・御囲籾等之儀者、遂年備増ニ相成、被是格別出精いたし候由。尤高森手永在勤中畑在村々、御年貢上納之内、依頼六百石完、翌夏菜種子引当ニシテ、延上納之仕法組立ニ相成居候儀有之候処、右者彼方菜種子之儀者多ク隔年ニ作実出来仕候由ニ而、例年定規ニ上納を延、翌夏之取立方ニ付而者、内輪些と組立之通被行兼候綾茂有之由ニ付、永続仕候儀、何程ニ御座候哉。其外庄屋役以来、勤年数旦功業等之次第、委細者本紙書面之通ニ相聞申候。以上

戌
七月　岩佐慶次郎　印

一八〇　貞平列六人　他

（九―二二―一二）

御内意之覚

松山手永曽畑村
貞平列　六人
同村勘助列　三人
同村　茂左衛門

一粟弐石四斗
一大麦七斗六升
一銭百目

右者去秋凶作ニ付而、当春以来民喰難渋ニ付、右之ものともより村内至貧之者共江相対取救として配当仕候分、乍聊奇特之儀ニ御座候間、相応之御賞祠被仰付被下候様有御座度奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

十一月　斉藤三郎
御郡方
御奉行衆中

貞平列以下達之通ニ付、見合茂御座候間、御間承届之及達可申哉
右之通九月三日及達

覚

松山手永曽畑村貞平列六人・同村勘助列三人・同村茂左衛門、右之面々より、一昨秋凶作ニ付、去春以来粮物無多年候ニ付而者、貧民相対為取救粟・麦・銭差出別紙之趣ニ付見聞仕候処、村方至貧之者難渋之厚薄を見撫シ、庄屋手元より夫々及配当候由、本紙書

面之通ニ而、凶年柄乍聊奇特之儀共々相聞申候。以上

戌
四月　　外山喜助

一八一　市兵衛　　（九―二三―一二）

御内意之覚

郡浦手永下網田村居住、無苗御惣庄屋直触ニ而病死仕候。御牧馬医市三忰

市兵衛
二十六歳

右者下網田村市兵衛儀、祖父幸八と申者、宇土御牧付馬医相勤、在勤中小脇差・傘御免ニ相成、精勤仕候処、病死いたし候ニ付、幸八忰市三と申者、明和八年正月親跡牧付馬医相勤、御牧方御用無懈怠出精仕、廻村々牛馬療治方等手広いたし、所柄之為合ニ相成申候旨ニ而被為賞、享和二年三月無苗御惣庄屋直触被仰付、相勤居申候処、病死仕候。右市三忰市兵衛儀、初年より宇土町馬医宇田弥作弟子ニ罷成、馬医術出精仕、療治方等心掛能、祖父代より療治掛り之村々、網田・下網田・戸口・網引之内・網津之内五ヶ村程受持、其外平日病牛馬之ヶ所々江八、自勘ニ而施薬等仕、所柄之為合ニ相成申候ニ付、去ル天保二年御牧馬医見習申付置、追々御用之節々罷出、療治方等茂習熟仕、御牧方一稜為合ニ相成申候間、親市三跡御牧付馬医申付度奉存候間、親同前在勤中小脇差、傘御免被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被御参談可被下候。以上

天保九年五月　　斉藤三郎
御郡方
御奉行衆中

市兵衛儀、親跡御牧付馬医被申付度由、達之通ニ付、在勤中小脇差、傘可被成御免哉。

右之通九月十一日及達。

覚

郡浦手永下網田村居住、無苗御惣庄屋直触ニ而病死いたし候御牧馬医市三忰

市兵衛

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、馬医業心懸能、祖父代より請持之村々療治いたし、且御牧御用ニ茂、追々罷出候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

戌
八月　　河野子次右衛門印

（天保十年）

一八二　郡浦新五左衛門　　（九―二三―一）

御内意之覚

郡浦手永御惣庄屋

郡浦新五左衛門
四十歳

右者、文化十二年代役被仰付、文政三年御惣庄屋相続被仰付、代役五年本役十八年都合二十三年、無怠慢精勤、水旱之災害を坊、勧農力田ニ基キ耕作之気候取失不申様、無油断朝夕心を用、相誘出精仕、代役之内、長濱村新地出来之節、御上下一具被下置、其外八代七百町御新地出来之節、独礼も被仰付候得共、代役以来之功績之稜々、左之通ニ御座候。

一堤三十五ヶ所　内弐十弐ヶ所新堤、拾三ヶ所古堤、掘添并浚方、右いつれ茂水保方宜敷、養水ニ相成申候ヶ所之儀者、別冊相添置候通ニ御座候。

一新井手壱万七千四百間余　井出幅六間以下

一菜・麦畝百町程

右者前々より水気強ク沼地等ニ而、一毛作仕来候ケ所々、新井手出来後、乾地ニ相成、跡地仕付候分。大略本行之通。

一養水懸リ三百町程

右者、養水乏敷、且引水届兼、年々旱田仕候ヶ所々、新堤、新井手立等を以、養水仕候畝方、大略本行之通。

一井樋二十六ヶ所

右者水吐悪ク、作毛水損仕候ヶ所々、戸前を広メ、且土台堀下ヶ仕据エ候ヶ所も有之、いつれも弁理ニ相成申候。右之内前越村井樋所之儀者、土台弐尺程、岩を堀下ヶ、目鏡橋ニ御普請仕候処、水吐キ宜敷相成、水損之害薄ク、荒地をも開キ明ケ、追々者、相応之徳米相納リ可申見込御座候。是又、別冊ニ委敷相分居申候。

一御免方輔助米備之事

右者、郡浦手永之儀、一歩半米等之御備手薄ク、既ニ他御郡より越拝借をも被仰付置、受免永続之見込無之、独立之趣意被行兼候ニ付、輔助備之儀、種々仕法立仕候得共、兎角相備リ兼候内、新左衛門重々心魂を砕キ、前々より沼地等ニ而、一毛作之田方者、水気抜キ井手立等之仕法を以、菜・麦作り付而已ならす。秋作之出来・取実茂宜敷相成、水懸リ悪ク干損之患有之ヶ所々者、堤或ハ水取井手立等仕法相立、養水之弁理を得、以前持扱候程之難渋地、却而徳田と相成、近年ニ至リ候而ハ、農力有之候者、年々相集り、作徳を得候ニ付、間ニ者価を以難得程之良田と相成候畝方も有之、旁土貢之釣合も公平至当いたり兼候得共、平均と申儀者兎角同様ニハ難被行候ニ付、受免下り米ニ懸ヶ出米申付、是を以輔助備仕候得者、土貢撫合之意味ニも相叶候道理ニ付、委敷村々江及諭示、下り米ニ一割懸リ之規矩を以割付、一ヶ年ニ米高八拾石余完、備方相調申候。依之近年不作打続候得共、一歩半米等之下地之御備ニ手を懸ヶ不申、心付米を以取計候ニ付、当時一歩半代銭百弐拾五貫目程相備り、漸独立之見直ニも相成、逐年一稜之備出来可仕と奉存候。

一御給知在零落所成立之事。

右者根元高人畜之釣合悪ク、連々無類之零落所ニ而、先年余計之御出方を以救立、新百姓を茂仕据エニ相成候得共、一向ニ成立不申、次第ニ零落いたし、亡所同前と罷成、農力相衰候ニ随イ地味も漸々ニ悪ク、御年貢等納り兼、却而地方受持候儀と恐候人気ニ相成、年々高地片付兼候ニ付、農具代・肥代等拝借を以地方ニ取結、よふ〳〵地方相片付来候位ニ而、御難題筋免角難申程之儀御座候処、新五左衛門取計を以、零落之病根、且高地組合等之事実を精密ニ相糺、実以作主応シ兼候地方者、農力有之

候百姓江割付ケ、受持を相究候ニ付、年来相衰候地方茂、自然と地力を得、其上一毛作之地方勝ニ而、粮物不足仕、不足仕候処より、及難拾候ニ付、水気抜キ養水兼用之井手数ヶ所掘方仕、数十町之跡作畝出来仕候而已ならす、地味茂居り合、近年ニ至リ候而ハ、明キ高・明キ地之申分も無之、肥代等を添、受持セ来候難渋地、当時ニ而ハ、相応々之価を以売買付候様ニ相成候儀者、全ク新井手等取起候効験ニ而、地味漸々と宜敷相成候所より、一体成立之基本と相見申候。右零落所之内、栗碕村杯ハ、手永内ニ而先ツ上段之村立ニ相成、農事之励合も、近村之手本と仕候程之勧農ニ至リ申候。右之外相対借財等有之、年々利分ニ苦ミ成立之期を失イ、競茂無之、難渋ニ陥リ候。小前々ハ、近年松山手永ニ申談、仕立講を以、夫〳〵借財ニ筋々付、病根を絶チ、一体人気も引立、一稜所柄為合ニ相成申候。

一緑川筋大曲と申所、川幅四拾間位ニ付、洪水其所江滞リ、川上江水押上、水害夥敷、且右之所南塘根ニ洗付ヶ、洪水之節、破損無覚束、旁去ル天保五年大小石隻七ケ所御普請相成、上下村々一稜之為合ニ相成申候。

一新五左衛門儀、天草表懸合懸合筋三ヶ度差発、四ヶ度彼方江罷越申候稜々、左之通。

一文政十一年九月波多村字七と申者、天草於今泉殺害ニ逢候一件。

一天保三年六月三角瀬戸内ニおいて、天草牛深七兵衛と申者、海賊ニ逢、手疵を負候一件。

一天保六年閏七月長濱村清吉と申者、天草内河内より参居候女と及殺害候唱一件。

右三稜何れ茂不一形御難題筋ニ而、新五左衛門儀、大ニ心配仕、一ヶ度ハ、先役奥村仙蔵天草江渡海之節被召連、一ヶ度者清成八十郎渡海之節、同道仕、其余二ヶ度者、其身迄罷越、於向方都合能取計筋等、厚心配仕候。

右之通、数々功績茂有之、其上郡浦手永之儀、宇土山を中ニ包、会所元より者四里余之村茂有之、無類之不弁利ニ而、且者海辺三方を受、他方之懸合茂、前条之通頻々差起り、手永中も惣体零落所勝ニ而、御年貢取立之心配、下方取続之取計、水干備・零落立直之仕法等、種々厚心配いたし、文化十二年代役被仰付、文政三年御惣庄屋相続迄、本役十八年・代役五年都合弐拾三年精勤仕、代役之内、長濱村新地築立之節被為賞、御上下一具被下置、其外八代御新地御普請、又者御手伝御用等ニ付而之御賞美筋迄ニ而未タ是迄年数功労取束候被為賞無御座候間、何卒年数亦格別ニ被為対功績、御知行高拾石被増下候様奉願候。此談御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保八年六月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

新五左衛門儀、達之通文政三年御惣庄屋被仰付候後、十八年ニ相成、水旱之災害を防・勧農・力田ニ基キ、耕作之気候取失不申様、無油断心を用、堤・新井手・井樋等数十ヶ所手入行届候ニ付而者、以前持扱候程々悪地徳田と相成、農力を得、零落之村方成立之萌シ相見、其外請免補助備米、且悪地片付方等ニも思惟を凝、出精いたし、又者天草表懸合筋、追々心配いたし、彼是ニ而所柄一稜々為合相成候間、御知行拾石被増下候様、本文之通御座候。

御惣庄屋御知行究高之上被増下儀者、不容易儀ニ而、大概二十五六年以上功労ニより被下置事ニ而、追々之見合、左之通。

野津手永御惣庄屋　　内田理三次

安永八年
零落之所柄成立之仕法厚心を用、功験有之候付、八年目御知行弐拾石被増下置。

甲佐右同　　太田忠助

天明五年七月
勧農之儀、心を用、石橋懸直等抜群出精いたし候付、十三年目拾石被増下。

木倉右同　　光永平蔵

寛政四年五月
零落之村方成立之仕法等、厚心を用候付、二十八年目、右同断。

衛藤弥三兵衛

天保元年正月
正院手永之儀、無類之零落所ニて、成立之仕法等厚心を用、質地米歩下方、人馬所改正候而、出夫余計減、且於植木歩入所取違、宿用勘兼候処、漸々成立之萌相見、其外会所備等之仕法根ニ成、出精いたし、且杉嶋所付之節、同所新川掘并立岡堤掘添一件付而之功蹟取束、拾石被増下、猶作紋単羽織一被下置。

此下ニ付札相印○

拾七年目被賞候

五丁右同　　松村平右衛門

文政七年八月
右者、勧農方規則を立、委教諭被加、五丁手永之儀、畑勝ニ而ハ、年貢米余計ニ及不足候付而者、御取立之仕法立旧弊相改、現納相増、速御算用出来いたし、零落之村を立直、或水引之仕法、人馬之通路を付、段々功蹟も有之候付、御知行拾石被増下候様申立之処、平右衛門儀、御惣庄屋以来十三年ニ相成、当時他手永ニ懸、無比類と申程之功業ニも有之間敷、近例二十年内之年、段々ニて御知行被増下候見合無之、見合可被置と及衆議候処、猶達之趣有之、山鹿ニ所替被仰付度、左候ヘハ将中より被差趣候付、競を失可申、御知行被増下候様申立有之候得共、御知行増之儀者、弥以見合ニ至、山鹿在勤中別段を以為御心付、毎歳御知行拾石分之御米被下置候。
右例書之通ニ而、内田理三次ハ、各別之人物ニ相見、太田忠助者、抜群出精ニ付、年数早メニ被賞たると相見申候。其外ハ多クハ二十五年以上之年数ニ而、功業を合被賞事ニ御座候。忠助儀、抜群と有之候ヘ共、事業之様子新五左衛門ニ見比候ヘハ、各別相替不申候付、此例ニ被就ニても可有之哉之処、以前者申立も差略ニ有之、其上荒地開明、村方成立等之功跡相願候程ニも有之候ヘハ、無比類様為有之と相見申候後、此者一体功者ニ相成たる哉。

零落所立直石・井樋・日鑑橋なと之功業者、押通り程ニ相成居、新五左衛門も、以前之処ニて八、抜群とも可被申哉之処、当時之処ニて一統他手永ニ懸、無比類と申程ニ無之候而八、各別ニ年数引持も類引旁、難及僉議可有御座哉。近年衛藤弥三兵衛手数引揚被賞候処、右者僉議之趣充分ニ手を詰無之、先輩年数少被賞候例を多取出、其例ニ就候迄之事ニ而、此例取用候而者、些安兼申候。別紙例書之内、小田宇七八、抜群出精之様子ニ見候得共、二十五年目被賞候。此例ニ就候へ八、子細無之候へ共、夫ニて者、治兼可申哉。新五左衛門功業も一通り之事とも見不申候事ニ付、今両三年も過候而、弥以功蹟著有之候て、別紙大賀只右衛門儀、二十一年目被賞候見合を以、及僉議可申哉。依而此節者、先見合可被置哉。

（朱筆）相印○

付札　例書

中村手永御惣庄屋　西嶋増平

下地

御知行高三拾石

享和三年六月

右者、役方多年心懸厚出精相勤、手永中示方宜、深切ニ取計候付、御知行高拾石被増下候事。

但二十五年目被増下候事。

本庄手永御惣庄屋　大賀只右衛門

右同

寛政八年六月

右者、役方精密ニ心を用、下方教示宜、手永中一統致帰服、風俗不宜村々茂、追々引改、各別出精相勤候付、御知行高拾石被増下候事。

但二十一年目被増下候事。

八代　高田手永御惣庄屋　小田宇七

右同

天明七年十二月

右者心懸厚、支配内勧農之儀心を用、教示いたし候付、下方帰伏いたし、村々扨方茂宜、諸上納等速ニ有之、且往還筋石橋懸直等之儀、抜群出精相勤候付、御知行高拾石被増下候事。

但　二十五年目被増下候事。

以上

再議

本紙之通、去々年申立有之候得共、年数少見合可被置哉と僉議相達置候処、今年ニ至二十年相成申候。本文僉議取しらへ候節者、別紙例書之内、大賀只右衛門見合ニて二十一年目ニ可被賞哉と、書面之通取しらへ置候間、来年ニ至不申候而八、見合之年数ニ至リ不申候。然処郡浦手永波多村入江新地築立付而、潮留迄出来いたし候由之処、土底深沼之ヶ所有之、塘手度々めり込及破損候処、いつれも差はまり出精いたし、九ヶ年を経及成就田畑ニて、六・七町程も作地相増、所柄一稜之為合ニ相成候由。

右付而ハ、新五左衛門儀、別而主ニ成致心配候由。追而達之趣有之、右ハ本文外之功跡ニて御座候。役方之面々其職務ニ差はまり候儀ハ、当然之事御座候得共、家柄之御惣庄屋自ら手を下候儀者、先者稀なる事とも可申哉。小前なとより成立候ものと者、様子も達候間、旁只右衛門見合より一年引揚、御知行高拾石可被増下哉。御知行高三拾石被下置候。

右付札之通、二月二日申渡。

覚

郡浦手永御惣庄屋　　郡浦新五左衛門

右身分、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、御役前心掛厚、村方成立筋等数年心力を委ね、種々心配、格別出精いたし、別冊書面之通、数ケ所之新井手・新堤掘方・井樋所之仕替等、其内ニ者太造之御普請茂有之候由之処、夫々成就いたし候由ニ付而者、水干之両害を被除候而已ならす、跡作畝茂余計ニ相増候様子ニ而、所柄一稜之為合ニ相聞、既ニ右功験ニ依而者、零落之村方成立之萌シ相見江候ヶ所茂有之哉ニ而、其外請免補助備米一件、且悪地片付方等に付而茂思惟を凝シ、出精心配仕候趣共、委細者別冊申立稜書之通ニ而、手永抑揚茂宜、一体帰服いたし居候様子ニ唱相聞申候。以上

酉
九月　　池松善助㊞

一八三　中野信次

（九―二三―一）

御内意之覚

松山手永築籠村居、御（ママ）（住脱か）郡代直触ニ而病死仕候中野源八枠ニ而、築籠・江部両村庄屋

中野信次
二十七歳

右中野信次亡父中野源八、天保三年父代被為対父代寸志之訳、御郡代直触被召出、先月病死仕候。

一銭四貫目

但文政十二年十二月、亡父中野源八より関東川々御普請御手伝ニ付、寸志年賦上納奉願置候分。

内

弐貫目

但此分上納相済申候間、今度中野信次継目被立下候様。

弐貫目

但此分ハ、桑原作平次・江本喜太郎江根譲仕候事。

右之通、亡夫中野源八より寸志銭差出置、其上中野信次儀、庄屋役を茂出精仕、一体手全成者ニ御座候間、父同様御郡代直触被召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年六月　　斎藤三郎

御郡方
御奉行衆中

信次儀、達之通ニ而、寸志高継目究々（ママ）規矩ニ相当申候間、

父同様御郡代直触可被仰付哉。
本文之通、二月七日達。

覚

松山手永築籠村居住、御郡代直触ニ而病死いたし候中野源八枠、築籠・江部両村庄屋　中野信次

右者、親跡相続、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、手全成人物ニ而、行状等異候唱相聞不申、且父代寸志差出候様子共、委細者本紙書面之通承申候。以上

戌
十二月　中西弥三次　㊞

一八四　郡浦又太　（九―二三―一）

御内意之覚

郡浦新五左衛門伯父ニ而、郡浦手永井樋小頭

上聞

郡浦又太

一手永開新地壱ケ所
惣畝数弐拾町程
内拾壱町三反余　地割相済、毛附可仕分

右者、郡浦手永村々之内、連々零落所有之、就中御給地在六ケ村并三角浦長濱之儀者、先年取救仕法種々有之候得共、小前之土台之地力相衰居候ニ付、兎角成立之期相見不申候間、御免潤色之取行之見込を以、手永内ニ而七ケ所程、手永開床奉頭、右之内波多村入江一ケ所去ル文政十年より取懸り入目銭之儀者、手永内兎哉角仕候者共より、民力強寸志相倡、且種々才覚を以、相償候積合ニ而、則塘手等一応築立・潮留仕候処、塘筋之内深沼有之、石垣土手ともニ築立候処ニ而、土底ニめり込ミ、破損仕候ニ付、猶又築立・潮留仕候処、其後都合六・七遍、めり込井樋所をも狂損、加之子年風損等差加、破是之入目銭償方、手永之力ニ及不申、既ニ御間御銀拝借等奉願、漸塘手之儀者、築留ニ相成候処、井樋所二艘共ニ狂イ損、洩潮強ク地方開明ケ、毛付ニ難相成、壱艘者場所替を以、岩堅を堀貫キ、永年不朽之井樋出来仕、一艘者入目銭之仕法付兼、当惑仕居候内、郡浦村居住御留主居、御中小姓列松枝九兵衛一切引受を以仕替、夫々御普請も成就仕候ニ付、堤并盛上ケ磧等之仕法を以、養水を立、昨年より八過半毛付仕、昨年者弥以毛付畝も相増、相応之徳来相納申候。惣体作地少キ所柄ニ付而者、三角嶽之絶頭迄も、牛馬を引上ケ、其外嶮岨厭不申野開等奉願、人馬共ニ格別之骨折を以、小前之取続候位之儀ニ御座候得ハ、纔之新地ニ而者御座候得共、於所柄者、一稜之作畝出来仕、依之往々成立之基本を得申たる儀ニ御座候。右者初発積前之通一遍ニ而築留成就仕候得者、諸役人骨折も薄御座候処、前条之通、数遍之破損ニ而無類之難渋、新地ニ付而ハ、出役仕候者共之心配不及申、村々共ニ困窮ニ落入、実ニ再興之競を矢、成就之期無覚束相見、余計之夫力を尽候末、空敷相成可申哉と、進退差逼候儀、度々ニ而、種々新五衛門以下差はまり、前後九ケ年を経候而、漸成就を遂ケ、昨年以来作毛仕付候儀ニ御座候。右之通再三破損ニ付而ハ、寒中とても其儘ニ難閣、潮合次第ニ者、夜中明松を以、御普請仕候儀茂多く、誠不一方困窮之夫力を仕候ニ付而者、先ハ一

番ニ出役、氷霜を踏、夫力を引立候付而ハ、郡浦新五左衛門以下心配仕候儀ハ、先達夫々被為賞候通御座候処、前条郡浦又太儀、中園英之助同様、暑寒之苦を凌キ、別而精勤仕、及成就候間、中園英之助一同奉願筈御座候処、名前しらへ落不念之次第、奉恐入候儀ニハ御座候得共、何卒又太儀屹ト被為賞被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年九月　　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

又太儀、達之通ニ而、中園英之助同様、暑寒之苦を凌、別而精勤いたし候付、屹ト被賞被下候様との儀ニ御座候処、右英之助者、塘方助役ニて、本行新地一件付而者、御惣庄屋ニ差続、先ハ主ニ成候程ニ而、格別出精いたし御郡御目附付御横目聞方之趣茂、別段ニ有之候付、作紋上下一具被下置たる儀御座候。本文又太儀者、聞方之趣茂別冊之通ニ而、各別之儀茂相見不申候間、金子弐百疋程茂可被下置哉。

右付札之通二月七日達。

覚

郡浦新五左衛門伯父ニ而、郡浦手永井樋小頭

上聞　　郡浦又太

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、波多村新地築立ニ付而者、彼是心配いたし、精勤仕候由、承申候。以上

戌　十二月　　中西弥三次　㊞

一八五　橘庄助

（九―二三―一）

御内意之覚

松山手永下網津村居住御郡代直触ニ而病死仕候

橘新平忰　　橘　庄助　四十九歳

右庄助亡夫新平儀、去ル文化三年江戸御類焼ニ付寸志銭差上候処、同五年御郡代直触被召出、当年迄御郡並之御奉公三十一年相勤、当四月病死仕候。尤新平存生之内寸志差出候稜々、左之通、

一文化十二年　米壱俵
一右同十三年　米壱俵
一右同年　麦三俵
一右十四年　米壱俵
一右同年　粟弐俵
一右同十五年　米壱俵半壱斗四升
　但右稜々村方難渋ニ付為取救差出申候
一銭弐拾五匁
　但文政四年日光御手伝御用ニ付而寸志差上申候
一銭三拾目
　但文政十二年関東川々御普請御用御手伝寸志差上申候
一米壱俵
　但文政八年立岡堤床塘添之節寸志差出申候
一銭五百四拾八匁六分七厘

但網津村田方養水新古手筋・石樋・石橋御普請入目銭壱貫九拾七匁三分五厘、橘新平・橘文平両人より寸志仕度、依願寸志ニ被立下候段、文政七年七月御達ニ相成候分、半方本行之通新平より出方仕候。

一銭弐貫目

但二ノ御丸御手伝御用ニ付而寸志差上申度、天保六年七月四ヶ年上納奉願、此節皆納相済申候分。

右之通亡夫橘新平より寸志差出、忰庄助儀惣体人柄茂宜敷、武芸稽古茂、鉄炮中村三左衛門門弟ニ而目録相伝仕、捕手宇土御家中小田孫市門弟ニ而目録相伝相済、前条之通父代追々寸志差出、其上御手伝御用寸志継目高を茂差上置候間、何卒親同様御郡代直触被仰付、猶相応ニ御賞美被仰付下候様奉願候。此段御内意仕候条可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年十一月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

庄助儀達之通ニ而継目寸志高弐貫目ニ而、究り之規矩ニ当り居申候間、親同様御郡代直触可被仰付哉

但本文弐貫目外之寸志者、追而相応ニ御賞美可奉願段付箋之通ニ付、追而願出ニ成り候節僉儀可仕候。

右付札之通二月廿二日達

覚

松山手永下網津村居住御郡代直触ニ而病死いたし候橘新平忰　　橘　庄助

右者親跡相続別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、手全成人物ニ而、武芸出精いたし、行状等異候唱相聞不申、且父代寸志差出候様子共、委細者本紙書面之通承申候。以上

戌十二月　　中西弥三次　㊞

(天保十一年)

一八六　虎口源左衛門

(九―二三―二)

御内意之覚

郡浦手永手永見扨、在勤中御郡代直触ニ而、会所手代　　虎口源左衛門　五十四歳

右源左衛門儀、寛政十一年より会所役人江罷出文政七年手代役ニ申付、同十年手永見扨兼勤ニ而、在勤中御郡代直触被仰付、都合年数四十一年之内、十三年手永見扨兼勤仕、惣躰廉直成者ニ而、相応ニ才力も有之、数十年会所役相勤候内ニ者、陵々之御用を受込、取行筋等上下之御為合を量り、米銭受拂之儀者、猶更厳格ニ相糺、御出方筋等ハ不及申、下方失費省減之仕法筋、其外手永中水旱之患害を除キ候仕法立等、稜々心を委ね、一躰格別ニ精勤仕候ニ付、其功験茂数々有之、且先年波多村之者、天草ニおゐて殺

害ニ逢候一件ニ付而ハ、富岡・長崎表江茂数度罷越、他方之懸合筋等、厚ク心配仕、手永見扨役之勤稜をも、兼々心懸、諸事取扨、彼是屹ト手永内為合ニ相成候間、惣年数四十年越候被対勤労旁御郡代直触本席ニ被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十年五月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

源左衛門儀、達之通ニ而、惣年数四十一年之内、在勤中御郡代直触十三年ニ相成、各別精勤之者ニ付、本席被仰付候やうとの事ニ御座候処、手永見扨ハ、惣年数四十年以上在勤中之席十五六年ニ而、下地苗字有之候ヘハ、御郡代直触本席被仰付、無苗字ニて候ヘハ、先苗字被成御免候見合、追々有之候。源左衛門儀、惣年数者四十年余ニ相成候へとも、手永見扨之年数二・三年浅有之候は、先見合可仕置哉。然處各別精勤、役方心懸厚段、見聞方よりも、達之通に付、来年ニ至り候ヘハ、勤中之席茂十四年ニ相成、惣年数茂越し申候事ニ付、苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。直ニ今之侭にて、本席被仰付儀者、見合可被置と奉存候。

右付札之通、正月十九日達

覚

郡浦手永見永見扨、在勤中御郡代直触ニ而、会所手代　　虎口源左衛門

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、役方心懸厚、会所向茂一致仕、米銭受払等厳重ニ申談、手永見扨之儀茂能行届、惣躰精勤仕候者之由、其外功績之次第、勤年数共、委細者本紙書面之通承申候。以上

亥十一月　　河田俊右衛門㊞

一八七　渡　三壽

（九―二三―二）

御内意之覚

郡浦手永椿原村居住、御郡代直触医師ニ而病死仕候。渡里磧養子

渡　三壽

四十三歳

右三壽養父渡里磧儀、郡浦手永浦上村百姓ニ而御座候処、病身ニ而、農業相成不申、変業仕、同手永新開村居住、御郡代直触医師宮崎宗宅門弟ニ罷成、同人病死後、宇土御家中小畑桂壽門弟ニ而医業稽古仕居候処、療治方心懸能、出精仕、所柄之為合ニ相成申候ニ付、寛政十一年三月、御郡代直触被仰付、御郡並之御奉公相勤、文化九年病死仕候。養子三壽儀、矢張前条小畑桂壽門弟ニ而、医業相励、療治方出精仕、所々江打廻り、一稜所柄之為合ニ相成申候間、何卒相應差出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年六月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

三壽儀、達之通ニ付、家業之様子、医業吟味役問合申候處治療篤志、学業出精之由、達之通ニて、科目丁科ニ相当申候。再春館御目附見聞も同様之由、達之通ニ御座候。右科目ニて者、追々見合有之候通、三壽儀、苗字御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通、二月六日達。

治験

益城縣某者、一日臨食時、手指屈不伸。足痿躄不能行。即癈寝不能食。自謂無餘證、余診之。胸脇苦満心、下痞鞕為小柴胡湯飲之。五日之後、頭頂強痛、寒熱往来。漿漿汗出、尚服前方。数日請證全愈。

宇土町清兵衛者妻、産後踰月、而腹中疼痛已而。腫脹、腰膝之疼、亦大甚。一医治之不愈。乞治於余為診之。脈細數而有力沈重。昏憒腹満尤甚候之。腹皮緊急、臍下有熱。余以為、此腸癰為塊、而膿已成也。於是先試服黄牡丹皮湯、三五日腹中頓痛。膿血大下。諸證自愈。

松原村弥三郎者子、生而三歳患痢。日夜五十行許。一医與黄芩湯・半夏瀉心湯。輩五六日下利不減。小腹切痛、心神委頓不思。乳食殆将不堪。迎余胗之、脈沈遲而無力。重按小腹即腸鳴而下利。因小建中湯服之、腹痛微休、四肢微冷。更與四逆湯。下利稍減、手足温。乳食進、十日許而復常。

渡　三壽

再拝

覚

郡浦手永椿原村居住、御郡代直触医師ニ而、病死仕候渡里磧養子

渡　三壽

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、医業心懸能、貧富之無差別療治方出精仕、所柄為合ニ茂相成候由。其外委細者、本紙書面之通ニ而、行状ニ付異候唱茂承不申候。以上

亥

十一月　　河田俊右衛門　㊞

（九―二三―二）

一八八　谷村佐平次　他

御内意之覚

宇土町居住、御郡代直触ニ而病死仕候、谷村平兵衛養子

谷村佐平次

二十九歳

右谷村佐平次養父、谷村平兵衛儀、文化五年御才覚銀寸志、銭四貫九百弐拾八分差出、且又龍口御屋敷御類焼ニ付、文化五年四月壱貫五百目寸志銭差出、都合六貫四百弐拾目八分寸志銭差出候ニ付、文化六年二月御郡代直触被仰付、病死仕候。

一文政三年、日光御霊屋向御手伝之節、鳥目拾五匁差出置申候。

右之通、谷村平兵衛より寸志銭差出、病死仕候処、養子谷村佐平次生得正直手全成者ニ而、筆算茂可也仕、往々御用相立候人物、且御才覚寸志銭等者、二代相続之儀、先役共より含置候筋も御座

候間、養父同様御郡代直触被仰付被下候様。

宇土町居住、御郡代直触ニ而病死仕候、伊勢田茂兵衛養子

伊勢田茂十郎

三十一歳

右伊勢田茂十郎養父、伊勢田茂兵衛儀、文化十四年三月被為対寸志之訳、且御家人少旁之訳、御郡代直触被仰付置病死仕候。

右伊勢田茂兵衛養子、伊勢田茂十郎儀、生得手全有之、筆算をも相応ニ仕、往々御用相立可申人柄ニ而、其上養祖父已来寸志、且公義衆を初、御大名様御宿江も自勘ニ而相勤、厚志次第ニ御座候間、相応江被召出被下候様。

松山手永馬瀬村居住、御郡代直触上席ニ而病死仕候、江口儀兵衛忰

江口平八

三十歳

右江口平八亡父、江口儀兵衛儀、文政七年十二月父代被為対寸志之訳、御郡代直触末席被召出、天保四年御郡代直触上席ニ被仰付病死仕候

右江口儀兵衛忰、江口平八儀、兼而人柄も宜敷、往々御用ニも相立可申、且亡父儀兵衛寸志之訳、旁ニ付相応ニ被召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保九年六月　　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

佐平次儀、達之通ニ而御才覚銭寸志之儀者、二代相続被含置候由ニ付、追々見合之通、父同様御郡代直触可被仰付哉。

茂十郎儀、達之通に付、御郡代直触跡目究之通、無苗ニて、御惣庄直触可被仰付哉。

平八儀、達之通ニ付、御郡代直触跡目究り之通、無苗にて、御惣庄屋直触可被仰付哉。

本行之通二月廿五日達

覚

宇土町居住、御郡代直触ニ而病死仕候、谷村平兵衛養子

谷村佐平次

同町居住、御郡代直触ニ而病死仕候、伊勢田茂兵衛養子

伊勢田茂十郎

松山手永馬瀬村居、御郡代直触上席ニ而病死仕候、江口儀兵衛忰

江口平八

右三人親跡相続、別紙之趣ニ付見聞仕候処、何れも普通之人物ニ而、行状等ニ付、異候唱相聞不申、且佐平次養父代、寸志銭差出候次第并平八父代、質地捨方いたし候儀共、本紙書面之通ニ相聞申候。以上

亥

九月　　外山喜助　㊞

一八九　岡村伊八郎　（九―二三―二）

御内意之覚

宇土町居住、士席浪人格ニ而、病死仕候。岡村弥三兵衛養子

岡村伊八郎

三十五歳

右者、伊八郎曽祖父岡村伊三次と申者、至貧之者追々被為対取救候訳、明和七年御郡代直触ニ被召出、其後年々取救、弥以手厚ク、寸志をも差上候ニ付、寛政九年六月岡村伊三次并同人悴茂三次父子共士席浪人格ニ被仰付、伊三次江ハ、毎年米拾五俵完被下置、猶御品々を茂、被為拝領、其後茂三次儀取救、又ハ被為対寸志之訳、御扶持方を茂被下置、御留守居、御中小姓列ニ被召直、別席ニ而本家相續仕、伊三次儀ハ、寛政十二年三月病死仕候ニ付、二男弥八郎と申者、父伊三次跡、士席浪人格ニ被仰付、文化十一年三月病死仕、其跡岡村弥三兵衛儀、同十三年六月被為対父代寸志之訳、猶又士席浪人格相續被仰付置候処、去月廿六日病死仕候、依之存生之内、寸志銭差上候稜々、左之通ニ御座候。

一銭百目

但文政三年、日光御手伝御用ニ付、寸志差上申候分。

一同壱貫目

但文政十二年、関東筋川々御普請御用ニ付、御手伝寸志差上申候分。

一同五百目

但天保二年、窮民御取救寸志差出、松山会所ニ備方仕候分。

一同四貫七拾壱匁

但天保七年暮より同八年八月迄、宇土町至困之者共、粮物救売ニ而、窮民取救候分、寸志ニ被立下候段、同年九月中、取しらへ御達仕候様被仰付置候処、手数揃兼申候間、同十月十日迄日延奉願、夫々取しらへ、其節小前帳を以、御達仕置候分。

一同弐百五拾目

但天保四年之冬より翌春迄、宇土町難渋之者共、粮物救売ニ而、窮民取救候分。同五年十二月ニ至り、追而御賞美筋ハ可奉願段、御達仕置候分。

一同四百目

但文政八年立岡堤掘添之節、寸志差出、同九年四月御達仕置候分。

一同六百五拾目

但文政十年、宇土町出火之節、為取救寸志差出、同十一年六月御達仕置候分。

合銭六貫九百七拾壱匁

右之通、弥三兵衛存生之内、寸志又ハ取救ニ差出、近年非常之凶荒ニ付而、数多之窮民及飢不申候様取計、其外諸勧進、物□等江施行之儀茂、餘計事ニ而、前条之通、家筋之儀ハ、最早三代士席浪人格被仰付、惣躰家内睦敷、召仕之男女ニ至候迄、厚ク心を付、年増取救茂手厚御座候間、何卒伊八郎儀、歩御使番列ニ被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。

以上

天保十年五月　　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

今度窮民御取救御手当として、寸志倡之儀、及達置候処、去冬以来相対取救として差出シ候分も、同様寸志ニ被立下候様、各達之通被仰付置候通ニ付、右相対取救差出候分者、一手永限取救之様子等、委ク小前帳仕立、当月中屹ト相達候様、自然しらへ洩等ニ而、追而達出シ仕共、此節同様之寸志ニ者不被立下候間、右之趣一統小前々々までも不洩様可有御達候。以上

九月十六日　　御郡方

御奉行中

右之通候条、夫々左様被相心得可有其達候。以上

天保八年

九月十七日　　斎藤三郎

宇土

御惣庄屋中

伊八郎養父岡村弥兵衛儀、依寸志士席浪人格被仰付置、去年五月病死いたし、同人より追々御手伝御用并窮民取救ニ付、寸志銭都合六貫五百七拾目余差出置候御功ニ被対、悴伊八郎儀、歩御使番列ニ被召出、猶相応ニ被賞被下候様、本文并付紙之通御座候。士席浪人格・歩御使番跡式共、右寸志高四貫五百目ニ而、父同様被召出、且壱貫目ニ而、作紋・麻上下一具被下置候規矩にて、右之通被仰付候而も、前条寸志高少ニ者、猶余相見候程之儀ニ付、伊八郎儀、歩御使番列ニ被召出、作紋麻上下一具可被下置哉。

右付札之通、正月廿八日伺、四月廿一日申渡。

覚

宇土町居住、士席浪人格ニ而病死仕候。岡村弥三兵衛養子

岡村伊八郎

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、堅固成人物ニ而、家内能塾和いたし、武芸茂稽古仕、行状ニ付異候唱茂相聞不申、且養父代寸志銭并取救ニ差出候稜々、其外之儀共、夫々本紙書面之通承申候。以上

亥

十二月　　河田俊右衛門 ㊞

覚

松山手永蚕桑請込、在勤中御郡代直触ニ而、松山会所下代

田河内茂平

右同手永大見村庄屋、無苗、御惣庄屋直触

藤九郎

右両人、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂数十年出精いたし候由。別而藤九郎儀者、村方世話筋茂能行届候様子ニ而、其外年数等之次第、委細者本紙書面之通、相聞申候。以上

子

六月　　吉田作助 ㊞

下代役八、二十五年以上礼服御免、三十五年以上無苗・御

惣庄屋直触、四十五年以上ニ而苗字御免之見合ニ御座候。
本紙茂平儀、村帳書已来四十九年ニ相成候得共、帳書ハ村雇之もの二付、年数ニ難相立、左候へハ、会所小頭より下代役迄二十六年ニ相成候付、前文礼服御免之歩ニ当り申候間、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様、達之趣ハ難及貪議御座候処、打返し勤考仕候へハ、茂平儀、会所小頭より十六年目、立岡堤掘添一件、一時之功労ニよって礼服御免ニ相成候外、是迄年功被賞無之候間、無味ニハ難被差置・可有御座哉ニ付、左之例ニ斟酌を加、鳥目壱貫五百文被下置候而者、如何程ニ可有御座哉。

例

本庄手永蚕桑受込、在勤中御郡代直触

後藤良右衛門

天保三年六月

山ノ口以来二十六年蚕桑受込六年、庄屋ハ去年申付ニ相成、未タ年労被賞無之候付、鳥目壱貫文被下置候。

藤九郎儀、会所見習以来、三十五年之内、無苗・御惣庄屋直触被仰付候而より十二年相成候付、苗字被仰付被下候様、達之通御座候。吟味仕候処、村庄屋ハ四十年以上苗字御免之見合ニ而、藤九郎儀五年程、年数浅御座候付、達之通今暫ハ見合可被置哉。

右付札之通、茂平事七月六日達。

藤九郎事見合。

一九〇　田河内茂平、藤九郎

（九―二三―二）

御内意之覚

松山手永蚕桑請込在勤中御郡代直触ニ而、松山会所手代

田河内茂平

六十五歳

右茂平儀、寛政四年より村帳書相勤、文化十二年松山会所小頭会所詰より下代役迄操上、当年迄都合四十九年相勤候内、村帳書弐十三年会所勤向二十六年之内、蚕桑受込在勤中御郡代直触七ヶ年兼勤仕候。

一文政十三年立岡堤掘添ニ付而、出精仕候旨ニ而、礼服御免ニ相成申候。

右之通出精仕候内ニハ、去ル文政十年宇土町出火ニ付而、跡家取建方、御銀拝借を以取建候。本陣再興ニ付而、拝借銭之受払、彼是一切根ニ成り取計、其外松合村出火猶引続、再三之火災、跡家取建、救浦新地築、文政十一年子秋之風災、所々新地破損、下り松新地築之出役等、地場之御用筋込合、数年之間、種々心配仕候上、近年凶作打続候ニ付而ハ、御年貢御取立難渋強御座候処、茂平儀、昼夜会所江相詰、格別出精仕、未タ年労被為賞無御座候間何卒被対都合四十九年之勤労、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

松山手永大見村庄屋ニ而　無苗

御惣庄屋直触

藤九郎

四十七歳

右藤九郎儀、文化三年松山会所見習ニ罷出、文化七年小頭、文化十四年根扨助役、文政四年根扨本役、天保三年大見村庄屋兼帯、天保九年根扨役之儀者、依願差免、当時庄屋役一遍ニ申付、当年迄都合三十五年無懈怠相勤申候。

一右藤九郎儀、八代七百町御新地ニ付、出精仕候旨ニ而、礼服御免相成、文政十二年役方多年出精仕、立岡堤掘添、杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。

右之通出精仕候内ニハ、去ル文政九年以来、松合村数度之火災、宇土町焼失、跡家取建方救浦新地築、文政十一年子秋風災、所々之塘手破損、修覆救浦波戸築村直り、引続下り松新地築、大曲川筋刎蔓御普請、新開御米山床取興、彼是数稜勤功御座候処、未夕被為賞茂無御座候間、会所見習以来、最早三十五年相勤候間、旁々苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕候。未可然様被成御参談可被下候。以上

宇土

天保十一年二月　　御郡代

御郡方

御奉行衆中

一九一　竹下恵吉

（九―二三―二）

御内意之覚

松山手永松山村庄屋、御惣庄屋直触

竹下恵吉

六十三歳

右恵吉儀、去ル寛政元年松山会所見習ニ罷出、同六年小頭、同十一年会所詰、文化三年井樋方小頭兼帯、文化七年出銀方受込、同九年馬場村庄屋兼帯、文政二年下代役、同年馬場村庄屋役者差免、同四年下代役も差免、宇土駅惣代、同九年惣代役差免、新町庄屋役、天保七年松山村庄屋役ニ所替申付、当年迄都合五十二年手全相勤申候。

一文化六年九月役方多年手全相勤、会所向諸御用筋、厚ク心を用、数百艘之井樋御手入、年分絶不申候処、余計之御入用銭受拂、手堅取計、格別出精仕候旨ニ而、礼服・小脇御免ニ相成申候。

一文政十二年十二月役方数十年出精いたし、立岡堤掘添之節、出役之御役人、人馬継替等、各別心配仕候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一天保五年役方数十年心懸能出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付候。

右之通、寛政元年松山会所江罷出候以来、会所役惣代・村庄屋兼帯を茂いたし、當年迄全五十二年、無怠慢精勤仕、當時相勤居申候。松山村之儀者、高千三百石余ニ而、多人数之所柄、人氣茂異り居申候処、恵吉儀、生得篤実ニ有之、一躰手堅、老熟ニ而、殊ニ庄屋共手本ニ茂相成候程之勤向者、兼々村方申諭も行届、風儀茂立直シ、近年凶荒打続、一統困窮之折柄ニ御座候処、松山村ニおゐて、御年貢・諸出銀をも、聊茂無滞速ニ相納、諸公役茂各別出精仕、多人数之所柄一和仕候様ニ相成候儀、偏ニ恵吉各別精勤之功労ニ御座候間、被対五十二年勤功、御郡代直触被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年二月　　宇土
御郡代
御郡方
御奉行衆中
覚
松山手永松山村庄屋、御惣庄屋直触
竹下恵吉

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、数十年多役出精いたし候由。当時請持村方之儀者、格別心を用、相勤候様子ニ而、次第成立、諸上納茂速ニ有之、一躰風儀茂宜敷相成候由。其外年数等之次第委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

子
六月　　吉田作助　㊞

恵助儀、会所見習以来五十二年之内、所々役方相勤、庄屋役前後二十三年苗字御免より七年ニ相成、兼々心懸能精勤いたし、村方申談行届、風儀も宜相成候由。達之通有之、年労右之通ニ而ハ、追々見合も御座候間、御郡代直触可被仰付哉。

右付札之通七月六日達。

一九二　大田黒圓右衛門

（九　二三　二）

御内意之覚
松山手永地士ニ而、笹原村庄屋
大田黒圓右衛門　　八十七歳

右圓右衛門儀、安永元年より笹原村頭百姓・村横目役相勤、寛政十年松山会所小頭役、享和三年笹原村庄屋役申付、文化四年迄三十六年相勤居候処、眼病ニ付、役儀相断候間差免、其跡役悴十兵衛江庄屋役申付、文化五・六両年引入、薬用仕候処、快復仕候ニ付、同七年庄屋再役申付、都合対年迄六十七年相勤申候内、村役二十六年、小頭役五ヶ年、庄屋役三十六年精勤仕申候。

一右勤之内、文政十年役方多年心懸能、新地築方又者所柄水旱之両害を除候儀等、厚世話仕、且御出御用等、臨時之儀を茂無間抜取計候旨ニ而、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。

一天保四年九月頭百姓以来、役方六十年出精仕、及老年候得共、村方世話筋、厚心配仕候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付候。

一天保四年九月頭百姓以来、役方六十年出精仕、及老年候得共、村方世話筋、厚心配仕候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付候。

一同八年十月役方六十年余、心懸能出精いたし、村方示諭茂行届候旨ニ而、地士ニ被仰付候。

右之通、追々結構ニ被仰付、最早当年八十七歳罷成候得共、弥以精勤仕、村方数示も行届、不相替追々会所迄茂罷出、極老ニ者稀成達者、勤労、先抜群之者ニ御座候間、御賞美之儀ハ、当年迄纔四ヶ年ニ相成、未タ年浅も御座候得共、何卒作紋御上下一具被下置候様奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年三月　　斎藤三郎
御郡方
御奉行衆中
覚

松山手永地士ニ而、笹原村庄屋
大田黒圓右衛門

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、役方数十年心掛能、出精いたし、追々被賞候後、不相替村方之世話筋等、能行届候由。尤本紙ニ勤労抜群と有之候儀、勤向キニ付、事業を揚、抜群と申程之儀者、格別相聞不申候得共、年令ニ者未タ壮健ニ有之、頭百姓以来数十年精勤之次第者、彼方角ニ而稀成人物之由。其外勤年数等委細者、本紙書面之通、見聞仕候。以上

子
六月　佐治次郎助 ㊞

圓右衛門儀、頭百姓以来六十七年之内、庄屋役三十六年被労被賞、地士被仰付而より四年ニ相成、此歩ミ間近ク御座候へ共、極老之者年数被縮候儀、追々見合有之、九十歳近ク相成候得共、未タ達者ニ而、村方示方も行届候由ニ付、達之通作紋麻上下一具可被下置哉。

例
中山手永拂川村庄屋・山ノ口兼帯、御郡代直触
小谷野林右衛門

天保五年三月

役方五十年余心懸厚、村方申談も宜、御山内松・杉仕立方無油断心配いたし、御郡代直触被仰付候以来、五年ニ相成、間近ク候得共、八十歳余ニ相成候付、極老年労旁、作紋上下一具被下置候。

右付札之通七月六日達。

一九三　田代勘右衛門

（九―二三―二）

御内意之覚
銭塘手永御郡筒ニ而、北走潟村庄屋并大河洲新地帳本兼帯
田代勘右衛門
六十七歳

右者寛政十一年三月西走潟村三ヶ村頭百姓申付、文化五年六月西走潟村三ヶ村庄屋役申付、同年依寸志、小脇差管笠被成御免、文政五年九月北走潟村庄屋兼帯申付、同年御郡筒に召拘、同九年西走潟村ニ而、大河洲御新地帳本を兼相勤、同十二年八月依頼、北走潟村兼勤者差免、西走潟村三ヶ村迄相勤居申候処、天保五年九月北走潟村庄屋ニ所替申付、直ニ西走潟村三ヶ村庄屋後見申付、同十年右後見者差免申候。庄屋役三十二ヶ年、頭百姓共都合四十二ヶ年相勤申候。然処西走潟村三ヶ村之儀、以前者零落之村柄ニ而御座候処、勘右衛門儀、心掛厚世話仕、漸々村立宜相成、殊ニ北走潟村之儀者、無類之零落所にて、人質も不宜至而勤悪き所柄にて御座候処、両度迄兼勤申付、彼是多年之間、心懸能手全ニ相勤申候間、御郡代直触被仰付被下候様、於私共奉願候。此段御内意仕候条宜被成御参談可被下候。以上

飽田　御郡代
天保十一年四月
御郡方
御奉行衆中

覚

銭塘手永御郡筒ニ而、北走潟村庄屋大川洲新地帳本兼帯

田代勘右衛門

右者別紙之趣ニ付、見聞仕候処、手堅人物ニ而、役方数十年心懸能、追々数ヶ村亘リ庄屋役出精相勤候趣、頭百姓以来勤年数、其外別紙書面之通相聞申候。以上

子

六月　　野田恒助

勘右衛門儀、頭百姓以来四十二年庄屋役より三十三年之内、他村兼帯等追々相勤、零落所成立之儀も厚世話いたし、御郡筒被召拘候以来十九年相成、前条之通出精相勤候ニ付、御郡代直触被仰付被下候様、委細書面之通達ニ付、及吟味候処、深川手永下西寺村庄屋溝口又兵衛儀、手永横目以来三十三年、庄屋役より二十七年御郡筒被召拘候より七年相成、役前出精いたし、零落所成立等厚心配いたし候ニ付、天保六年七月御郡代直触被仰付候、見合有之勘右衛門儀、是迄勤労ニ而被賞候儀も無御座、勤方年数・功業等、又兵衛例照合候得ハ太体釣合候様相見申候間、達之通御郡代直触被仰付ニ而可有御座哉。

右付札之通八月十一日達

一九四　銭塘久右衛門　他

（九―二三―二）

御内意之覚

銭塘手永御惣庄屋当分御代官兼帯、在勤中諸役人段

銭塘久右衛門

右銭塘手永之儀、緑川・廻江川之大塘を初、詫摩水落新川并潮塘江子塘筋共間数拾弐里余、大小井樋数四百五拾艘余、石橋・土橋三百七拾余、井手筋都合八万七千六百間余、加之近十年海辺新地も段々築立被仰付、外手永ニ無見合御普請繁多之所柄ニ而御普請銭及不足、連々会所御用銭拝借等を以取計候末、返納手段付兼、漸々御出方捨ニ相成、御備乏敷、無拠御普請届兼、塘手不丈夫、水引等之障ニも相成候様之義御座候間、年々不易ニ産出候様、御備有之度、先役共より御惣庄屋以下江追々及示談申候処、久左衛門儀、所附被仰付候即下より御普請備段々思惟仕、方丈、八町両村塘外於干潟新地場所見込を付、五ヶ年後反五斗完御郡方上納、其余徳米者御普請備ニ被仰付被下候様、去春奉願、同三月潮留仕直ニ石手ニ取懸り、同六月成就仕候。

一新開畑五町五畝三歩

但、去秋開明正畝本行之通、冬作為試根付仕毛付分

一銭弐拾五貫七百七拾五匁壱分四厘

但、御普請一切入目会所備御用銭より出方分

一潮塘新築長三百四拾五間

但、根置四間半高弐間留弐間

一石垣長三百四拾六間八合

但、高壱間八合より弐間迄
一明俵壱万四千六百三拾弐俵
但、積前三万三千四百八拾俵之内現仕分
一中縄五拾五束八把
但、現仕分
一夫七千九百弐拾八人
但、積前壱万八千四百七拾三人之内現仕分
右之通ニ御座候、畢竟久右衛門心懸厚、夜白ニ懸出精取計候処より諸品等積前より余計ニ相減し、速ニ卒業ニ至、第一方丈、八町、五町三ヶ村者全く右丈地方相増、民間永久不易之利を得、御普請備永年不朽之御仕法相立、彼是往々上下一稜之御為合ニ御座候間、久右衛門儀、被賞御品物被下置候様。

同手永御郡代手附横目、在勤中諸役人段
白石永八
同手永塘方助役、歩御小姓列
下山群次
横手手永井樋方助役、在勤中一領一疋
柴田純太郎

右者前條同様御普請之節、汐留より引続御入目銭受払、大小石改受取并石手御普請一切引受出精仕候。別而塘方・井樋方之儀者、三月より六月迄御普請小屋定詰ニ而、昼夜之潮番見扨等始末引受各別出精仕候間、重く被為賞被下候様。

銭塘会所手代差添ニ而、御普請方受持
中村文七
同所小頭ニ而海氏村庄屋兼帯
馬原五助
同所小頭
小山伊作

右之者共際目立積方より引受、汐留以来石手之御普請一切潮汐之塘番、石船之手配始末出精仕候。文七儀者塘手積方夫仕、御入目銭之受払、石取出并石工之宰判主ニ成厚出精仕、五助儀者庄屋役之場ニ而、受丁場之夫仕、笠服付并石垣出来之上、裡土入等始末罷出心配仕候間、相応に被賞被下候様。

同所手代
牛嶋太右衛門
同下代
白石恒右衛門
同手永八丁村五丁村庄屋
白石桂助

右者際目立より罷出、汐留御普請諸手配引受、塘手出来之上、江子掘り道立地割しらべ等始末出精仕候間、相応被賞被下候様。

同手永村々庄屋役
野田村
木村八助
小岩瀬村
保田平八
今村并南中無田村
永井良助
北中無田村
井村伊三郎

江中嶋村并上内田村
田上桂次
道古閑村并平木村
渋谷元平
北走潟村
田代勘右衛門
東走潟村
芥川源之助
南走潟村
小山直助
西走潟村并三ヶ村
田代勘七
方丈村
内田作助
弐丁村
伝次郎
惟重村
甲斐勝平
下奥古閑村
坂田七兵衛
上中奥古閑村
内田喜平
同村下懸り
幸右衛門
東銭塘村
林田彦助
中銭塘村内田新開村
久我理作
西銭塘村
弥八
鵜森村并下内田村
荒木林右衛門
西新開村
中村金右衛門
新村
源次郎
同人忰代役
山西祐平
同会所役人
会所見扨
小山立助
下代
林田貞八
会所詰ニ而北奥古閑村庄屋当
分兼帯
小山郡兵衛
会所詰
渋谷甚之助
右同断
儀三右衛門

会所詰小頭
甲斐貞次
右同断
謙吾
小頭
太田黒七右衛門
右同断
林田弥一
右同断
久我喜八
右同断
馬場甚蔵
右者汐留御普請中夫方引連罷出、丁場ニて引受、笠服付并石垣出来之上、裡土入迄始末罷出心配仕候間、相応ニ被賞被下候様。
同手永御郡代直触医師
松岡謙濟
右同断
馬原三省
右同断
土井仁節
同御目見医師、緒方玄箋養子
緒方　聚
同御郡代直触、庄野逸記忰
庄野仁壽
右者御普請中出夫之節々罷出、出夫之者とも怪我病人等療治出精仕候間、御褒詞ニ而茂被仰付被下候様。
右之通何茂出精不一方心配仕候。尤新地御普請之儀、大小広狭之違ニ仍而、成功之遅速、出役日数御入目之多少等有之候事ニ付、広大之御普請より狭小之新地を見亘候得共、無手間最易事之様ニ茂相見申候得共、出役之者共前後之心配夜白ニ懸、出精相勤辛労仕候儀者、大小之差別無之事と存、右久右衛門以下御普請格別出精仕候間、諸御入目積前よりハ大分相減し、不日ニ卒業ニ至、永年之御便利上下一稜之為合ニ相成申候間、何れ茂前文之通相応ニて御賞美被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上
天保十一年二月　　飽田御郡代
御郡方
御奉行衆中

一九五　田上壽助　他

（九―二三―二）

御内意之覚
銭塘手永江中嶋居住、諸役人段ニ而、本庄・田迎・銭塘井樋方助役
田上壽助
七十八歳
右者天明二年父田上貞助病中故障等之節、本庄・田迎・銭塘三手永井樋方助役代役被成御免、寛政七年親跡井樋方助役在勤中一領壱疋被仰付、文化四年正月一領壱疋本席被仰付、天保四年、五十

年余役方出精仕候付、諸役人段ニ被仰付、代役以来当年迄五十九年相勤、追々勤労被賞、作御紋麻上下、三度金子白銀、都合四度被下置、及老年候得共、不相替役方出精相勤申候間、数十年之勤労被為賞、独礼ニ被仰付被下候様

同手永八丁村居住、無苗御惣庄屋直触ニ而、
川尻御蔵御米川内并沖上荷船見扨在勤中地士
城　格太

右者文政二年父城文四郎病中故障等之節、上荷船見扨代役申付、同八年親跡無苗御惣庄屋直触ニ被召出、直ニ上荷船見扨并御米船荷足見分出帆見扨、下益城・宇土上荷船見扨兼帯申付在勤中地士被仰付、同十年高橋川口より御積出之熊本御蔵米上荷船見扨兼帯申付、其後高橋川口之見扨者差免、川尻御米川内并沖上荷船見扨等一筋ニ申付、右之外烏乱者見扨并弐町川口御番所御手当、米穀御取扨之節之津口見扨も申付、毎度出精相勤、且川尻御船手より弐町川口遊漁逐年多く相成、漁師共及難渋申候ニ付、天保四年諸漁見扨申付、代役六ヶ年本役十六年都合二十二年、彼是数々之役儀多端ニ亘、心懸能出精相勤申候間、御郡代直触被仰付被下候様。

同手永北走潟村居住、御郡代直触医師
松岡謙濟

右者文政三年六月親跡苗字御免・御惣庄屋直触ニ被召出、同十一年九月家業心掛能、療治方手広致出精候付、御郡代直触被仰付、其後弥以療治方心掛厚、請持村之内ニ者、無類之零落処も有之、年々施薬勝ニ御座候得共、聊無貪着益手厚療治仕候ニ付、逐年病家数茂相増、当時療治掛拾五ヶ村宇土町在方ニ掛、軒数六百軒余弐町・川口・宇土・新開密柑三ヶ所ニ年々廻着仕候、諸国之大船従前々請持居候分六拾四艘、撫し病人数八・九百宛毎歳療治仕、其外出夫御普請等之節罷出、相詰申候。親跡相続以来弐拾一ヶ年当席被仰付候。以来十三年相勤、平常心得方宜く、病用ニ付而者、貧富者勿論、風雨夜白之無差別奔走、出精仕候間、御郡医師並ニ被仰付被下候様

同手永江中嶋村居住、御郡代直触医師
馬原三省

右者文政四年拾二月家業心掛能、学文并療治方手広致出精候付、苗字御免・御惣庄屋直触被召出、天保七年五月家業能、療治方貧福之無差別手広致出精候付、御郡代直触ニ被仰付、惣体医術心掛厚出精仕候間、逐年功熟ニ相成、就中疝積治方熟得仕居候由ニ而、年増療治手広ク罷成、遠方より茂聞伝へ療治相頼、勿論病家之貧富謝儀之有無等ニ不拘、功験第一ニ心掛、配剤仕候ニ付、数年難渋之積毒も解、快腹仕候者多く、於所柄抜群之出精ニ而、手永内者勿論、遠方ニ掛ヶ御府中町方、其他廻着之旅船継送り者、質屋牢屋入、施薬等ニ至迄、手厚療治仕、毎歳撫シ千三・四百人完療治仕、其外御普請出夫之節罷出、出精仕、再春館ニも出席仕、重畳心掛宜御座候間、御郡医師並ニ被仰付被下候様。

右之通何茂多年出精相勤申候間、前文之通夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。此段御内意仕候条、可然様被為成御参談可被下候。以上

天保十一年四月　　鮑田
御郡方　　御郡代
御奉行衆中

覚

銭塘手永江中嶋村居住、田上壽助列四人別紙之趣見聞仕候処、左之通御座候。

諸役人段ニ而、本庄・田迎・銭塘井樋方助役
田上壽助
無苗御惣庄屋直触ニ而、川尻御蔵御米川内并
沖上荷船見扨在勤中地士
城　格太

右者手堅人物ニ而、役方多年心懸能致出精、両人共ニ親代役以来勤年数等之次第、委細本紙書面之通相聞申候。

御郡代直触医師
松岡謙濟
右同席医師
馬原三省

右者家業心懸能、貧富之無差別療治方出精、所柄為合相成、逐年病家相増候趣、別紙書面之通ニ而、病家等手広有之儀者、両人共ニ住所近村ニ、格別之医業茂無之由ニ而、医術より茂能被行可申由、尤三省儀者、疝積療治者家法有之由ニ而、遠方所々より尋参り、追々治験茂有之由、其外相続以来年数等之次第、別紙書面之通ニ相聞申候。以上。

子
六月　野田恒助　㊞

壽助儀、父病中故障等之節、井樋方助役代勤以来五十九年、親跡井樋方助役在勤中一領一疋被仰付候より四十六年、一領一疋本席より三十四年、諸役人段被仰付候より八年相成、役前出精相勤候付、独礼被仰付被下候様、達之通候得共、井樋方助役之類、独礼遣席之儀ハ近例見兼候付、達之通ニハ、難被仰付可有御座哉。然共前条之通代勤以来ハ六十年近ク、先賞より八年、極老ニおよび候迄出精相勤候者ニ候ヘハ、其分難被閣可為御座哉ニ付、旁被賞作紋・単羽織可被下置如何程ニ可有御座哉

但、本行壽助儀、勤労よつて作紋・麻上下ハ三度程被下置、右役年労ニ而、作紋・単羽織被下置候儀、追々見合も御座候間、本行之通御座候。

格太儀、父病中故障等之節、上荷船見扨代勤以来二十二年、親跡無苗・御惣庄屋直触・上荷船見扨本役在勤中、地士被仰付候より十六年相成、諸見扨等数稜兼帯を茂いたし、出精相勤候付、本席御郡代直触被仰付被下候様、達之通に付、及吟味候処、銭塘手永上荷船見扨永井惣兵衛儀、惣年数三十八年之内、当役十六年目御郡代直触被仰付候見合有之、格太儀、当役年数ハ、惣兵衛ニ対申候得共、惣年数二十年余劣申候。尤数稜兼帯之儀も有之候間、斟酌を以少シハ年数縮ニ而、被賞ニ而も可有御座候得共、惣年数遙劣申候儀ニ付、達之通ニハ難被仰付、見合被置ニ而可有御座哉。

謙濟儀、達之通ニ付、医業之様子医業吟味役江問合候処、治療篤志学業出精療治方も相応被行候由、再春館御目附見聞之趣も右同様有之候段、別紙之通右科目ニ而ハ、御郡代直触以来三十年に茂至、進席之見

合ニ而謙濟儀、御郡代直触より十三年相成、遙年浅相見申候間、達之通難被仰付、見合可被置哉。

三省儀、無苗・御惣庄屋直触被召出候已来、二十一年御郡代直触被仰付候より五年相成、家業心懸能、貧福之無差別、遠方懸ケ手広療治方出精いたし候付、御郡医師並被仰付比下候様、達之通候処、在中医師療治方各別之者者御郡代直触より八・九年以上に而、御郡医師並被仰付候見合も御座候得共、三省儀、先賞以来纔之年数ニ而、末夕三・四年も年浅ニ相見申候間、先見合ニ置方可有御座哉。

右付札之通、壽助事八月十九日申渡、格太・謙濟・三省事見合。

治験三条

一 南走潟村儀七妻歳四十天保十年夏患腸瘤数日与大黄牡丹皮湯雖下膿血臍右傍突起痛甚遂外潰作竅膿汁従洩自其竅出蛔三条以為難治症外伝之以綿膏内与参芪内托散而膿止竅生肉歴三旬余而復常矣

一 北走潟村勇八妻年三十天保十年冬傷寒十余日以後口不能言目不能視体不能動四肢冷寸口脈如無以手按腹則眉上皺而如痛状排口看之舌悉乾燥矣膿医以為死症余以為是必有燥屎与大承気三五劑而得燥屎七八枚後口能言体能動四肢温而脈皆出矣

一 平木村桂助歳六十余毎至冬月則必患痢裏急後重小腹彎痛与小建中湯十日余而全癒已後無再患矣

天保十一庚子年

八月　　松岡謙濟

謹識

一九六　郡浦新五左衛門、隈部徳七

（九―二三―二）

御内意之覚

去々年、西御丸御普請ニ付、太造之御上納金被為蒙仰候処、近年御物入被差湊候御時節、殊ニ凶作打続非常之御出方茂有之候砌、莫太之御上金不慮之御調達御繰合被及御不足候ニ付、在中之儀茂至極難渋之折柄ニ候得共、不容易御勤向之儀ニ付、先年御免被仰付置候。二ノ口米三ヶ年被召上、寸志等茂相誘候様、御委細御口達之趣有之候ニ付、私共精々申談候上、御惣庄屋共江御主意委敷申聞候処、近年水旱之災害相続、別而申年依頼非常之凶耗ニ而、何れ之御郡茂必至度行詰、種々無見合御難題を茂奉願、漸取続居候仕合ニ而、於御惣庄屋重畳当惑仕候得失、御勝手向御繰合等之儀も追々御達之趣茂有之、二ノ御丸御手伝差上米残等茂、御緩被下、御公務御国役之儀者格別ニ而、町在共々相応之御用者相勤不申候而、難叶御事柄ニ付、重畳難渋之内ニ者御座候得共、御旨趣之処、難黙止孰茂御受申上、心魂を碎差入繁劇之内早速より出精仕、内輪ニ而者、某手永々々之模様ニ応、二ノ口割合丈上納仕、外ニ寸志銭を茂相誘申候、前条之通在中極逼迫之折柄、初発御受申上候以来、下方教示彼是格別精勤仕、且封金之儀茂兼々厚心配仕候処より御出方ニ茂相成、御公労筋無御滞被為済候ニ付、追々之御見合を以御惣庄屋共ニ者、御羽織一ツ完被下置、庄屋以下ニ者少々完ニ而茂、御酒被為拝領被下候様、有御座度於私共奉願候。則別紙名前書壱冊相添、此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被

下候。以上

天保十一年五月　　御郡代

御郡方

御奉行衆中

覚

木倉手永御惣庄屋
松村平右衛門
鮫手永右同
衛藤弥三兵衛
廻江手永右同
藤井孫之助
杉嶋手永右同
三隅丈八
郡浦手永右同
郡浦新五左衛門
田浦手永右同
田浦助兵衛
山鹿手永御惣庄屋
西嶋尉助
竹迫手永右同
国井源五左衛門
久住手永右同
佐藤唯之允

右独礼

五町手永右同当分
五町瀬助
横手手永右同当分
宮津藤左衛門
本庄手永右同当分
右田徳左衛門
銭塘手永右同当分
銭塘久右衛門
甲佐手永右同
江添寛之助
矢部手永右同
布田保之助
沼山津手永右同当分
光永熊助
中山手永右同
遠山直左衛門
河江手永右同
河瀬安兵衛
松山手永右同
隈部徳七
野津手永御惣庄屋
槌田勇助
種山手永右同
小田平之允
佐敷手永右同
徳留太善次

水俣手永右同
水俣純之助
湯浦手永右同当分
矢嶋忠左衛門
久木野手永右同
伊藤又次
正院手永右同
池部為之允
中村手永右同
上野文太郎
小田手永右同
三村章太郎
坂下手永右同
小山三郎右衛門
荒尾手永右同当分
関　忠之允
中富手永右同当分
木下初太郎
深川手永右同
多田隈淳蔵
河原手永右同当分
岩崎安太左衛門
大津手永御惣庄屋
下田弥七郎
布田手永右同
山隈権兵衛
菅尾手永右同
山村市兵衛
坂梨手永右同当分
河瀬新右衛門
内牧手永右同当分
園田倫太郎
高森手永右同当分
矢野甚兵衛
北里手永右同
北里伝兵衛
野津原手永右同
吉村留次
関手永右同当分
岡松宰助
歩御小姓列新地御用受込
坂梨唯左衛門
但、天保九年十二月転役被仰付候
銭塘手永居住、諸役人段
久我為右衛門
但、天保十年八月御惣庄屋御免被仰付候
木倉手永一領一疋
光永平蔵
但、天保十年七月依願右同断
内田手永御惣庄屋、小森田茂八郎父

小森田七右衛門

但、天保十年正月依願独礼之御惣庄屋御免被仰付候

詑摩御山支配役

福田甚平

但、天保十年十一月御惣庄屋より転役被仰付候。

以上

五月

今度御上金ニ付而、寸志銭等誘候御惣庄屋、別紙松村平右衛門より福田甚平迄四十七人拝領方之儀、本文之通達有之候ニ付、先儀吟味仕候処、此跡天保六年二御丸御修復御手伝之節、独礼諸役人段之無差別、単羽織一完被下置、庄屋共江ハ御酒四斗入七樽・干肴二十枚被下置候。右見合を以此節も独礼諸役人段之無差別、作紋単羽織一完、庄屋共江ハ四斗入七樽・干肴二十枚可被下置哉。且独礼御惣庄屋江ハ桜御紋之御品被下置度由、達之通候得共、此跡間近前文之通之見合有之候付、達之通ニハ難被仰付可有御座哉

右付札之通八月七日申渡、詰郡ハ同日沙汰久我為右衛門事同廿九日申渡。

右之通被仰付候。以上

天保十一年八月　稲津六兵衛

佐田右平

一九七　森内甚兵衛　他

（九―二三―三）

御内意之覚

郡浦手永伊津野村庄屋、御惣庄屋直触

森内甚兵衛

六拾四歳

右甚兵衛儀、寛政三年より文化二年迄十五年会所役、文化三年より同十四年迄十二ヶ年網田村庄屋役、文化八年網田皿山御用受込兼帯申付候ニ付、在勤中苗字御免之御惣庄屋直触被仰付、文化十四年十二月網田村庄屋役者差免、御惣庄屋直触持懸ニ而、郡浦手永会所詰、宇土駅所受込、文政二年会所詰ハ差免、駅所惣代役天保四年迄都合十五年相勤、文政十二年役方数十年出精仕、且松山手永立岡堤掘之節、駅所人馬達等、各別出精いたし旁ニ付、御惣庄屋直触本席ニ被仰付、天保四年二月伊津野村庄屋役申付、当年迄八ヶ年相勤、寛政三年より當年迄都合五十年手全精勤候ニ付、御郡代直触進席被仰付被下候様。

同手永御郡筒ニ而、大田尾村庄屋

松浦平右衛門

六拾二歳

右平右衛門儀、文化十三年庄屋代役、文政元年親跡大田尾村・赤瀬村庄屋役、同二年手永横目役兼勤、天保六年赤瀬村之儀、遠方届兼候ニ付、依願右村之儀者差免、大田尾村庄屋役迄申付、代役より当年迄、都合弐拾五年出精相勤候内ニハ、大田尾村新堤一口、文政十三年三月掘方いたし、天保十年浚方等も仕、彼是出精仕候間、相応被為賞被下候様。

同手永下椿原村庄屋

用右衛門

五拾三歳

右用右衛門儀、文化五年親跡下椿原村庄屋当分、同十二年庄屋本役申付、当年迄都合三十三ヶ年出勤相勤、惣躰下椿原村之儀、極々之零落所ニ而御座候処、追々新井手立等奉願、漸々と村方立直、田方水気抜、養水兼用、新井手立四百三拾四間余、文政六年三月掘方いたし、天保三年四月、猶又新井手百五拾壱間余掘方いたし、一躰心懸厚出精仕候ニ付、被為賞無苗、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

同手永飯塚村庄屋、御山ノ口兼

清左衛門

五拾七歳

右清左衛門儀、文化十三年頭百姓、文政三年庄屋当分、同五年御山ノ口兼帯、庄屋本役当分役より当分迄廿一年、村役四ヶ年、都合役方廿五ヶ年相勤、惣躰飯塚村之儀、難渋所ニ而、年々地方片付兼、既ニ先年御救立を茂奉願、漸々地味立直、新堤一口文化十三年掘方いたし、猶又天保七年三月、田方水気抜養水兼用、新井手三百六拾弐間余、掘方等彼是厚心配いたし、当時ニ而ハ、御難題筋薄相成、畢竟清左衛門儀、兼々厚心を用、所より勧農ニ基キ候間、何卒礼服、小脇差御免被仰付被下候様。

同手永被多村、御山ノ口

新助

六拾九歳

右新助儀、文化十年被多村御山ノ口申付、当年迄都合廿八ヶ年出精相勤申候。

同手永網田村御山ノ口

丈右衛門

五拾三歳

右丈右衛門儀、文化十四年親跡、御山ノ口申付、当年迄都合廿四ヶ年出精相勤申候。

同手永網引村御山ノ口

喜平次

六拾二歳

右喜平次儀、文政三年親跡御山ノ口申付、当年迄都合廿一ヶ年出精相勤申候。

同手永同村御山ノ口

次助

右次助儀、文政四年御山ノ口申付、当年迄二十ヶ年出精相勤申候。右新助列余人之者共、役方心懸厚、御山内平日打廻り、年々杉・檜・松余計ニ植付、御山繁茂仕、往々御用ニ相立、別而網引御山抔者、追々御用取出を茂被仰付、一稜之御為合ニ相成申候間、何卒被為賞、礼服・小脇差御免被仰付被下候様。

郡浦手永戸口浦村、頭百姓

源蔵

右者、寛政四年より頭百姓申付、当年迄四十九年。

同手永同村頭百姓

嘉右衛門

右者寛政十一年より当年迄四十二年。

同手永中村、頭百姓

勘右衛門

右者、寛政九年より頭百姓相勤、当年迄四十四年。

右者村役数十年いつれも兼々出精仕候間、追々之御見合を次、相応被為賞被下候様。

右森内甚兵衛以下之者共、何卒被為賞被下候様奉願候。此段御内意仕候末、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年六月　　斉藤三郎

御郡方

御奉行衆中

覚

郡浦手永伊津野村庄屋森内甚兵衛列九人、身分別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、左之通ニ御座候。

御惣庄屋直触ニ而伊津野村庄屋

森内甚兵衛

右者、寛政三年会所見習ニ罷出、同六年会所小頭申付ニ相成、其後、追々役替いたし、当年迄都合五十年手全ニ出精いたし村方之世話筋等、行届候由、相聞申候。

御郡筒ニ而、太田尾村庄屋

松浦平右衛門

右者、役方多年心懸能力、出精いたし、村方之世話筋等行届候由、且新堤之儀茂、水溜宜所柄為合ニ相成候由、相聞申候。

下椿原村庄屋

用右衛門

飯塚村庄屋、御山口兼

清左衛門

右両人、役方多年心懸能、出精相勤、村方成立筋等厚致心配、追々新堤・新井手等掘方ニ付而者、村方為合ニ相成、漸々成立之趣、且清左衛門儀者、頭百姓以来御山口之儀茂出精いたし候由、相聞申候。

波多村御山口　　新助

網田村右同　　丈右衛門

網引村右同　　喜平次

同村右同　　次助

右四人何れ茂役方多年手全ニ相勤、御山廻り等出精いたし候由、相聞申候。

戸口浦村頭百姓　　源蔵

同村右同　　嘉右衛門

中村右同　　勘右衛門

右三人何れ茂村方申談筋等、熟和ニ有之、数十年出精いたし候由、相聞申候。

右之通ニ而、何れ茂勤年数等、委細者本紙書面之通、見聞仕候。

以上

子

八月　　佐治次郎助 ㊞

甚兵衛儀、惣年数五十年之内、苗字御免、御惣庄屋直触以来十二年ニ相成、精勤いたし候由ニ而、村庄屋五十年ニ而ハ見合も御座候間、達之通、御郡代直触可被仰付哉。

平右衛門儀、村庄屋二十三年ニ相成、村方之世話筋行届、堤掘方等出精いたし候由ニ而、見合茂御座候間、鳥目一貫文可被下置哉。

用右衛門庄屋当分以来、三十三年ニ相成、出精いたし候由、書面之通ニ而、年数見合ニハ越居候程ニ付、達之通無苗、御惣庄屋直触可被仰付哉。

清左衛門儀、庄屋当分以来廿一年ニ相成、出精いたし候由、書面之通ニ而見合茂御座候間、達之通礼服可被成御免哉。

新助以下次助迄、達之通御座候処、山口礼服御免ハ、三十年以上之見合ニ有之、いつれも三十年満不申、別段之功有之候とも、聞不申候付、達之趣見合可被置哉。

頭百姓ハ五十年以上ニ而、相応被賞候見合ニ而、本紙源蔵以下三人五十年ニ満不申候間、先見合可被置哉。

右付礼之通、九月四日達。且見合。

一九八　桑原作平次

（九―二三―三）

御内意之覚

松山手永宇土町独礼

桑原作平次

一銭壱貫三百弐拾五匁四分壱厘

但天保九年　御料并御私領御巡見衆御本宿相勤候ニ付、諸繕入目銭受込、御役人立合積前、自勘作事仕候分。

一銭壱貫七百弐拾五匁壱分弐厘

但去ル文政九年、遊行上人本宿相勤候節、諸取繕入目銭積帳前、自勘作事仕候分。

合三貫五拾目五分三厘

一銭弐百四拾目

但文政八年立岡堤掘添之節、諸手永出夫為元氣付、酒壱石五斗代銭、本行之通寸志銭差出候分。

一銭六百五拾目

但文政十年宇土町出火之節、為取数寸志銭差出候分。

一銭四百目

但天保四年宇土町至貧之者共、粮物救売仕候分。

合壱貫弐百九拾目

二口合四貫三百四拾目五分三厘

右桑原作平次、祖父以来依寸志之訳、追々結構ニ被仰付置居宅之儀茂間広ニ御座候ニ付、去ル宝暦・寛政両度之御巡見衆御本宿相勤、去ル文政九年遊行上人本宿、猶去々年、御料并御私領御巡見衆御本宿ニ茂相勤、重キ御宿及五度、其上去々年諸取繕、又者湯殿廻り新規建方、仮番所ニ至迄、一切自勘を以作事仕、数度之御通行、前後数日職業を取止メ、掃除を初、所々手入等出夫無之様ニ心を用取計、所柄役々出入茂多、昼夜心配強ク御座候処、毎渡御用筋無支様、上下之御賄、諸道具茂、御渡方不奉願、夜具・蚊帳ニ至迄、凡而引受差出、其外内輪之失費茂多御座候得共、少茂厭不申、聊無申分、諸事相済、一綾御為合ニ相成、其上先年以来追々凶荒ニ付而ハ、難渋之者共、内分取救、物貰躰之者江兼々厚心を用、且前条之通、格別寸志之功労、旁々何卒相応御品被為拝領被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年二月　　宇土

御郡代

御郡方

御奉行衆中

覚

松山手永宇土町独礼　　桑原作平次

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、先年遊行上人并一昨年御料、御私領両御巡見衆御宿相勤候節、自勘作事入目銭、書面之通相聞、尤取繕等之ヶ所々々余計之失費ニ相成候ヶ所者相見不申、多ク跡々之為合ニ者相成候得共、諸事入念相勤、且追々取救寸志并粮物救売等之儀、所柄為合ニ為相成由、其外委細者、本紙書面之通、見聞仕候。以上

子
六月　　佐治次郎助　㊞

作平次儀、御巡見衆御本宿相勤候付、自勘作事并先年遊行上人本宿相勤候節、右同断、都合三貫五拾目余出方いたし候付、相応ニ御品被下置候様、達之通ニ御座候処、御巡見御用ニ付而、自勘作事ニ付、拝領方ハ見合有之候得共、遊行上人本宿相勤候付而之儀、相見兼申候処、両条共公用之事ニ付、同様之規矩ニ可被仰付哉。左候ハヽ、本行之入目高ニ而ハ、去冬被賞被見合茂御座候間。桜御紋附御上下一具可被下置哉。

右付礼之通、九月十四日申渡。

（天保十二年）

一九九　本郷岩吉　　（九―二三―四）

御内意之覚

御郡代直触ニ而松山手永古保里村庄屋相勤居病死仕候。本郷文左衛門悴

本郷岩吉
二十五歳

右岩吉亡父本郷文左衛門儀、寛政三年古保里村頭百姓申付、文化二年迄十五年相勤申候処、頭百姓相断候ニ付差免、文化十年同村庄屋役申付、当年迄廿八年相勤、頭百姓より前後四十三年相勤申候処、当八月病死仕候。

一同人儀、文化五年より　薩州公御小休所ニ相成候処、家居間狭ニ付、自勘を以一ト間取建　御入御用奉願候処、願之通被仰付、入目銭四貫三百目餘ニ而、建方相済、文政元年自勘を以、一ト間新規取建、大造之作事、彼是心配、出精仕、且　少将様日奈久　御出之節、　御本陣無御支相勤候ニ付、苗字被成御免御惣庄屋直触ニ被仰付、天保九年役方多年心懸能、出精相勤、農業精を出し、御役人出在ニ付而、人馬継替等之節茂心配いたし候旨ニ付、御郡代直触ニ被仰付、右之通亡父文左衛門、前後四十三年在勤之内　薩州公御上下之節、御小休所数十年相勤、乍恐　少将様、日奈久御出　諦観院様、先年七百町御新地　御出之節茂　御小休御用を茂相勤、平日八代、芦北往来之御役人等人馬継替ニ付而茂心配仕、彼是格別精勤之功勞茂有之、右忰岩吉儀、相応之生付ニ御座

候間、亡父四十三年之勤勞数年之間御小休御用勤続候旁之被為對、岩吉儀相応被召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年十二月　　斉藤三郎

御郡方
御奉行衆中

岩吉儀、達之通ニ付、御郡代直触二代目究之通、無苗ニ而御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通、四月七日達。

覚

松山手永古保里村居住、御郡代直触ニ而、同村庄屋相勤居、病死仕候。本郷文左衛門忰　本郷岩吉

右者父跡相続別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、普通之人物ニ而、行状等異候唱相聞不申、且父代より薩州様御小休所相勤候次第、其外父勤之年数等、夫々本紙書面之通、見聞仕候。以上。

丑
二月　　佐治次郎助　㊞

町方士席根取支配

一無禄士席浪人格　伊藤四兵衛

右者、病氣ニ罷成候付、願之通士席浪人格被成御免旨、御達之事。

四月八日　　機密間
選挙方

本行之通、四月九日達。

二〇〇　伊勢田渡右衛門、伊勢田渡恵太

（九―二三―四）

御内意之覚

宇土町独礼

伊勢田渡右衛門
五十九歳

右渡右衛門儀、文化十二年五月、宇土御知行所零落之村々、為取救鳥目差出、且父徳兵衛より右村々難渋之者共江貸置候。鳥目余計捨遣シ、村所為ニ茂相成候ニ付、旁父同様町独礼ニ被仰付候。

一宇土町之儀、宿駅にて、公義御役人を初、御大名様方御休泊を受居、以前者同町判屋善十郎と申者居宅ニ而、相勤来候処、右居宅破損仕、御休泊御用勤兼申候ニ付、右渡右衛門宅之儀、先年より、追々に御巡見衆并遊行上人御本宿等も相勤候家居御座候間、右善十郎跡文化年中より自勘を以取繕、御宿御用相勤候様申付、其節取繕入目銭之内、壱貫五百目程、猶又渡右衛門より自勘を以、夫々手入仕、其後文政元年十一月追々御宿格別心配仕候旨ニ而、苗字御免被仰付、前条之通上下一稜之弁利ニ相成居候処、文政十年九月宇土町出火之節、家居悉く類焼いたし、宿町筋何分御宿無ニ而八相済不申、外ニ御宿ニ相成可申家居も無御座、新規ニ取建申候得八、御出方ニ相成、往々御繕等之手入、彼是後年迄御入目、不一形相増、所詮渡右衛門宅再興之儀、奉願候外無御座候間、再興仕候処、惣入目銭、左之通、

銭三拾貫八百五拾弐匁三分八厘

但天保二年出来目録御達仕候分。

内

拾六貫七百七匁四分七厘

但御間御銀年賦拝借被仰付、返納之儀、渡右衛門より引受相納申候。

六貫五拾八匁八分五厘

但吉田清右衛門より出銭仕、其段御達仕候処被賞、御上下一具被為拝領候。

残八貫八拾六匁六厘

但此分右渡右衛門より自勘才覚を以差出候分。

右之通ニ而御宿再興出来仕、其後天保九年六月、御料并御払領御巡見衆両度御宿相勤、家居取繕等自勘を以心配仕、数十年重キ御宿、度々入念相勤居申候処、最早老年罷成、御宿主勤兼申候間、町独礼共御免被仰付候様願出候間、内輪様子精々相糺候処、相違之儀無御座候間、願之通御免被仰付被下候様奉願候。

右渡右衛門忰　伊勢田渡恵太　十九歳

右渡恵太儀、生得手全ニ有之、御宿主御用相勤可申人物ニ而、其上父渡右衛門儀、文化以来数十年御宿等相勤、乍恐御代々様数度被遊御入候ニ付而ハ、毎度精勤仕、其内ニ者、家居及類焼、外ニ御宿ニ相成可申家居無御座候ニ付、前条之通、八貫目余者、自身才覚を以、再興仕、拾六貫七百目余者拝借、年賦返納被仰付候ニ付、都合弐拾五貫目程之出銭ニ相当、其後不相替自勘を以、家居取繕、御宿等無滞相勤、上下一稜之弁利ニ而、既ニ先年宇土町判屋善十郎宅にて、御宿等仕候節ハ、為取繕料揚酒本手数本御免相成、且難渋ニ付而、繕作事等及自力不申節ハ、凡而繕作事も御出方被仰付候儀も有之候由之処、文化以来右様御出方を茂不奉願、揚酒本手を茂御免無之、一切自勘を以取計、一稜御用ニ相立、父渡右衛門より寸志被是之訳を以、渡恵太儀、此節親同様苗字御免之町独礼ニ被召出、帯刀之儀茂、御免被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十一年十一月　斎藤三郎

御郡方

御奉行衆中

渡右衛門儀、達之通ニ付、町独礼可被成御免哉。

渡恵太儀、祖父代より御巡見衆・遊行上人御本宿請持、父渡右衛門代より者、公義御役人等之御用宿をも相勤来、彼是心配之儀も有之、且同人而已、先年焼失いたし、外ニ御用宿可相勤家居無之候付、御出方を以、御取建ニ茂可相成候処、自勘ニ而再興いたし、御用宿相勤候儀茂有之候付、旁之訳を以、渡恵太儀、父同様苗字御免・町独礼被仰付被下候様、達之通ニ付、及吟味候処、同人祖父徳兵衛代、御巡見衆御宿被仰付候節、家居不残新規作事いたし候、入目銭弐拾貫目、自勘出方いたし候付、町独礼被仰付、其後父渡右衛門代、諸御用宿受持、建継等いたし候付、苗字被成御免候儀茂御座候間、此節之儀茂前条自勘作事等之訳を以、継目功ニ被立下ニ而可有御座哉、同町居住吉田清右衛門儀、右作事料之内、銭六貫目余寸志ニ差出候付、民力強寸志之当りを以、御紋附御上下被下置候見合茂有之候間、渡右衛門より自勘ニ而差出候作事料八貫目余茂、右ニ被准候而茂、

可然哉。左候へハ、付紙用置候通、苗字御免、町独礼継目寸志ニ者、弐貫目程及不足候得共、右作事料之内、拾六貫目余御間拝借分、年賦ニ而出方いたし候稜目茂有之、其上御用宿相勤候付而者、彼是心配もいたし候儀ニ付、旁被対、達之通、父同前苗字御免、町独礼被仰付、如何程ニ可有御座哉。

〔付紙〕　一銭八貫目余

但御用宿相勤候付、作事料之内、自勘才覚を以、現出方いたし候哉。

内

弐貫目

但民力強寸志之規矩ニ而、苗字継目寸志被立下候哉。

八貫目

但右同断、町独礼継目

差引

弐貫目　不足

但本行渡恵太親渡右衛門儀、天保九年御巡見衆御宿相勤心配いたし候付、御間江承届候段、及達置候儀も御座候へとも、右者一端之御賞詞にて、御用宿自勘作事等之儀者、其節達出無之候間、本行之通御座候。

右付札之通、三月廿二日奉窺渡右衛門事。四月廿八日達。渡恵太事五月朔日申渡。

覚

宇土町独礼

伊勢田渡右衛門

右渡右衛門悴

伊勢田渡恵太

右者父子進退別紙之趣ニ付、見聞仕候処、渡右衛門儀、御宿主数年種々心配出精相勤居申候処、最早老年ニ罷成難相勤、御断願出之趣無余儀様子ニ相聞、悴渡恵太儀、人物宜行状ニ付、異候唱相聞不申、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

丑

正月　　久野多学　印

二〇一　隈部徳七　他

（九―二三―五）

しらべ書附

松山手永御惣庄屋

隈部徳七

右者御知行高弐拾石持懸ニ而、湯浦手永江所替被仰付、御代官兼帯可被仰付哉。

甲佐手永右同

江副寛之助

右者御知行高三拾石持懸ニ而、松山手永江右同断

中山手永右同

遠山直左衛門

右者御知行高弐拾石持懸ニ而、甲佐手永江右同断

湯浦手永右同当分

矢嶋忠左衛門

右者中山手永江右同断
右之通所替可被仰付哉。
以上
十月
右しらべ之通十月十九日達

二〇二　大田黒藤兵衛、卯兵衛

（九―二三―五）

御内意之覚

松山手永笹原村居住地士ニ而、病死仕候。大田黒圓右衛門孫養子

大田黒藤兵衛
歳二十五

右藤兵衛祖父大田黒圓右衛門儀、安永元年笹原村頭百姓申付、夫明四年村横目兼帯申付、寛政元年頭百姓差免、同十年村横目も差免、会所小頭申付、享和三年小頭差免、笹原村庄屋申付置候処、病気ニ付、依願庄屋投差免、其後快復仕候付、同七年再勤申付、安永元年より都合六十八年相勤、老病ニ而難相勤、願之通差免、次第ニ差重、病死仕候。在勤中御賞美之稜々、左之通

一文政十年役方多年出精、新地築方之節、始末各格出精（ママ別か）、入目銭拝借反納（ママ）も相済、彼是上下一稜為合ニ相成、且笹原村之儀、水旱之両害を受候所柄、近年新古堀凌等ニ而、水害薄相成、将又、御出御用等臨時之事をも無間抜取計候旨ニ而、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。

一天保四年九月頭百姓以来、役方六十年出精いたし、及老年候得共、村方世話筋厚心配仕候旨ニ而、御郡代直触被仰付候。

一同八年十月、役方六十年余心懸能致出精、村方示諭も行届候旨ニ而、地士ニ被仰付候。右之外功業ニ依而作紋御上下、鳥目等数度被下置、六十八年精勤仕候。於松山手永無比類人柄ニ而、八十八歳迄手堅勤続申候。悴儀者、眼病ニ而勤兼申候間、孫藤兵衛を養子ニ奉願、同人儀筆算茂相応ニ仕、往々御用ニも相立候見込之人柄ニ而、笹原村庄屋当分も申付置、同人儀、祖父無類之勤労ニ被対、御別段を以、地士相続被卯付被下候様。

宇土町横目并津横目兼帯

卯兵衛
歳六十一

右卯兵衛儀、享和二年宇土町丁頭代役申付、文化五年町頭本役申付、文政六年迄二十二年相勤候内、本四丁目町頭三ヶ年兼勤をも申付、同年依頼丁頭差免、同十年町横目申付、天保八年津横目兼帯申付、今年迄十五ヶ年前後之勤、惣年数三十七年手全精勤仕候。

一天保二年十一月宇土町之儀、近年凶作打続、子ノ秋風災已来者、別而粮物乏、町家冨家之者共江備米申談、難渋之者共救売取計行届、数百人之者共及飢不申様取続方、厚心配仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一同五年宇土町出火之節、格別骨を折、跡家建方等、始末厚心配仕候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。

一同十年四月去々秋凶作ニ付而、宇土町之者共、粮物難渋ニ付、町内冨家共江備米申談、救売一件昼夜厚出精仕候旨ニ而、先役より手限賞美申付候。

一六寸竹八拾八本　代銭弐拾八匁六分

一四寸釘　八本　　同五分弐厘
一大鉄鍍一ツ　　代銭百六拾目
一大舘（くさび）一ツ　　代銭拾壱匁
一鎖舘（くさび）三ツ　　代銭拾弐匁
一鉄　三足　　代拾七匁五分
合弐百弐拾九匁六分弐厘
　但去ル文政八年立岡大堤掘添之節、井樋入用之鉄物等、本行之通寸志差出、同九年四月調帳を以差出候分。
一茶漬茶碗百人前
一茶呑茶碗百二十
　但文政九年松合村出火之節、為差合差遣候分、天保四年四月御達仕候分。
一銭百目
　但同十二年関東川々御普請御用、御手伝ニ付、寸志差上申候。
一同三拾五匁
　但右同断ニ付、軒懸寸志差出候分。
一同四拾目
　但天保六年二ノ御丸御手伝御用ニ付差上候分。

右卯兵衛儀、惣体手全有之、町頭已来前後三十七年格別精勤仕、兼而町内之取締筋見聞等行届、数年役馴万端呑込能、若年之比より公義御役人休泊、又者遊行上人・御巡見衆御泊宿等之節、毎度仮亭主又者御用聞等相勤、別而先年追々宇土御出御用無間抜相勤、加之近年凶作打続、町内難渋之者共、取続方ニ付而も厚心配仕、平日町内心を付、御難題筋等引起不申様取計、諸事真実之世話行届候故、町方気受能、何事ニよらず致信用、稀成人物ニ而、万端弥増ニ手厚取計、所柄一稜為合ニ相成申候間、右之勤労且乍聊追々寸志差上候訳、旁被対御別段之御賞美被仰付被下候様。

右之面々何れ茂書面之通、手全成者共ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十二年四月　　筑山又兵衛

御郡方
御奉行衆中

藤兵衛儀、祖父太田黒圓右衛門儀、頭百姓以来者、六十八年ニ相成候得共、頭百姓・村横目者、村役ニて年数御賞美之歩無之、尤五十年ニ茂相成、願よって、礼服等御免之見合者御座候得共、役方ニ者、難取用見合ニ付、右年数を省、会所小頭已来之勤者四十四年ニ相成候付、地士二代目宛之通無苗、御惣庄屋直触可被仰付処、圓右衛門儀、先年地士被仰付候節、頭百姓已来之年数を加、役方六十年余出精之辞令ニ而、地士被仰付置、其節辞令研究届兼候儀ニ相見申候。右之通一且年数被賞茂相済居候を、此節年数不被立下と申儀も相成間敷、夫迚親同様被仰付候而ハ、過当ニ相見、役方全相勤候者ニ甚不対ニ有之候付、五十年以上相勤候者、二代目ハ一階落ニ被召出見合ニ付、藤兵衛前段之訳有之候付、別段を以一階落御郡代直触被仰付候而、如何程ニ可有御座哉。

卯兵衛儀、宇土町丁頭代役を省、惣年数三十七年ニ相成、出精相勤、町内世話筋行届、且乍聊追々寸志差出候訳、旁を以苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候様、書面之通御座候。町庄屋・町横目・津方下改等之儀ハ、丁頭之見合ニ准シ、三十年已上ニ而苗字御免

之見合ニ御座候間、達之通苗字御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。
右付札之通、十一月三日達。

覚

松山手永ニ而、大田黒藤兵衛列別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、左之通ニ御座候。

笹原村居住地士ニ而、病死仕候。大田黒圓右衛門孫養子　大田黒藤兵衛

右者正直成人物之由ニ而、武芸を茂稽古いたし居、行状ニ付異候唱承不申候。

宇土町横目并津横目兼帯　卯兵衛

右者役前数十年心掛厚出精いたし候由。且寸志銭其外所々差出候ニ付而者、所柄為合ニ相成候由承申候。

右之通ニ而、勤年数等委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

丑六日　吉田作助　㊞

丑十一月三日達済。

二〇三　徳永半兵衛　他

（九―二三―五）

御内意之覚

郡浦手永中村庄屋、御郡代直触ニ而病死仕候。徳永次平悴　徳永半兵衛　歳三十三

右半兵衛親徳永次平儀、寛政元年親跡庄屋当分申付、同七年本役申付、文政十年役方多年出精相勤候付、無苗、御惣庄屋直触被仰付、天保八年二月庄屋当分以来、五拾年出精相勤候ニ付、御郡代直触被仰付、当年迄都合五拾三年相勤、当正月病死仕候。右半兵衛儀、文政六年会所見習申付、天保三年三月会所小頭申付、出精相勤居候處、病氣差起り、同年三月小頭差免、同七年中村庄屋代役申付、会所見習より庄屋代役当年迄、都合十九年相勤、父子之勤年数七拾二年ニ相成申候。右之通次平儀、役方五拾年余出精相勤、半兵衛儀も惣躰人柄宜敷、庄屋代役をも申付置、父子七拾年余之勤労被対、父同様御郡代直触ニ被仰付被下候様。

鶴見塚村庄屋、御惣庄屋直触　本田清蔵　歳七十一

右清蔵儀、寛政四年新開村庄屋当分申付、文化八年庄屋本役申付、文政三年十一月域塚村庄屋ニ所替申付、翌四年四月下新開村庄屋所替申付、同九年十一月尚鶴見塚村庄屋所替申付、当年迄都合五拾年精勤仕居申候。

一天保八年十一月役方数十年致出精候ニ付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。

右之通五十年出精仕、於鶴見塚村者、天保二・三年之間、新井手をも掘方奉願、水下七町程之養水ニ相成、一稜為合相成申候人物茂、手全ニ有之、筆算等宜、諸事差入り、精勤仕候者ニ而、零落所専ニ所替をも申付、老年ニ者、健成者ニ而、今以重畳御用ニ相立候間、五十年之勤功ニ被対、御郡代直触被仰付被下候様。

郡浦村御山口

万右衛門

歳七十八

右万右衛門儀、天明六年御山口代役申付、文化四年八月、御山口本役申付、天保六年九月役方多年心懸能、出精仕候ニ付、礼服・小脇差被成御免・当年迄御山口代役以来都合五拾六年、本役已来三十五年出精相勤申候。惣躰平日御山打廻御用材木御取出等之節者、速ニ取計、諸事厚心を用、精勤仕候間、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

赤瀬村津横目

惣兵衛

歳七十八

右惣兵衛儀、天明三年村横目・津横目兼勤申付、村横目之儀者、文化十三年差免、津横目迄相勤居候処、天保三年六月五拾年手全出精相勤候付、礼服被成御免、当年迄在勤五十九年手全ニ出精相勤申候間、村横目以来数拾年精勤仕候訳ニ被對、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

網田村頭百姓

忠七

歳七十一

右忠七儀、寛政十年三月親跡頭百姓申付、文政六年蔵頭兼勤申付、天保八年迄相勤、歳罷寄両役届兼候ニ付、依願蔵頭者差免、頭百姓迄相勤、当年迄四十四年手全ニ相勤居申候。惣躰精農之者ニ而村中勧農を誘、諸上納速ニ皆済仕せ、至貧之者江者、種々仕法を立、御難題筋不申出様、万事厚心を用、数年手全ニ出精相勤居候者ニ御座候間、右精農ニ而心得方宜者ニ付、旁被対、相応御賞美被仰付被下候様。

網田村頭百姓

銀作

歳六十七

右銀作儀、文政五年五月親跡頭百姓申付、当年迄二十年相勤居申候。惣躰手全ニ有之、親甚次郎頭百姓相勤居候内、寛政四年津波凶変ニ付、村役人手足不申候ニ付、頭百姓代勤申付、其以来出精相勤、当年迄都合五十年ニ相成申候。且文化四年十月櫨方御用櫨実抜買見扨をも兼勤申付、天保三年櫨実御買上御用懸申付、年々櫨方御用をも出精仕、旁ニ被対相応ニ被賞被下候様。

前越村頭百姓

勇助

歳六十七

右勇助儀、寛政八年三月頭百姓申付、当年迄四十六年手全ニ出精相勤候間、相応被賞被下候様。

郡浦会所詰、手永横目兼

喜右衛門

歳五十二

右喜右衛門儀、文化二年二月より村役相勤、同十四年九月井樋方小頭申付、相勤居申候処、文政四年二月里浦村庄屋申付、同六年三月手永横目兼勤申付、同十三年二月郡浦手永地推御用懸申付置、天保五年二月庄屋役ハ差免、会所詰申付、御免方附相勤居申候。惣躰手全成者ニ而、精勤仕、御免方諸手数無間抜相勤、右地推之儀も、主ニ成出精仕、当年迄村役以来都合三十七年出精仕候間、

相応被賞被下候様。

郡浦会所詰

清右衛門

歳四十八

右清右衛門儀、文化九年二月より村役相勤、同十三年二月小頭申付、文政七年会所定詰小頭申付、同十二年二月会所詰申付、天保七年二月会所役持掛ニ而、戸馳村庄屋後見申付、同十一年三月右村庄屋後見者差免、網田村庄屋後見申付、相勤居申候。右者惣躰手全成者ニ而、会所諸御用筋も、稜々受込、精勤仕、且庄屋後見申付置候ニ付而者、御法度筋者不及申、御年貢・諸上納等速ニ皆納仕候様申諭、勤方心懸厚、当年迄村役以来三十年出精相勤候間、相応被賞被下候様。

戸口浦村頭百姓

源蔵

歳六十七

右源蔵儀、寛政四年七月頭百姓申付、当年迄五十年手全ニ出精相勤候間、礼服御免被仰付被下候様。

同村頭百姓

嘉右衛門

歳六十八

右嘉右衛門儀、寛政十一年頭百姓申付、翌十二年網田海辺、村々水夫引廻申付置、数十年出精相勤候ニ付、文政八年鳥目壱貫五百文被下置候。当年迄四十三年手全ニ相勤申候間、小脇差御免被仰付被下候様。

波多村御山口

新助

歳七十

右新助儀、文化十年御山口申付、当年迄二十九年手全ニ出精相勤申候間、礼服御免被仰付被下候様。

網田村御山口

丈右衛門

歳五十四

右丈右衛門儀、文化十三年御山口申付、当年迄二十五年手全ニ出精相勤候間、礼服御免被仰付被下候様。

網引村御山口

喜平次

歳六十三

右喜平次儀、文政三年御山口申付、勤方出精仕候ニ付、文政十一年鳥目七百文被下置候。当年迄二十年手全ニ出精相勤候間、礼服御免被仰付被下候様。

同村御山口

次助

右次助儀、喜平次同断ニ而、当年迄二十一年手全ニ出精相勤申候間、礼服御免被仰付被下候様。

右之面々、役方心懸厚、平日心得方宜敷、一稜御為合ニ相成、数十年出精相勤候ニ付、何れ茂書面之通被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十二年四月　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

半兵衛儀、父徳永次平庄屋役五十三年之勤ニ而相果、悴半兵衛儀茂、会所見習以来十九年相勤候付、父同様御郡代直触被仰付候様、書面之通ニ御座候へとも、年浅ニ付、父五十年余之勤ニ付、追々具合之通、一階落苗字御免之御惣庄屋直触可被仰付哉。

村庄屋者五十年以上、御郡代直触被仰付見合ニ有之、清蔵儀、庄屋当分以来五十年ニ相成、御惣庄屋直触被仰付候已後五年ニ相成、歩間近御座候得共、零落所専ラニ所替を茂被申付、出精いたし候由。老年旁ニ付、達之通御郡代直触可被仰付哉。

山ノ口者、四十年以上、無苗五十年以上、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付見合ニ有之、万右衛門儀、山ノ口代役以来五十六年ニ相成候付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候様、書面之通候得共、代役年数者難取用、本役已来者三十五年ニ相成、年浅ニ御座候得共、出精相勤候由。老年旁を以、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

津横目之儀者、御賞美年限究無之、惣兵衛儀、村横目以来五十九年ニ相成、五十年以上ニ而者、見合茂御座候間、無苗、御惣庄屋直触可被仰付哉。

忠七儀、頭百姓四十四年手全相勤、勧農を誘、諸上納速ニ皆済致させ、至貧之者江者、種々仕法を立、厚心を用、出精いたし候由ニ付、鳥目壱貫文程可被下置哉。

銀作儀、父代役を省、頭百姓二十年ニ相成、年浅ニ付、達之趣、見合可被置哉。

勇助儀、頭百姓四十六年ニ相成、年浅ニ付、達之趣、見合可被置哉。

喜右衛門儀、村役以来三十七年、当時会所詰ニ而、地推之儀も、主ニ成、出精いたし候由ニ付、鳥目壱貫文程可被下置哉。

清右衛門儀、御横目付紙之通ニ付、達之趣、見合可被置哉。

源蔵儀、頭百姓五十年ニ相成、見合茂御座候間、礼服可被成御免哉。

水夫引廻者、駅所惣代之見合を以被賞候例有之、駅所惣代ハ三十年以上、礼服四十年以上、無苗・御惣庄屋直触被仰付見合ニ有之、嘉右衛門儀者、水夫引廻四十三年ニ相成、無苗直触之年数ニ茂越居申候得共、達之通、小脇差可被成御免哉。

山ノ口者、三十年以上、礼服御免之見合ニ而、新助儀者二十九年ニ相成、一ヶ年浅御座候得共、老年旁を以、礼服可被成御免哉。

丈右衛門より次助迄、年浅ニ付、達之趣見合可被置哉。

右付札之通、十一月九白達。

覚

郡浦手永ニ而、徳永半兵衛列十五人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂役所出精いたし、勤年数等之次第、夫々書面之通相聞、尤半兵衛儀者、前兼会所江茂罷出居、当時庄屋当分申付ニ相成、一躰物馴居候由ニ而、行状ニ付異候唱承不申、其外委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

丑　六月　　吉田作助　㊞

二〇四　文助

（九―二三―五）

御郡代

御郡方

御内意之覚

松山手永三日村居住、御惣庄屋直触ニ而病死仕候。井芹次助悴

文助

歳四十八

右文助父井芹次助儀、安永七年三日村立岡村御山口申付、天明八年佐野村御山口をも兼帯申付置候処、寛政三年佐野村御山口者差免、三日・立岡両村迄相勤居、享和元年御山口者差免、宇土人馬所小頭申付、去ル天保四年迄相勤、及極老候付、依願人馬所小頭差免申候。御山口以来同年迄都合五拾六年手全出精相勤、今年八十四歳ニ而病死仕候。

一文化八年役方多年出精仕候旨ニ而、礼服・小脇差御免被仰付候。

一文政十二年役方五十年余致出精、立岡堤掘添之節、出役之御役人々馬継替等、格別心配仕候旨ニ而、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。右之外精勤仕候旨ニ而、追々鳥目を茂被下置候。右之通御賞美も被仰付、在勤中御山方見扨行届、駅所小頭数十年之勤方昼夜無差別各別精勤仕、両役之年数五十六年、御惣庄屋直触之勤八年、都合六十四年ニ相成、先者稀成勤労ニ御座候間、悴文助儀兼而手全有之、農業出精仕候間、父次助年功ニ被対、御別段を以相応被召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十二年十月　　宇土

御奉行衆中

文助儀、父井芹次助五十年余之勤労被対、相応ニ被召出被下候様、達之通ニ而、御惣庄屋直触之跡式ハ難被立下儀ニ御座候得共、五十年以上役方相勤申候者之跡式ハ、父より一階落被仰付候見合ニ御座候。右次助儀、惣年数者、六十四年ニ相成候へ共、役方者五十六年相勤候付、右之勤被対、文助儀、無苗、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通、十二月十三日達。

覚

松山手永三日村居住、御惣庄屋直触ニ而、病死仕候、井芹次助悴

文助

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、父次助儀、役方数十年出精相勤、追々被賞候次第、且悴文助儀、農業出精いたし候由ニ而、行状等異リ候儀承り不申、其外委細者本紙書面之趣ニ相聞申候。以上

丑

十一月　　本山文助

（天保十三年）

二〇五　神尾等載、金田亀齢

（九―二三―六）

御内意之覚

宇土町居住、御郡医師ニ而病死仕候。神尾三伯養子

神尾等載

歳三十三

右等載養父神尾三伯儀、文化七年二月、家業心懸能、療治方出精且寸志之訳旁被対、三人扶持被下置、御郡医師被仰付、文政十二年家業心懸能、療治方手広、貧福之無差別、厚心を用、致出精、且又立岡堤掘添之節罷出、療治方出精仕候旨ニ而、作紋袷御羽織一被下置候。天保九年七月家業心懸能、療治方手広致出精、宇土町疫病流行ニ付而者、施薬をもいたし差入、致出精候旨ニ而、金子弐百疋被下置、今年迄三十二年手全相勤、町在数百軒之療治懸手広、貧福之無差別、昼夜手厚出精仕、薩州・球磨通行之病用公義御役人休泊之節、出役も仕、功熟之老医ニ而、諸人之為合ニ相成居申候処、当閏正月病死仕候。右養子等載儀、惣躰人物宜、以前者必多度再春館江罷出、数年師家江入熟仕、医術も熟練之様子相聞、養父三伯ニ不相替療治方手広、貧富之無差別、昼夜格別出精仕、所柄一稜為合ニ相成申候。高祖父以来御郡医師相続被仰付候家筋ニ而、御扶持も被下置候。居宅等自勘ニ而取建、御郡之出夫等も不奉願、宇土町之儀者、前条通之休泊を受、兼而旅人之往来繁所柄、被是御郡医師居不申而者難相済訳ニ而、代々相続も被仰付置、其上等載儀、医業心懸宜、往々御用ニ相立候見込之者ニ御座候間、旁ニ被対、親同様御郡医師被差出、相応ニ御扶持をも被下置候様。

松山手永馬場村居住　御郡代直触医師

金田亀齢

歳四十四

右亀齢父金田松栄儀、在医ニ而御座候処、文化四年九月医業出精仕候旨ニ而、御郡代直触被召出、相勤居申候処、病死仕候ニ付、亀齢儀、文政二年苗字御免、御惣庄屋直触被仰付、文政十二年十二月家業心懸能、療治方手広、貧福之無差別、厚心を用、出精仕候旨ニ而、御郡代直触ニ進席被仰付候。親跡相続被仰付候以来、当年迄二十三年格別出精相勤、弥以療治方習熟仕、御賞美も及数度申候。療治懸之ヶ所も、左之通御座候。

郡浦手永村々

神山・神原・浦上・両長崎・栗崎・石橋・宮庄・両椿原・飯塚

両恵里・両新開・伊津野・鶴見塚

松山手永村々

高良・御領・城神山・馬場

河江手永

松橋町

右之外、宇土御家中且遠在より頼来候病家も有之、療治懸都合千三百余人ニ及申候。右之通追々御賞美も被仰付、手全ニ出精相勤、病家向簡易ニ尻軽、昼夜打廻、一躰篤實ニ而、諸人爲合ニ相成、次第ニ療治懸手広相成申候。再春館ニも出席仕、医術相進候様子ニ相聞、所柄一稜之為合ニ相成申候。且又近年一統困究之年柄

難渋者迄ニ而謝礼乏、施薬同様之様子ニ而、内輪難渋も仕候得共、貧福之無差別、別而念を入、深切ニ有之、奇特之者ニ御座候間、御別を以、御郡医師並ニ進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意取候条、宣被成御参談可被下候。以上

天保十二年四月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

等載儀、達之通ニ付、医業吟味役江及問合之処、療治・学業共、篤志之段、達有之、科目丁科ニ相当申候。再春館御目附江茂及問合候処、見聞之趣同様ニ有之候由。夫々別紙之通ニ御座候。等載儀、家筋之儀ハ寸志ニ因而三人扶持被下置、御郡医師数代相続被仰付置、御扶持方之儀茂、上継ニ而連綿仕居申候。然処御郡医師相続之節、丙科ニ而ハ、親同様ハ仰付、丙科より下候而ハ、御扶持方被減見合ニ而、等載儀、丁科ニ付、親同様ニハ難被仰付、御扶持方之内可被減処、寸志ニ因而被下置候御扶持ニ付、右之訳を以被減儀ハ難相成可有御座哉。尤科目ハ一等落申候得共、数代相続之家筋ニ付、父同前御郡医師可被召出哉。御扶持方之義ハ、祖父神尾良安代御類焼ニ付而、寸志差上候付、父三伯相続之節、三人扶持直ニ被下置候間、此節世減究之通、弐人扶持可被下置哉。

亀齢義、達之通ニ付、医業吟味役江及問合候処、治療篤志、学業熟練之段、達有之、科目丁科ニ相当申候。再春館御目附江茂及問合申候處、見聞之趣同様ニ有之候段、夫々別紙之通ニ御座候。右之通之科目ニ而ハ、進席ハ難被仰付見合ニ付、達之趣見合可被置哉。

再議

本文之通、去年相しらべ申候処、亀齢儀、貧福之無差別、療治方手広被行、病家廻診懇有之由、御郡横目より茂相達、右見聞之趣、丁科ニ而ハ中等ニ相当、十四年以上ニ而ハ、進席被仰付筈候。此節御格しらべニ而相究申候。亀齢儀、当年ニ至、前賞より十四年ニ相成申候付、達之通御郡医師並可被仰付哉。

右付札之通、等載事、丑九月十三日江戸奉窺、十二月十三日申渡。亀齢事、寅八月十三日達。

治験三條

宇土郊外、城神山邑一農夫弥十良者、年三十有八、臂力絶人、天旱数日、田面如亀甲、不忍見。無昼夜尽筋力不避。炎暑灑水田中。他日獨夫而堀八十間余之溝洫。深二尺而幅二尺余。其夜比及雞鳴。卒然悪寒甚、覆衾二・三枚。須臾胸胷煩、満腹痛如錐刺。背反張、手足厥冷、脈微欲絶。家人招予診之。爲作附子、粳米湯與之。兼以大建中湯。夜将曙辞帰。須臾老父来謁曰、前証減半、手足微温。煩渇欲飲水数升。則與五苓散、如法飲煖水。微發汗。翌日老父又来謁曰。前証稍止、続得蒸而発熱。僕又爲診之。心胸如摩熱灰。百節疼痛。不得転側。日晡所發潮熱、脈洪大。腹満而喘獨言、如見鬼状。自汗出咽乾口燥舌上。黄黒則作大承気湯與之。五貼得下利(ママ)三・四行。諸証頓愈。後與小柴胡湯、月余而腹常。

宇土市中油屋理助者、女年十有三。患天行痢。裏急後重腹痛、刺痛。發熱煩渇便・膿血日四十余行、夜十四・五行。一医瘳之。度数頗減尚下、臭穢日三・四行。飲食無味、身体羸瘦、四肢無力。

日甚一日、一医無効、父来請診、僕爲診之、作調胃承気湯與之。居数日漸愈。

隈庄町飴屋文三良者。妻年三十有八。患帯下三年。于今衆医無効。来而請治。因診之。腰背□痛顔色憔悴。身体脱虚羸。日甚一日□、則頭眩、小腹如扇。按之痛不可忍。脈沈微、飲食如故。爲作附子湯與之。兼以蒟帰、膠□湯服之。居月余、諸証愈腹常。

神尾等載

治験三條

宇土藩臣某者、妻年三十有八、患血症五・六年。請治予々往診之。脈微弱。心下痞。小腹疝痛、經水不調。有塊大如杯。按之即痛與桂枝茯苓丸。其症未解。仍可攻之。桃核承気湯主之五・六貼、而小腹急痛發熱如狂。漸而下白物。或便膿血、仍用前方、其塊既解、遂復於生平。

宇土城隈神山村有一老婦。少而爲寡婦。家貧而尤窮。有一男子。患温疫寵愛殊甚看病数十日。薬餌自給、循々無倦色。其薬□眩、而男子毒尽其病。遂愈老婦懽甚。殆若作枯骨肉焉。後經八・九日。老婦瀟然発潮。熱身體、疼煩不能転。側発則不識人。舌上黄黒不大便五・六日。仍未救薬。親戚謀之。招予請薬。予診察之。旋有承気之症。少與小承気湯々入腹中転。失気者為有燥屎。則作大承気湯與之。燥屎得五・六枚。前証減半。又經四・五日而振々擗地。四肢拘急脈微欲、絶知是去衣被裸体、恣飲冷水。其熱被却之。所致乎。故與真武湯。而其症解後與小柴胡湯。而二十有余日。而全得天年。

有一男子。年五十余。以製蠟燭、爲産業。其人所雅言。肩背肉瞤小腹拘攣頓発、他症胸脇如割。小腹急痛、倚机眠不能臥。医以丸薬下之。其痛彌甚、不能語言。身自按之。不欲飲食。日自一日、羸瘦疲。予診察之、與小陷胸湯服之。発煩欲絶。薬気撲鼻不能後服。仍又診之。前証不愈而已。発煩仍作大陷胸湯與之。未四・五貼胸脘及腹中雷鳴。更服二・三貼。而更衣再三。其痛漸解、余症隨愈。

金田亀齢

謹記

覚

宇土町居住、御郡医師ニ而病死仕候。神尾三伯養子

神尾等載

松山手永馬場村居住、御郡代直触医師

金田亀齢

右両人別紙之趣ニ付、見聞仕候処、家業心懸厚出精いたし、貧福之無差別療治方手広被行、病家廻診懇ニ有之、所柄爲合ニ相成、且等載儀者、宇土町駅前継送之病人有之候節茂罷出、療治仕候由。其外委細者、本紙書面之通相聞、行状ニ付異候唱承不申候。以上

丑

六月

久野多学 印

金田亀齢事再議

亀齢事、寅八月十三日達。

二〇六　松岡謙濟、庄野逸記

御内意之覚

（九―二三―七）

錢塘手永北走潟村居住、御郡代直触

松岡謙濟

当寅五十一歳

右謙濟儀、文政三年六月親跡苗字御免・御惣庄屋直触被仰付、同十一年家業心懸能、療治方手広致出精候旨ニ而、御郡代直触被仰付、其後猶療治方心懸能、受持村々之内ニ者、無類之零落所ニ而年々施薬勝ニ御座候得共、聊無頓着、益手厚療治方出精仕候ニ付、一体功熟ニ而逐年病家数被増、当時走潟在六ヶ村并道古閑村之内蜜柑迄ハ家別受持療治仕、其外弐拾町・弐丁・八丁・惟重・奥古閑在・錢塘在并宇土町・馬之瀬村等ニ懸療治仕、且弐町・川口・宇土・新開蜜柑、此三ヶ所ニ年々入津滞船仕候諸国之船之病人有之候得者、受持療治仕、彼是年分療治人数九百人余完有之候様子ニ御座候。右之通親跡相続已来当年迄廿三年、御郡代直触ニ被召出候より十五ヶ年ニ相成、平常心懸方宜ク、病用ニ而御座候得者、貧福ハ勿論、雨雪夜白之無差別、奔走出精仕候ニ付、村々一稜為合ニ相成、再春館懸席已来并所々御普請出役ニ出精ニ付而、追々御賞美をも被仰付置、旁格別精仕候間、何卒被賞、御郡医師並進席被仰付被下候様。

同手永中奥古閑村居住

庄野逸記

当寅五十二歳

右逸記儀、文化十四年十一月親跡御惣庄屋直触仰付、文政十三年九月療治方手広出精仕候旨ニ而、御郡代直触被召直、当年迄廿六ヶ年ニ相成、其内御上下御用四度之召仕、別而初年文政十一年夏ハ、御船中疫病流行ニ而、病人多ク厚心配仕、都合四度ニ而病人数千三百三拾人余出精療治仕、且平常療治方心懸能、奥古閑在六ヶ所并新地出百姓等ニ至迄一円受持、其外弐町・弐拾町・推重・道古閑・走潟・錢塘在ニ懸、専針療・産婦之療治等手広出精仕、毎年病人数九百人余療治仕、将又、所々御普請出役をも頻ニ出精ニ相成、一体正路之人質ニ而、医術も功熟ニ有之、病家村々も帰服仕候一稜所柄為合ニ相成申候。別而御船乗組之儀者、医師之内ニも人別ニ呑込兼候処、数度相勤出精仕候間、彼是被賞御郡医師並被仰付被下候様。

右之通於私奉願候条、可然様被成御参談可被下候。以上

天保十三年

五月　　宇野貞之助

御郡方

御奉行衆中

謙濟儀、達之通ニ付医業吟味役江問合申候処、治療習熟、学業篤志有之、療治方手広致出精候由ニ付、科目丙科ニ相当申候。再春館御目附江問合申候処、医業吟味役達同様有之由、御郡御目附付御横目より療治方相応ニ被行、病家尋向等深切ニ打廻候由、夫々別紙達之通御座候。右御横目見聞之趣ニ而者、丙科ニ而ハ中等ニ相当申候付、十四年以上ニ而被賞筈御座候。右者親跡相続被仰付候而十五年ニ相成、前条之通ニ付、御郡医師並可被仰付哉。

逸記儀、右同断問合申候処、治療習熟・学業篤志有之療治方相応ニ被行候由ニ付、科目丙科ニ相当申候。再春館御目附江問合候処、医業吟味役達同様有之候由、

御郡御目附付御横目よりハ療治方相応ニ被行、病家尋向等深切ニ打廻候由、夫々別紙達之通御座候間、右御横目見聞之趣ニ而者、丙科ニ而ハ中等ニ相当申候付、十四年以上ニ而被賞筈御座候。右者親跡相続被仰付候以来ハ廿六年相成申候へとも、御郡代直触被仰付候而より ハ十三年ニ相成、、右科目ニ而者一ヶ年浅御座候。然処御上下之節、川尻御船ニ四ヶ度乗組被仰付候処、出精いたし、右御船乗組之儀、人々嫌候処、度々乗組出精いたし候段、大城太郎右衛門よりも別紙之通達有之候間、逸記儀右の通一ヶ年浅御座候得共、右之訳旁を以達之通御郡医師並可被仰付哉。

右付札之通寅九月十四日達

口上之覚

御郡代直触医師

庄野逸記

右者今度中村庄右衛門附御横目より身分之儀、聞方仕候様子ニ承申候定而御賞美筋申立ニ相成候儀と奉存候。

右逸記儀、御上下之節川尻御船乗組被仰付、都合四ヶ度被召仕候由、格別出精相勤候様子ニ付、承繕候処、惣代小頭共より差出候別紙添御達申候。右御船乗組之医師間ニ者、一向家業手馴不申、容体書等茂難出来、病症之見立熟有無之境も診察出来不申位之者も有之様子ニ相聞申候。相応ニ一家を建罷在候ものハ被仰付候得而茂、種々ニ詫シ御断願出候類多、兼而療治少七十日余引迦候而茂、障無之者銭五百目内外之被下物有之、却而宿本之療治より便利を得候程之者迄、望参候様子ニ承知仕候、右之通之医師ニ而者御船頭頭初末之水夫共ニ至迄大勢之人命を預居候間、右壱人を頼候外無御座候ニ付、相応ニ療治方心得居候者被召仕候様有御座度疫邪等流行仕候節者、数人死亡仕候由、年々疫邪相煩候ものも不少不容易人命ニ付、相当ニ療治を尽死ニ至候者可致様無御座候間以往共良医之内被召仕候得者、御仁恵之柱礎ニ相成、吃ト御用ニも相立可申奉存候。前条之通平素手広療治仕候者者、御奉公筋とは乍申、免角乗組之儀、迦し申度儀、人情之常ニ御座候得者、数度乗組被仰付、出精相勤候者者御別段を以類外之進席ニ而茂被仰付候者、自然と乗組之儀、懇望仕候様ニも相成可申差寄重キ人命を助、一稜之御仁慈水夫御取締之基本ニ相成可申、後年共ニ療治相応ニ習熟之者被仕候様、右逸記儀も此節踏出ニ而御船乗組被仰付、出精相勤候段被稜立御賞美被仰付可被下候。私儀、奉職被仰付、未夕日浅前後之様子得斗承知不仕候得共、先役申次、且見聞之趣を以不閣右之段御達仕候。可然様被成御参談可被下奉願候。

以上

七月　　大城太郎右衛門

選挙方

御奉行衆中

一童子患腹痛、繫胸脇痛発則煩悶。又有時止脈沈緊、遍身熱々自汗出、嘔而吐蚘矣。先与烏梅円、吐蚘止。須臾切痛不止、轆々有聲、四肢微冷。与附子粳米湯、四肢温、諸症悉已食如故二三剤得復常矣。

一男子壮年患瘍毒瘡、七・八分痒後、便毒生。於両腿之間疼痛如割甚則神悶乱七日傳膏膿色見痛減半皮爛水汁淋漓矣。以刀鍼刺之、得膿三碗許痛忽止、又傳膏内、与龍胆瀉肝湯、瘡悉愈矣。

腹脹満面目、手足悉浮腫、身微悪寒。或下利食已則気息喘急医与甘遂剤、下之三日腫半減、歴五・七日而腫倍故矣。使愚診之脈浮大無力、与実脾飲、数日兼、与八味丸、歴三旬余得復常矣。

天保十三壬寅年

八月　　松岡謙濟（印）

謹識

治験三條

一男子歳六十余為耕作出田野将大便小腹拘痛而不通帰家頻行厠又不通招余使診之投潤腸剤及以蜜煎導二日又不通肛門大痛苦楚甚矣陰莖微腫按之疝毒也矣與龍膽瀉肝湯五剤而大小便快利而諸症頓愈矣

一男子三十余歳請俗医従背部到手足灸之過多乍発熱自汗出譫言発搐令余診之脈洪数余日是必火邪也矣與挂枝去芍薬加蜀漆龍骨牡蠣湯一日一夜而無験與犀角消毒飲一日熱解譫言止脈緩也頻投同方搐止得復常矣。

一婦人傷寒解後小腹急痛小便不利大便色如漆脈沈微飲食乏按必瘀脈血也與桃核承気湯数剤而黒便数升諸症愈矣

右　　庄野逸記

覚

銭塘手永北走潟村居住、御郡代直触医師　松岡謙濟

同手永中奥古閑村居住、御郡代直触医師　庄野逸記

右両人別紙之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂多年家業心懸能、療治方相応ニ被行、病家尋問等深切ニ打廻候由、謙濟儀者本紙之通、入津滞船仕候諸国船々之者共、追々療治方いたし候由、逸記者、御上下之節御船乗組之儀、数度被召仕、療治方出精いたし候由何れ茂所柄為合ニ相成候趣共、委細者本紙書面之通ニ相聞申候。以上

寅

六月　　外山喜助

二〇七　尉右衛門　他　（九―二三―七）

御内意之覚

網田村御山口　尉右衛門

右者文化十三年三月親跡御山ノ口申付、当年迄二十七年相勤出精仕候。

網引村御山口　喜平次

右喜平次儀、文政三年親跡御山ノ口申付、勤方出精仕候ニ付、文政十一年三月鳥目七百文被下置候。当年迄二十三年出精相勤申候。

右同断　次助

右次助儀、文政四年御山ノ口申付、勤方出精仕候ニ付、文政十一年鳥目七百文被下置、当年迄二十二年出精相勤申候。

右三人之者共兼而役方心懸厚、網引村之儀者別而余計之檜杉御仕立之場所ニ而、追々繁茂仕、屹ト御用ニも相立、頻々之御用御執出ニ付而者、年分御山方之諸手数絶不申、御山ノ口勤前、各別繁

勤ニ有之候処、平日無手抜出精相勤候ニ付、御取出跡床をも速ニ仕立継、往々一稜御為ニ相成可申所柄ニ御座候。網田村之儀、同様手広御山ニ而いつれ茂各別出精仕候ニ付、御別段を以、相応ニ御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十三年五月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

尉右衛門列三人相応御賞美被仰付候様、書面之通ニ而いつれ茂山口二十年以上相勤、傘御免之見合ニ相当居申候間、三人共ニ傘可被成御免哉。

右付紙之通寅十月十八日達

覚

郡浦手永網田村御山口

尉右衛門

同手永網引村同右

喜平次

次　助

右者三人別紙之趣ニ付、見聞仕候処、役方心懸能、数年出精相勤、受持之御山廻等無怠、且諸木差継茂心配いたし候由、尤本紙之内ニ相替候儀者、付紙用置候通承申候。以上

寅

九月　　井田格蔵　㊞

二〇八　岡村儀平次　他

（九―二三―七）

御内意之覚

宇土本町・馬場村庄屋、御郡代直触

岡村儀平次

右者寛政十年より文化七年迄、宇土町丁頭相勤、同八年本町庄屋申付、天保三年馬場村・城神山村庄屋当分兼帯申付、其後城神山村庄屋者差免、当時本町・馬場村兼帯ニ而、今年迄三十一年、都合四十四年精勤仕候。

一文政十二年役方数十年手全ニ致出精、立岡堤掘添之節、醤油をも差出候ニ付、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。

一天保七年二ノ御丸御修覆御用御手伝ニ付、寸志銭差上候ニ付、御郡代直触被仰付候。右儀平次儀、近郷数十ケ村ニ亘り、宇土御家中内作、又者町方数百軒ニ懸り候諸取立筋等、格別手数多、馬場村兼帯ニ付而者、零落之村方、平日骨折強御座候処数年格別出精仕候ニ付、下地寸志ニ依而、進席も被仰付置候者之儀ニ付、勤功被賞、御別段を以、地士ニ進席被仰付被下候様。

無苗・御惣庄屋直触、大見村庄屋

藤九郎

右者、文化三年松山会所見習申付、同七年小頭申付、同十四年根扨役申付、天保三年大見村庄屋兼帯申付、同九年根扨役者依願差免、当時庄屋一偏ニ而、今年迄都合三十六年精勤仕候。

一文化四年寸志差上候処、傘御免被仰付候。

一文政十年七百町新地御築立ニ付、出精仕候ニ付、礼服御免被仰付候。

一同十二年役方多年出精、立岡堤掘添之節、諸積方丁場割、其外一切根ニ成、厚心配いたし、且又杉嶋新川掘替ニ付而も、大勢之出夫申談行届、致出精候旨ニ而、無苗ニ而、御惣庄屋直触被仰付、右之外新地築立、新堤掘、洪水・凶作等ニ付、出精相勤候旨ニ而、数度御賞美被仰付候。右藤九郎儀、文政九年松合村大火ニ付而者、即夜より駈付、取消、灰寄より跡家建方、又者焼失之者共御救護等ニ付而、昼夜村方江相詰、数日心配仕候。

一同十年正月より右松合村之者共、焼失ニ付、為取続、同村救ノ浦新地築立ニ付而茂、出役仕、成就迄之間、小屋諸仕、格別出精仕候。

一同十一年八月、大風ニ而救浦并大口・大見新地及破損跡御普請ニ付、積方より成就迄数十日、双方ニ懸ヶ御普請小屋江、昼夜相詰出精仕候。

一同年十二月松合村二度目大災之節、早速駈付、取防心配仕、灰寄より跡家建方出来迄、数十日右村江相詰、心配仕候。且右村庄屋草野忠蔵病中ニ付、諸御用受別々申付、翌正月迄相詰、精勤仕候。

一同十二年救ノ浦新地風災手残御普請、且同所波戸築方ニ付而も、一切請込積方より成就迄数十日、昼夜相詰、各別出精仕候。

一同年宇土町火災ニ付而、灰寄より跡家建方材木取出、彼是数十日出役出精仕候。

一同年冬より下松新地築立ニ付而、初發積方より罷出、翌年成就迄始末御普請小屋江相詰、出精仕候。

一文政十三年四月松合村三度目出火之節も、早速駈付取防、灰寄より跡家建方迄数十日、右村江相詰、心配仕候。

一同年右焼失之者共、救浦江家直りニ付、居屋敷地形持積方より夫仕ニ至迄、数日相詰、出精仕、且家建入用之材木等、芦北茂道御山より被渡下、彼方江出役仕、数日相滞、骨折仕候。

一同十四年九月松合村四度目大火之節、直ニ駈付、前条同様取計申候。

一文政五・六年之間、緑川尻・大曲川筋刎蔓御普請并新開御米山床御取建ニ付罷出、始末出精相勤申候。

右之通、文政九年以来、松合村数度之火災、宇土町出火、又者子ノ年風災跡、下松・救ノ浦新地築立、大曲刎蔓御仕継、新開御米山御取興等、数稜別段出精仕候ニ付、藤九郎儀、年功被賞被下候様。先役より御内意奉願置候得共、未御最様無御座、根拠以来松山手永養水方ニ付、村々新堤・新井手掘浚等、数稜之功労有之、養水之助ニ相成、水田乾地と相成、跡作出来、増一稜上下為合ニ相成申候。会所役以来、当年迄三十六年相勤、前条之通、格別御用ニ相立申候。未年数浅御座候得共、去文政十二年御別段ニ而、無苗・御惣庄屋直触ニ被仰付置候者ニ御座候間、此節抜群之訳ニ被対、御別段を以、苗字御免被仰付被下候様。

無苗・御惣庄屋直触ニ而、境目村庄屋

甚兵衛

右者文化六年境目村庄屋代役申付、同七年庄屋本役申付、文政四年善道寺村後見申付、其後差免、境目村庄屋迄相勤、当年迄都合三十三年相勤候内、代役一ヶ年善道寺村後見、四ヶ年相勤申候。追々新地・新堤或者出火等之節、出精仕候旨ニ而、鳥目等度々被下置候。

一文政十二年役方数年手全ニ出精仕、旱田所新堤・新井手掘方等仕、養水弁利を得、自然と村方成立之基ニ相成、且又立岡堤掘添・杉

嶋新川掘替之節罷出、出夫ニ付種々抜群出精仕候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。

右之通、三十三年精勤仕、境目村之儀、以前者相応之村立ニ而御座候処、文化七年之比より種々之害を受、零落ニ相成候処、新堤・新井手等出来奉願、水田乾地ニ相成、跡作地も相増、粮物之助成ニ相成、競付申候得共、連年之追操難渋仕候分者、為成立富家中江大講申談、其銭辻を以、地方買上之取組、又者作馬買入銭ニ借渡、色々仕法を附、其功検も相見候得共、又々近年凶荒彼是ニ而難渋者多御座候ニ付、別而心配強、今以抜群出精仕候間、此節も三十三年之勤功、且抜群之訳ニ被対、苗字御免被仰付被下候様。

地士ニ而永尾村庄屋　西山新左衛門

右者、文化七年松山会所見習申付、同十一年父西山和三、永尾村庄屋相勤居、其代役申付、文政二年本役申付、文政十二年松合村庄屋当分兼帯申付、同十三年松合村庄屋当分者差免、当時永尾村庄屋迄相勤、当年迄都合三十二年精勤仕候。文政十二年役方数年出精いたし、且立岡堤掘添之節、村夫召連罷出、致出精、且又杉嶋新川掘替ニ付而も、同様出精仕候ニ付、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。

一天保二年寸志銭差上候ニ付、地士被召出候。右之通今年迄見習以来三十二年、庄屋本役已来二十三年相勤、新左衛門儀、一躰呑込能、村方申諭も行届、御年貢・諸出銀、速ニ相納、聊御難題筋ニ相成不申様取計、其外臨時之御用向、新地・堤掘出火・洪水等ニ付、出精相勤・毎度鳥目被下置、一稜御用ニ相立、弥次精勤仕候者ニ御座候間、相応ニ被賞被下候様。

小曽部村庄屋、御郡代直触　竹馬幾右衛門

右者文化八年父竹馬文四郎庄屋代役申付、同十三年父跡庄屋本役申付、当年迄都合三十一年、庄屋本役以来二十六年手全相勤申候。

一文政十年寸志銭差上、御郡筒ニ被召抱候。

一天保二年父代寸志之訳被対、親同様御郡代直触被仰付候。

右幾右衛門儀、代役共三十一年格別精勤仕、立岡堤掘添・新地築立、松合出火等之節々、出精相勤、稜々御賞美火被仰付、寸志之訳ニ而、身分も結構ニ被仰付候得共、当時迄年功之御賞美無御座、小曽部村之儀者、千石程之村方ニ而、旱田第一之所柄、追々養水新井手・新堤等掘方仕、水田者跡作出来増、両弁を得、上下一稜為合ニ相成、先年来厚心配仕、村方申諭も行届、一躰取扱能、御年貢・諸出銀も速ニ相納、会所向諸滞物等も無御座、精勤之功相顕、其上至而壮健ニ而、八十二歳ニ罷成、最早余命も無御座、彼是此節者、御別段を以、地士ニ被仰付被下候様。

郡浦手永栗崎村居住、御郡筒、松山手永伊牟田村庄屋、松山会所詰兼帯、御免方請込　佃　藤平

右藤平儀、文化十一年村帳書相勤、文政三年松山会所小頭申付、文政五年御免方請込申付、同八年伊牟田村庄屋兼帯申付、同同十三年会所詰ニ操上、御免方請込、当年迄都合二十八年相勤候内、六ヶ年村帳書、二十二年村庄屋・会所役兼勤仕候。

一文政十二年役方数年出精仕、立岡大堤掘添、杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。

一天保二年寸志銭差上候ニ付、礼服・小脇差御免被仰付候。
一天保九年親跡御郡筒被召抱候。
右之通、庄屋ニ而会所兼勤仕、出精相勤、兼而村方示方行届、扨方宜、一躰帰服仕、文政八年より昨秋迄、御年貢一番皆済より三番迄都合十六ヶ年無怠、年々酒肴も差出、其外諸公役共ニ速ニ相勤、諸返納物滞も無之、養水井手掘浚等も行届、村方次第ニ成立、一稜功跡相見、加之会所勤ニ付而者、御免方請込、御用銭請込ニ而格別心配仕、且先年来寸志倡ニ付而も、厚心配仕、別而文政九年以来大災一件新地築、又者文政十一年より村々地押しも請込、最早当年迄十四年之間、別段之勤稜出精仕候ニ付、当春迄手永中村々今二ヶ村地押精見相残居申候。右之通数年稜々之御用受込、格別出精仕、下地御郡筒ニ被仰付被置候者ニ付、未年数少御座候得共、格別之功業被立下、重被賞被下候様。

古保里村庄屋ニ而、松山村御山ノ口兼

弥平次

右者、文化八年松山村拂頭申付、文政元年同村御山口申付、天保七年松山村庄屋助役申付、天保十一年古保里村庄屋申付、都合三十一年相勤候内、拂頭七年御山口庄屋役共ニ、二十四年相勤申候。右弥平次儀、生得手全ニ有之、御山口ニ付而者、平日御山見扨行届、格別精勤仕、一躰心得方宜候処より、庄屋助役申付、千三百石余之大村多人数之所柄、取扨筋萬端堅固ニ取斗、風儀も立直、御年貢・諸出銀共ニ無滞相納、一稜功業相顕申候ニ付、古保里村庄屋をも申付、出精仕候ニ付、礼服御免被仰付被下候様。

高良村庄屋

恵七

右恵七儀、文政二年高良村頭百姓申付、同四年会所小頭申付、天保五年庄屋申付、都合二十三年相勤候内、二ヶ年頭百姓、十三年小頭、八年庄屋相勤申候。
右之通相勤、文政九年松合村数度之火災、宇土町出火、所々新地築、会所建直等、数稜格別精勤仕候処、右ニ付而、未御賞美等無御座候。天保五年高良村庄屋申付、下松湊口、農商打混居、在町立之村方ニ而、以前より人気も異居候処、恵七儀、惣躰手全有之、村方示方行届、一躰取扨、御年貢・諸出銀も無滞様相納、近年凶荒ニ付、津方取扨之儀も厚心配仕、出入、自他之船改方等、昼夜入念精勤仕、頭百姓以来二十三年、会所小頭已来二十一年相勤、数ヶ条別段之功業御座候間、相応ニ被賞被下候様。

御領村庄屋

卯平

右者文政四年御領村庄屋申付、同七年高良村庄屋兼帯申付、同十一年高良村兼帯者差免、当年迄庄屋役全二十一年相勤居申候。新地築立、立岡堤掘添、松合村数度出火・杉嶋新川掘替等出精相勤、其時々鳥目等被下置候。
右之通相勤、高良村兼勤も有之、両村共船着・在町立之村方、農商打混之所柄、殊ニ御領村之儀者往環筋。前々より格別零落所ニ而、先年雑職米之内を以成立之仕法も被仰付程之村方ニ而御座候処、卯平儀、村方取扨能、勧農ニ基、出精仕候ニ付、近年成立申候。旱田所養水方ニも心を用、新堤・新井手掘方等も奉願、地力も増、他村江出作ニ遣置候も、漸々受返、卯平勤労相見、各別出精相勤申候ニ付、礼服御免被仰付被下候様。

柏原村庄屋

喜八

右者文政元年父長兵衛庄屋代役申付、同五年親跡柏原村庄屋申付、当年迄二十四年相勤候内、代役四年、本役二十年精勤仕、新地築立、立岡堤掘添・松合村出火・非常凶荒等ニ付、出精仕候旨ニ而、追々鳥目等下置候。

右之通相勤、一村一和ニ申談、勧農・力田ニ基、成立之際相立、種々仕法を附候功相見申候。必竟喜八儀、父代より村方世話筋手厚行届、別而其身精農ニ而、村方引立申候間、自然と末々迄、其風ニ移、外之庄屋共、目当ニも可相成人柄ニ御座候間、御別段を以、精農旁被対、礼服御免被仰付被下候様。

馬瀬村庄屋

喜助

右者、文政五年庄屋当分申付、同七年本役申付、当年迄二十年精勤仕候。立岡堤掘添・松合村出火之節、出精仕候旨ニ而、鳥目をも被下置候。馬瀬村之儀者、高千石程ニ而、宇土御知行所第一之零落、片穂所ニ而、年々高地も片付兼、御年貢・諸出米銀之取立方難渋仕、昼夜心配強、其上緑川筋・宇土川ニ包居候所柄ニ而、洪水之節、心遣多、数艘井樋仕替、被是余村と違、格別骨折多、喜助儀者、篤実、堅固之者ニ而、諸事世話筋手厚行届、村方も帰服仕、当年迄二十年精勤仕候間、下地寸志ニ而、礼服御免被仰付候ニ付、無苗・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

笹原・網津・下網津三ヶ村御山ノ口

伊左衛門

右者、文化八年笹原村御山口申付、文政八年下網津御山口申付、同十二年網津村御山口当分申付、文政六年松山手永馬瀬・笹原・笠岩・郡浦手永恵里・鶴見塚、両新開都合七ヶ村、塘筋御仕立・櫨下見扨も申付、当年迄都合三十一年相勤申候。

一天保二年笹原村養水磧・井樋居込御普請等ニ付、入目銭・寸志銭差出、寄特之儀ニ付、傘・小脇差御免被仰付、御仕立櫨根浚・採方或者立岡堤掘添・松合村出火等ニ付、出精仕候旨ニ而、追々鳥目被下置候。

右伊左衛門儀、惣躰手全ニ有之、御山廻等、平日心懸能、扨方宜手広、御山之見扨弥以行届、御山繁茂を心懸、年々植付等、無間抜取計、且馬瀬村列七ヶ村、櫨見扨行届候段も、櫨方御役人中、兼而見聞仕居候様子ニ承、彼是心得方宜者御座候間、三十一年之勤労被対、下地寸志ニ而礼服御免被仰付候ニ付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

松山会所詰ニ而、御免方請込

謙右衛門

右者文政三年会所見習申付、文政九年小頭申付、天保六年会所詰ニ操揚、同九年御免方請込、地押一件も請持せ、当年迄都合二十二年相勤、新地築立、立岡堤掘添、松合村出火、且大見村海辺、櫨方新古新地再興等、臨時之御用相勤、度々鳥目等被下置候。

右謙右衛門儀、惣躰人柄宜、筆算達者ニ有之、兼而会所当用向之儀、諸事心を用取計、御免方ニ懸候。しらべ筋気根強、出精仕、加之近年地押ニ付而ハ、村々下りしらべより立会等、数年出精、御役人精見ニ付而も、数十日昼夜心配仕、且地押一件も当時二ヶ村清見残候程ニ済寄、彼是別段之働も有之、見習以来二十二年之勤労被対、相応ニ被賞被下候様。

右者松山手永村々庄屋・御山口・津横目・会所役人共、年功又者

格別之勤稜等、出精仕候者ニ而、右之内ニ者年浅者共御座候得共、抜群之功跡或者格別精勤仕候ニ付、精々相糺、御達仕候間、夫々御賞美被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

天保十二年五月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

見合

儀平次儀、丁頭已来四十五年、村庄屋三十二年ニ相成、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。以後十四年ニ相成、寸志ニ而、御郡代直触被仰付候付、地士進席被仰付候様。本紙之通御座候へ共、庄屋之年数浅候付、達之趣見合可被置哉。

見合

村庄屋者四十年以上ニ而、苗字御免之見合有之、本文藤九郎儀、会所見習次第三十七年、小頭已来三十三年ニ相成、無苗・御惣庄屋直触被仰付候以後、十四年ニ相成候付、苗字被成御免候様、書面之通御座候得共、庄屋已来者十年ニ相成、年数御座候得共、抜群之申立茂有之、前賞よりも十四年ニ相成候付来ニ茂至、苗字被成御免ニ而茂可有御座哉。当年迄ハ、見合可被置哉。

見合

甚兵衛儀、庄屋三十四年ニ相成、無苗・御惣庄屋直触以来十四年ニ相成、零落之村方抜群出精いたし候付、苗字被成御免候様、書面之通候得共、年浅ニ付、前条同様、来年ニ至被成御免、当年迄者、見合可被置哉。

新左衛門儀、会所見習以来三十三年、庄屋本役以来二十四年ニ相成、傘御免以後十四年、地士者寸志ニ而被仰付置臨時御賞美之外、年功被賞無之候付、銀五両可被下置哉。

見合

幾右衛門儀、庄屋代役を省二十七年ニ相成、御郡代直触者寸志ニ而被仰付置、年功御賞美無之候付、老年旁を以、地士被仰付候様、書面之通御座候得共、至而年浅御座候間、達之趣、見合可被置哉。

藤平儀、帳書年数を省、小頭已来廿三年、庄屋十八年ニ相成、傘御免已後十四年、礼服者寸志ニ而、御免ニ相成居、受込之御用、格別出精いたし候由、書面之通ニ付、鳥目壱貫五百文程可被下置哉。

見合

山ノ口者三十年以上、村庄屋ハ廿二・三年ニ而、礼服御免之見合ニ有之、弥平次儀ハ山ノ口已来二十五年、庄屋助役以来六年ニ相成、年浅ニ付、達之趣見合可被置哉。

恵七儀、小頭已来二十二年、庄屋者八年ニ相成、出精いたし候由ニ付、鳥目七百文程可被下置哉。

村庄屋者廿二・三年ニ而、礼服御免之見合ニ而、卯平儀、庄屋二十二年ニ相成候付、礼服可被成御免哉。

見合

喜八儀、庄屋代役を省、廿一年ニ相成、礼服御免之儀者、前条之通ニ而、年浅ニ付、達之趣見合可被置哉。

見合

喜助儀、庄屋当分已来二十一年ニ相成、礼服者寸志ニ而御

免ニ相成居候付、無苗・御惣庄屋直触被仰付候様、書面之通御座候へ共、礼服御免之年数ニも不足いたし候付、達之趣、見合可被置哉。

見合

伊左衛門儀、山ノ口三十二年ニ相成、礼服八寸志ニ而、御免ニ相成候付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候様、書面之通御座候得共、山ノ口・苗字御免者、五年以上之見合ニ付、達之趣、見合可被置哉。

謙左衛門儀、会所見習已来廿三年、小頭以来十七年ニ相成地押一件ニ付而八、数年出精いたし候由、書面之通ニ付、鳥目七百文程可被下置哉。

右付紙之通、寅十月十八日達。

覚

松山手永ニ而岡村儀平次列十三人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂役方多年心懸厚、出精相勤、村方世話筋等、夫々行届候由ニ而、其外勤年数等之次第委細者、別紙銘々稜書之通相聞申候。以上

丑

六月　　久野多学　印

（天保十四年）

二〇九　堀内徳右衛門、伴右衛門

（九―二三―八）

御内意之覚

郡浦手永石橋村・神山村庄屋・御惣庄屋直触

堀内徳右衛門

右者、天明七年石橋村頭百姓申付、寛政三年村横目申付、文化九年、同村庄屋申付、文政三年神山村庄屋、併勤申付、当年迄都合五拾六年出精相勤申候。

一天保三年六月役方数十年、出精仕候ニ付、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。

一同八年十一月村役已来五十年余致出精、零落村方成立筋等、厚心配仕候ニ付、苗字御免被仰付候。

一役方心懸能、村方申諭等行届候ニ付、追々鳥目等被下置候。

右之者、惣躰手全成者ニ而、村方取扱筋手厚、石橋村之儀、連々零落村ニ御座候処、新堤・新井手等、追々掘方奉願、種々仕法を付相倡候ニ付、当時者一躰村立茂引直申候。最早及老年候得共、至而壮健ニ有之、前条之通功業も有之、当年迄五十六年之勤労ニ被対、御郡代直触進席被仰付被下候様。

礼服・小脇差御免・里浦村庄屋

伴右衛門

右者寛政五年二月会所役申付、井樋方・小頭・村役とも、兼相勤候内、天保五年二月里浦村庄屋申付、当年迄都合五十年相勤申候。天保七年八月、二ノ御丸御手伝御用寸志銭差上、礼服・小脇差御免被仰付。

右之通ニ而、庄屋役之儀者、年数浅ク御座候得共、会所役以来五十年相勤、是迄年功之御賞美、年々進席之儀当、順々操上奉願来候得共、其手数届兼、前条之次第ニ付、此節五十年之勤労を被賞、苗字御免、御惣庄屋直触被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕

候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十三年五月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

徳右衛門儀、達之通候処、苗字御免後七ヶ年ニ相成、間近ニ有之候間、達之趣見合可被置哉。

伴右衛門儀、会所詰以来五十年相成候付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。達之通御座候処、帳書之年数を加、右之通ニ而、帳書八年功ニ難被立下儀ニ御座候間、達之通ニハ難被仰付御座候。尤当年ニ至り候而ハ、小頭已来之年数三十四年ニ相成、右年数ニ而ハ、無苗・御惣庄屋直触被仰付規矩ニ相当申候間、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

右衆議之通、三月十二日達。

覚

郡浦手永ニ而、堀内徳右衛門列両人、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、右之通ニ御座候。

石橋村・神山村庄屋ニ而、苗字御免之御惣庄屋直触

堀内徳右衛門

右者役方数十年心懸能、村方之世話筋等手厚有之、且水抜之新井手并新堤掘方心配いたし候由ニ而、村方為合ニ相成候由。

里浦村庄屋

伴右衛門

右者、会所見習以来、役方心懸能、数年出精相勤、村方申談、懇ニ有之候由。

右之通ニ而、本紙ニ相替候儀者、付紙用置、其外書面之通、相聞申候。以上

寅

九月　　井田格蔵 ㊞

二一〇　柘植玄迪

（九―二三―八）

御内意之覚

松山手永笹原村居住、独礼医師ニ而、病死仕候、柘植桂淳養子

柘植玄迪

歳三十五

右玄迪養父柘植桂淳儀、御郡医師並柘植壽迪嫡孫承祖ニ而、文化八年八月家業心懸能、療治方手広出精仕候旨ニ而、祖父同前御郡医師並被仰付候。

一同人儀、医業心懸厚出精仕候ニ付、御間御聞届之御達茂有之、於再春館茂附方会ニも罷出、附方致熟練候旨ニ而、度々御銀被下置、御郡並之御用茂出精仕候旨ニ而、御銀被下置候。

一天保九年七月家業心懸能、療治方手広出精仕候旨ニ而、独礼ニ被仰付候。

右之通桂淳儀、追々結構被仰付、当年迄三十三年、当前之御奉公無懈怠相勤、当四月病死仕候。

一右玄迪儀、療治懸之村数拾弐ヶ村竈数七百八拾五軒、其外銭塘手永之内弐町村・八町村・弐十町村、郡浦手永長濱村ニ懸ヶ療治仕、新開江入船仕候御米船并旅船都而療治仕候。

去ル天保四年松合村疫病流行ニ而、弐千人程相煩、死亡四百人程有之、右村居住之医師両人病死仕、療治方差支候ニ付、松山手永之医師交々詰方申付、玄迪儀茂二月より五月迄出役差入出精仕、一稜病家之為合ニ相成申候。

右玄迪先祖者御知行をも被下置候家筋之者ニ而、祖々父代より医業出精ニ付而者、追々結構ニ被召出、御郡並之御用ニ相立申候。玄迪儀、本道者田中元勝門人ニ而、外療者家伝を修業仕、生質手全ニ有之、兼而療治方手広病用ニ取紛、再春館出席者存分届兼申候得共、平日心懸厚、郡浦手永ニ懸医生中申談、去ル天保五年より月々附方会之節無怠出席仕、療治方ニ付而者、昼夜無差別相廻、心懸厚出精仕、養父桂淳者老体ニ而、村々打廻十分届兼、玄迪壱人ニ而駈廻々ニ付、村々至而帰服仕仕居申候。別而去秋以来者住吉新地築立被仰付候ニ付、必多度出勤仕、数人療治仕候内ニ者、難治と相見候大怪我等療治方手際能平療仕を兼々村方者不及申、諸人之為合相成申候。第一病家零落所ニ而施薬茂多、施薬同様之療治勝ニ而、内輪難渋之綾茂有之様子ニ御座候得共、貧福之無差別誠実ニ療治仕、所柄故ニ相応之医師居不申、手広懸内兼而夜白之骨折を不厭、格別出精仕、家業之儀者養父ニ少茂劣不申候間、此節御郡医師並ニ被召出被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条宜被成御参談可被下候。以上

天保十三年十二月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

柘植玄迪儀、達之通ニ付、家業之様子医業吟味役江及、問合申候処、家業習熟・学業篤志之段、達有之科目丙科ニ相当申候。再春館御目附江茂問合申候処、見聞之趣同様ニ有之由、独礼医師之跡目丙科ニ而者御郡医師並被召出見合ニ付、玄迪儀、御郡医師並可被仰付哉。

右僉議之通三月廿四日達

新産後、下血過多昏暈、而目不瞬、気息喘急遍、身冷汗出　手足厥冷、脈将絶、雖与独参湯、不能嚥之、以鍼刺、於三里三陰交、而後得嚥薬汁、而附醒　而悪寒発熱、覚胸脇臍下痛　脈続沈細与芎、帰調血飲下血止、而再三悪露利諸症、悉瘥焉歴五・六日又頭痛・発熱・食少・小腹拘攣、且左足屈不伸、而日夕煩躁矣与小柴胡湯、凡三旬得復常矣。

男子老年、寒疝数十年不愈、身体羸瘦　不易転側焉、左脇有塊大如臂自陰連于小腹拘急、或繞臍痛　或腰足疼痛、而厥寒矣、生平身灑淅　悪寒愚診之、脈沈弦也、烏頭桂枝湯陪、烏頭一枚与之瞑眩如酔状、遍身痛瘥塊消　而後与捕中剤　凡一旬得復常矣、

男子傷寒歴十余日、熱如燎　揚手擲足、面垢目瞑耳聾舌上黄胎渇、欲飲水間譫語四五日（後欠）

天保十四年　　柘植玄迪　㊞

卯二月　　謹識

覚

松山手永笹原村居住、独礼医師ニ而病死仕候、柘植桂淳養子　　柘植玄迪

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、家業心懸能、療治方習熟いたし、病家廻診等手厚有之候由ニ而、行状ニ付異候唱承不申、且

本文之内施薬茂多と有之候者、貧民共謝礼届兼候分之由ニ而、其外委細者本書面之趣ニ相聞申候。以上

卯
正月　　本山文助㊞

（九―二三―八）

二一一　愛甲　操　他

御内意之覚

郡浦手永前越村居住、御郡医師並
愛甲操

右者文政十一年家業心懸能、旦兼而両親江能事、兄弟睦敷旁被賞御郡医師並被召出、当年迄十五年医業出精仕候。療治懸之村々、郡浦・中村・前越・戸馳・波多・三角・大田尾・赤瀬・手場・里ノ浦・大口・右村々専療治仕、網田・下網田・戸口・大見・右村々者、折々療治仕候。凡竈数千余軒、山谷嶮岨無厭、昼夜行廻手広、出精仕、惣躰至而質素之者ニ而、於療治向村方、世話ニ不相成様、腰弁当ニ而駈廻り、難渋之小前々々者、薬礼等茂夫々行届不申、施薬同前之療治方多、於所柄抜群為含ニ相成申候。御別段を以、御目見医師進席被仰付被下候様。

右同手永中村居住、御郡代直触医師
愛甲壽格

右壽格父愛甲三恵儀、御郡医師並ニ而病死仕、壽格儀、天保四年五月御郡代直触被仰付、当年迄十ヶ年療治方格別出精仕、今以再春館ニも折々罷出、於所柄附方会を茂、月々無懈怠自宅ニ而引受、再春館届達も受持、医学格別心懸、経学之儀者、大城準太門弟ニ而、文政三年より同七年迄五ヶ年入塾仕、時習館江も出席仕、同八年より松岡満壽方江入門、代脉㊞も差免、同十一年迄四ヶ年相詰、稽古仕候。当時療治懸之村々、左之通、

一家数百五拾五軒　郡浦村
一同七拾五軒　中村
一同二十軒　手場村
一同十五軒　大口村
一同四拾八軒　両網田村
一家数五拾軒　里浦村
一同百軒　戸馳村
一同四拾軒　波多村
一同弐拾軒　前越村

右之外ニも病症ニ寄、緒方ニ懸、手広療治方出精仕、兼々心懸厚、難渋之小前々々者、薬礼等夫々行届不申、誠施薬同前之療治向多御座候処、日夜山谷嶮岨駈廻、手厚療治仕候ニ付、於所柄一稜之為合ニ相成申候間、追々之御見合を以、御郡医師並進旁被仰付仕下候様。

同手永戸口浦村居住、御郡代直触医師
江上養節

右養節養父江上挂壽儀、御郡医師並ニ而病死仕、養節儀、天保七年九月御郡代直触被仰付、当年迄七ヶ年療治方出精仕、再春館ニも折々罷出、所柄附方会ニも無懈怠出席仕候。療治懸村方左之通。

一家数百弐拾軒　戸口浦村
一同七拾七軒　網田村
一同九拾三軒　下網田村

一同五拾三軒　赤瀬村
一同三拾弐軒　長濱村

右之外、臨時之療治向茂有之、手広出精仕、右之内ニ者、施薬同前之療治懸多、日夜駈廻、手厚出精仕候ニ付、難渋之者者、猶更為合ニ相成申候。惣躰手全成人柄ニ而、兼々医業心懸厚、格別出精仕候間、進席之儀、不被爲叶候ハヽ、相応ニ被賞被下候様。

戸馳村居住、御惣庄屋直触

田中宗玄

右宗玄父田中見壽儀、御郡代直触医師ニ而病死仕候。宗玄儀、文化十一年御惣庄屋直触ニ被仰付、当年迄二十九年ニ相成申候。戸馳村之儀、離島ニ而、無類不便別之所柄ニ御座候処、右宗玄居註(ママ住)仕、竈数弐百弐拾軒余之療治方出精仕、難渋之小前々々者、薬礼等も行届不申、施薬同様之療治多、於所柄一廉之爲合ニ相成申候間被賞、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

郡浦手永戸口浦村、源作事

玄俊

右者眼疾ニ而盲人ニ相成、農家之稼難相成、針術修行仕、文政五年より宇土御家中中山挂春江入門、稽古仕、天保九年変業御免被仰付、弥以心懸厚、針術相進、一家を立、宇土町江相滞居、市在ニ懸、手広療治仕候。惣躰宇土町在共、針医無之、甚不弁理ニ有之候処、右之者、修熟仕、於所柄一廉爲合ニ相成、既去戌年御巡見衆通行之節、針療被頼度由ニ而、止宿所江罷出候処、療治被申付、其節身分等問合ニ相成、小前ニ而者、如何敷候ニ付、其砌者急場之事ニ付、御惣庄屋支配戸澤玄俊と及反(ママ)答置申候。追而爲謝礼、鳥目壱貫文渡ニ相成申候。針医居不申、右様之節、急場屹ト爲合ニ申候。針療之儀、病症次第、医師立会等之節、身分無之候而者、右様之節申談、届兼候綾(ママ)(稜か)も御座候間、御別段を以、苗字御免、御惣庄屋直触被召出被下候様。

右之面々、何れも書面之通、療治方手広、心懸宜者共御座候間、此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十三年五月　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

愛甲操儀、達之通ニ付、家業之様子、医業吟味役江及問合申候処、治療習熟、学業篤志之段達有之、科目丙科ニ相当申候。再春館御目附江茂問合申候処、見聞之趣、同様ニ有之由、御郡御目附付御横目よりハ、療治方相応被行、病家尋問手厚有之由、相違、丙科ニ而右見聞之趣ニ而ハ、中等ニ相当、十四年以上進席被仰付見合ニ有之、操儀、御郡医師並被召出候以来十六年ニ相成候付、御目見医師可被仰付哉。田中宗玄儀、右同断、科目丙科ニ相当、御横目よりハ療治方可也ニ被行候由。尤外ニ医業無之、臨時急場之療治方等得弁利、所柄爲合ニ相成候由、相達、丙科ニ而、右見聞之趣ニ而者、下等ニ相当、二十五年以上進席被仰付見合ニ有之、宗玄儀、御惣庄屋直触被仰付候以来三十一年ニ相成候付、御郡代直触可被仰付哉。

弦俊儀、右同断、鍼術篤志、学業篤志之段、達有之、科目丁科ニ相当申候。御横目より者、療治方相応ニ有之、手広出精いたし、所柄爲合ニ相成候由、相達申候。町在変業御

免盲人、鍼術宜、療治方各別出精、所柄爲合ニ相成候者ハ、其身一代限相応被召出筈ニ相極居申候間、無苗、御惣庄屋直触可被仰付哉。

但苗字御免・御惣庄屋直触ニ被召出候様、申立有之候得共、苗字御免者、見合可被置哉。

愛甲壽格・江上養節儀者、年浅ニ付、達之趣見合可被置哉。

再議

壽格儀、御郡代直触被仰付候以来、当年十一年ニ相成、年浅ニ付、見合置候処、右近村居住濱田養山(卷カ)儀、御郡代直触以来十一年目、一昨年進席被仰付候見合有之、壽格儀、療治方等同様之者ニ付、申立通被仰付度由、追々内意有之候付、医業吟味役江及問合申候処、治療習熟、学業篤志之段、達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由、夫々別紙之通ニ而、科目丙科ニ相当、御郡御目附御横目よりハ療治方相応被行候由、病家尋問手厚有之由相達、右見聞之趣ニ而者、中等ニ相当、十四年以上進席被仰付見合ニ御座候間、三ヶ年浅、進席ハ難被仰付御座候。然処以前者丙科ニ而、八・九年以上進席被仰付候見合、追々御座候処、今度御格しらへニ而、科目ニ応し、上中下之三等を設、進席年限相究、去冬以来、右之規矩を以て、相調申候得共、右之通ニ改候儀ハ、及達置候儀茂無之、同等之者間近見合有之、右申立茂年限相究候以前之達込ニ付、右之訳、旁別段を以、此節迄ハ、年限被縮達之通、御郡医師並被仰付哉。左候ハヽ、以来之見合ニハ難相成趣、及達可申哉。如何程可有御座哉。

右僉議之通、正月廿四日奉窺、宗玄、玄俊事、二月十六日達、操事、十一月三日申渡、壽格事、七月廿四日達。

治験三條

郡浦村男子年二十二歳。二三日發熱、骨節痛。病人曰、余之疾疝也。於是病家灸之十五穴。其夜如狂氣、譫言妄語甚。時々有痰喘気急。医與葛根加半夏湯。其医謂其家人曰、病人必死乎。於是病家恐而招余。余診之。其脈浮緊。余與大青龍湯五貼、而大發汗。痰喘氣急止譫語甚。時々嘔。余又與小柴胡湯二貼、而嘔止。余又與大柴胡湯数貼、而全愈。

其二

男子年六歳、痢日数十行或百行、至于其六日。時々嘔吐。医與小柴胡湯、嘔不止、医亦與生□瀉心湯。嘔吐益甚。余與調胃承氣湯一貼、而嘔吐止。五貼而下利減。于半與之十日、而全愈。

其三

婦人産後、面目手足一身浮腫甚。医與防己茯苓湯、亦與大黄甘遂湯。其浮腫益甚。余與桃核承氣湯三貼、而瘀血大下、與之二十五貼、而其浮腫全愈。

愛甲操拝

治験三條

郡浦県馬場村農父勇七歳五十余、臘月初旬憂頭痛、悪寒・骨節疼痛壮。熱如烙。請予診曰、此病得冬時厳寒之候、反而温也。是外為風寒被侵。古人所謂冬瘟也。投達原飲連眠十余貼。邪愈進煩渇。譫語寤寐不安。診之脈洪大。於是與柴胡白虎湯。須臾憎寒戦慄。脈又沈。家人大驚曰、病夫如此、死生難計。周章招予云曰、所謂戦汗也。是邪将解何怪。是有乎有少焉。發汗流離、神気忽爽然。前證如失。以後気血未復。因而與柴胡清燥湯或補中益気湯。調理

六十有余日、而愈矣。

同村宗七者妻歳三十七。妊娠七月、病瘟疫。初微熱頭重、四肢惓怠。自以爲妊中、所為如是。四五日忽壯熱、口乾煩渴引飲。譫語喘。滿乾嘔不止欲。與大柴胡湯。恐墮胎。於是小柴胡湯場合黄連解毒湯投之。二日後安睡。一晬時前症稍減。十五日後投紫蘇和気飲。或人参逍遥散出入加減。滿月而平産、得一男子。如此症盂浪與攻擊之剤。胎子焉得全乎。旦便慮症百出矣。

同縣船津村清右衛門者小児七歳、正月下旬咳嗽二三日、後悪寒發熱頭痛。予診之曰、是外感也。因與葛根湯加桔梗。咳嗽愈甚嘔逆。而不得飲食。口中乾燥、唇口赤色、宛如桃花。盡夜不寐吐涎沫。其脈微細。予曰、是症外乗邪熱、内發蚘虫者也。因而兼眠理中安蚘湯薬汁漸進。二三日而咳嗽嘔逆大半減。飲食又進。以後小柴胡湯出入加減。三十日許得快全。

愛甲壽格
頓首再拝

治験医案四條

男子三十余歳、患寒疝、時々發熱、或手足逆冷、繞臍疼痛如刺。故作芍薬・甘草湯、或小建中湯與之。其證十余日而全愈。

右一條

婦人産後十余日、悪露不盡。惟其氣鬱冒、而臥寝常好暗。適熟睡而夢為橋之上、驚而叫脈数、而渴小便赤渋、心下痞滿。故柴胡加龍骨・牡蠣湯、與數剤。二十余日全愈。

右一條

男子十余歳、患癬瘡、發熱悪寒。故與解毒剤。大便下利日數余行。小便亦如淋、頻數盡夜十余行。故黄苓湯或作五苓散與之。十余日而其證全愈。

右一條

婦人三十歳、卒腹痛發時、腹中鳴動、從少腹上衝心。忽不知人事。須臾而亦知人事。日數余度、此證是食豆腐、而後發。故欲下利、而作大承気湯與之。其腹痛猶甚。因而與大建中湯或甘草粉密湯之類。其證少止少。腹邊逆如梅核之形腫發。少出膿汁。從其中蚘蟲一二條交出。自是至三五日、蚘蟲三十條余。病人自以手出之。故鶴胡采湯與二十貼計、而其證全愈。

右一條

宇土東郊曽畑村善右ヱ門者、年三十有余。酒店ニテ卒ニ嘔吐、下利・悪寒甚シク、腹痛刺痛、角弓反脹、口禁煩悶、躁擾人事ヲカヘリミサル事、半時ハカリ、卒ニ招余診シム。脈緊数手足疼痛、大渴シテ、欲飲水数升、ヨリテ、任脈經、中脘・上脘・巨闕・胃經・不容・承滿・天樞・乳根・膀胱經・肝俞・足太陰脾經・三陰交・膀胱經・崑崙、各針ヲサス事三本。シハラクアリテ、腹痛ヤミ、余證コト〳〵イヱテ腹常。

郡浦手永戸口浦村医、宇土町居住
玄俊

宇土町内桑原作平治者妻、年二十有八。妊娠八・九月、不計腹痛起、心胸苦煩雷鳴切痛青黄水ヲ吐スル事一升余。シハラクアリテ、子生ル。母子無恙。脈緊数。医師衆種々ノ薬方ヲツクリテ、コレヲ与フ。又シハラクアリテ緊数、反テ沈微トナリ、前証頓ニ止ミ、手足厥冷、人事ヲカヘリミサル事半時ハカリ。余コレヲ診スルニ、スコシク煩悶ノ形アリ。衆医以テ大虚トス。又作獨蔓湯ヲコレヲアトフ。然レトモ、薬効ヲ奏セス。余病婦ヲシテ起サシメ、肩井

ヨリ七椎アタリマテ、コレヲアンシ、コレヲ摩スル事六・七ヘン。足少陽膽經、肩井・足太陽・膀胱經・風門・膏肓、膈俞・肝俞、各針ヲサス事三本。又病人ヲシテ、コレヲネセシメ、上脘ヨリ中脘アタリマテ、コレヲ摩シ、コレヲ按任脈經・中脘・上脘・巨闕・足陽明胃經・不容・天樞・足厥陰肝經・期門・督脈經・大推・足少陰腎經・太谿、各針ヲサス事三本。生気出テ後、月余アリテ腹常。

宇土候(ママ)臣園氏ノ奥、年五十有余。カネテ持病アリ。不計持病サシヲコリ、使者ヲ以テ、招余急ニ走テ診之。走豚気胸ニ上衝シ、痰喘氣・急乾嘔・短気・脈沈微、手足厥冷・煩悶躁擾、自汗出ヨリテ、膽經・肩井・膀胱經・風門・肺俞・膈俞・手太陽小腸經・乗風・任脈經・中脘・上脘・胃經・不容・天樞・肝經・章門・阿是穴・痞根・膀胱經・志室、各針ヲサス事三本。シハラクアリテ、前証頓止。後数月アリテ腹常。

覚

郡浦手永愛甲操別五人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、左之通ニ御座候。

前越村居住、御郡医師並

愛甲操

中村居住、御郡代直触

愛甲壽格

右者、医業心懸能、出精いたし、療治方相応ニ被行、病家尋問茂手厚有之由。且外科之医師少キ所柄之由ニ而、操儀、諸方ニ懸、療治方出精いたし候由。

戸口浦村居住、御郡代直触

江上養節

右者、医業心懸能、出精いたし、療治方相応ニ被行、貧富之無差別、廻診懇ニ有之候由ニ而、所柄気受宜年々病家茂相憎候由。

戸馳村居住、御惣庄屋直触

田中宗玄

右者、家業出精いたし、療治方可也ニ被行候由。且戸馳村之儀者離嶋ニ而、外ニ医業茂無之、臨時急場之療治方等得弁利、所柄、爲合ニ相成候由。

戸口浦村源作事

玄俊

右者、鍼術心懸能、療治方相応ニ相進、変業御免被仰付候後者、宇土町江一家を立、滞留いたし、市在ニ懸ケ、療治方夜白之無差別、手広出精いたし候之由。且宇土町之儀者、鍼医居不申由ニ而、去ル戌年御巡見衆御通行之砌茂、鍼療被頼候由ニ付、右玄俊罷出、療治方相動候様子ニ而、所柄爲合ニ相成候由。

右之通ニ而、本紙ニ相替候儀者、付紙用置、其外年数等之次第、書面之通承申候。以上

寅

九月　　井田格蔵 ㊞

宗玄、其儀事、卯二月十六日達、　愛甲壽格卯七月廿四日達。

愛甲操、卯十一月三日申渡。

二一二　北野甚七、喜平

御内意之覚

（九―二三―九）

地士ニ而松山手永横目、馬瀬村居住

北野甚七

右者、天明元年五月馬瀬村庄屋申付、文政三年迄四十年相勤、同年馬瀬村庄屋者差免、松原村庄屋申付、同四年手永横目兼帯申付置候処、文政七年松原村庄屋者、依願差免、手永横目一偏ニ申付、天保六年新開御米山御役人引拂、跡見相兼勤申付、当年迄六十二年相勤候内、庄屋役・手永横目兼候而四十四年、手永横目迄十ヶ年、御米山床見扨兼勤八ヶ年相勤申候。

一寛政四年津波之節、御手船初日丸江積方之御米濡俵上ヶ等、心配仕候旨ニ而、鳥目三貫文被下置候。

一享和元年役方数年精勤、且父代寸志之訳旁被対、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。

一文化五年御手船大徳丸御作事ニ付、心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一同年十月馬瀬村川筋ニ繋方ニ相成候御船々、強風ニ而破損之節心配仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一文化八年馬瀬村零落之所柄、役方多年厚心を用、格別出精仕候旨ニ而、御郡代直触被仰付候。

一七百町新地御築立ニ付、潮留并水理御普請等之節、村夫召連、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一文政十二年去ル子秋凶作ニ付、粮物難渋ニ付、翌夏自然不取実も難計、麦作仕付方格別差悪候様相倡、格別出精仕候間、支配銭之内より、銀弐両差遣申候。

一同年立岡堤掘添之節、稜々出精仕候旨ニ而、銀五両被下置候。

一天保二年役方五十年余心懸能、出精仕候旨ニ而、作紋御上下一具被下置候。

一同六年非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付罷出、致出精、厚心配仕候段、御聞御聞届之御達御座候。

一天保九年役方数十年致出精、及老年候得共、必多度村々打廻、貧民取救等之申談行届、且新開御米山床見扨、自勘ニ而相勤、御蔵拂之節、拂子共江湯茶をも相施、萬端手厚世話いたし、一統之為ニ相成候旨ニ而、地士ニ被仰付候。

右之通ニ而、天明元年親跡庄屋役申付候以来、今年迄六十二年相勤申候。手永横目之儀、昼夜心懸厚、乍老年必多度廻村仕、貧民御取救等之儀、専心を用、見聞行届、別而富家を倡、相対取救等も心配仕、村方一統致帰服、一稜所柄為合ニ相成申候。一躰篤実ニ有之、前条之通、彼方念を入、精勤仕候間、六十年余之勤労、手永内ニハ見合も無之程之者御座候ニ付、相応ニ被賞被下候様。

松山手永曽畑村庄屋

喜平

右者、文政三年庄屋申付、当年迄二十三年相勤、代役共ニ都合三十一年手全出精相勤申候。

一文政十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘并杉嶋新川掘替ニ付而、出精仕候旨ニ而、合羽、傘、菅笠御免被仰付候。其外七百町新地御築立・松合村数度之出火、下益城・宇土海辺新地御築立、或者新井手立、古井手浚方等出精いたし、役方多年心懸能、農業精を出、御年貢等速相納、村方気受宜敷儀等、追々被賞、鳥目等度々被下置候。

右曽畑村之儀、高六百石余ニ而、田畝数三十三町余有之、其内跡

作仕付候畝方拾弐町九反余外無之、残弐拾町余之儀、水気強、菜・麦作仕付難成分、文政五年以来追々新井手立、又者古井手浚方仕、跡作地相増、当時ニ而者、苗床又者端々之水田迄相残居候程之儀ニ而、処柄一稜為合ニ相成申候。右見込筋等、深切ニ申諭、小前々々も進立、新古井手掘・浚仕候処、早速水田乾地ニ相成、跡作菜・麦出来増、秋作も実り宜相成、後年村方成立之基ニ相成候儀、全喜平功業ニ而御座候。兼々村方示方行届、精勤・精農之者ニ御座候間、御別段を以、相応ニ被賞被下候様。

右者、何れも書面之通御座候間、夫々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十三年五月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

甚七儀、達之通ニ而、追々被賞地士被仰付候より六年相成、此前年淺ニ茂相見候へ共、庄屋役六十二年出精相勤候段、達之通ニ付、其侭難被可有、追々之見合を以、銀五両可被下置哉。

喜平儀、庄屋役二十四年相成、出精相勤候段、達之通ニ而無苗・御惣庄屋直触被仰付候ニ者、一ヶ年淺相見候得共、水抜之井手掘方等、功業茂有之由ニ付、一ヶ年引上、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

覚

松山手永北野甚七列両人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、左之通ニ御座候。

馬瀬村居住、地士ニ而手永横目

北野甚七

右者役方心懸厚、六十年余出精相勤候由。惣躰年令ニ者壮健ニ有之、頻々廻村等手厚いにし候由。

曽畑村庄屋

喜平

右者役方数十年心懸能、出精相勤候由、且村方申談茂行届、追々水抜之新井手等掘方心配いたし、所柄為合ニ相成候由。

右之通ニ而、勤年数等本紙書面之通相聞申候。以上

寅九月　　井田格蔵 ㊞

二一三　清七

（九―二三―九）

御内意之覚

無苗・御惣庄屋直触ニ而、松山会所根扨小頭

清七

歳七十七

右清七儀、寛政十一年松山会所小頭申付、当時根扨役相勤居、今年迄都合四十五年、無懈怠精勤仕候。

一文政十一年役方多年手全出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。天保八年役方数年心懸能、出精仕、且松合村度々火災ニ付而、跡家取建、其外新地築立、塘手破損所御普請等ニ付而茂、厚心配仕候ニ付、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。右之外所々御普請等之節々、厚心配仕、出精相勤候ニ付、都合九度鳥目被下置、御間御

聞届、両度御賞美被仰付候。右之通手全ニ精勤仕、最早七十七歳ニ罷成候得共、達者ニ有之、平日心懸厚、専養水懸之御仕法、又者所々新地御築立ニ付而八、根扨役之勤向、至而繁雑ニ御座候処、乍老躰駈廻、精勤仕候者ニ御座候間、御先賞より最早七ヶ年ニ相成候間、御別段を以、苗字御免被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十四年四月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

清七儀、小頭以来四十七年相成、相勤(出精脱か)候段、達之通ニ而見合之規矩ニ当申候間、苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。

覚

無苗・御惣庄屋直触ニ而、松山会所根扨小頭

清七

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、役前数十年手全相勤、年令ニ者壮健ニ有之、所々養水御普請等ニ付而者、心懸能、精勤いたし候由。其外勤年数等之次第、本紙書面之通、相聞申候。以上

卯

六月　　永野敬四郎　㊞

六月廿二日

二一四　壽七郎

（九―二三―九）

御内意之覚

松山手永高良村津横目

壽七郎

歳八十

右壽七郎儀、寛政六年高良村頭百姓申付、享和元年頭百姓者差免、拂頭申付、文化五年右持掛ニ而、津横目兼帯申付、文政二年拂頭者差免、津横目迄相勤居申候処、同十一年高良村庄屋代役申付、天保三年庄屋助役申付、同五年右助役差免、当時津横目一役ニ而、当年迄都合五十年手全ニ精勤仕居申候。

一天保五年頭百姓以来、数十年心懸能、下松新地築立ニ付而、根ニ成、格別出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。右之外精勤仕候ニ付、鳥目をも被下置候。最早及老年候得共、至而壮健ニ有之、津方ニ付而八、昼夜精勤仕、今年迄五十年格別出精仕候ニ付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様、奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十四年四月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

壽七郎儀、頭百姓以来五十年相成、出精相勤候段、達之通ニ而、上等之津横目等者五十年以上之ニ而、無苗・御惣庄屋直触可被仰付究ニ付、壽七郎儀、数年頭百姓兼帯等之訳、極老之者、旁上等場を以、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

覚

松山手永高良村、津横目

壽七郎

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、頭百姓以来役前数十年手全相勤、年令ニ者未達者ニ有之、津方立合等、昼夜無怠精勤いたし候由ニ而、勤年数等之次第、本紙書面之通、相聞申候。以上

卯
六月　　永野敬四郎　㊞

（天保十五年）

二一五　中園英之助、郡浦又太

（九―二三―一〇）

御内意之覚

郡浦手永網田村居住、一領一疋ニ而、塘方助役并井樋方助役

中園英之助

右者、文政三年十二月郡浦手永塘方助役、赤石場見扨兼勤申付、猶天保十三年九月同手永井樋方助役申付、当年迄二十四年相勤居申候処、近来眼病差起、数役相勤居候而者、薬用等届兼申候ニ付、塘方助役并赤石場見扨之儀者、御免被仰付被下候様、願出申候。無拠様子ニ付、願之通差免申度、奉存候。

郡浦新五左衛門育之大叔父

郡浦又太

右者、兼々心得方宜、惣躰篤実ニ有之、筆算相応ニ仕、御普請向格別好熟ニ御座候間、往々御用ニ相立候見込之者ニ御座候。右英之助跡塘方助役・赤石場見扨申付度奉存候間、在勤中一領一疋被仰付被下候様、奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

天保十五年正月　　筑山又兵衛

御郡方
御郡代衆中

僉議

中園英之助儀、塘方助役、赤石場見扨兼勤被差免候儀、存寄無之段、及達可申候。

郡浦又太儀、右英之助跡塘方助役・赤石場見扨被申付度由ニ付、在勤中一領一疋可被仰付哉。

但在御家人二男末子弟ニ者、容易ニ在勤中之役席不被仰付、尤一手永ニ而、外ニ可被召仕人柄無之節ハ、其趣委達有之候様。天保十年及達置候処、又吉（ママ）儀者、本紙付紙之通ニ付、本文之通相しらへ申候。

右僉議之通、四月十九日達

覚

郡浦手永中園英之助、郡浦又太両人、役儀進退、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、左之通御座候。

網田村居住、一領壱疋ニ而、塘方・井樋方助役并赤石場見扨兼勤

中園英之助

右者、郡浦手永塘方・井樋方助役并赤石場見扨兼勤、数年相勤居候処、近来眼病差起、数役相勤居候而者、薬用等届兼候ニ付、塘方助役、赤石場見扨御断願出候儀、眼病者格別重キ病症と茂相見不申、内輪無拠筋茂有之候様子ニ而、役前ニ付而者、何そ相替り候唱茂相聞不申候。

郡浦新五左衛門育之大叔父

郡浦又太　三十九歳

右者、篤実成人物ニ而、筆算相応ニ仕、御普請向之儀者、文政十年以来、自勘見習、其外追々御用懸等被仰付、心懸能相勤居候由ニ付、塘方助役等被仰付候而茂、相応ニ者相勤可申哉ニ、相聞申候。右見聞仕候趣、御達申上候。以上

辰　二月　本山文助　㊞

二一六　竹馬幾右衛門、中山直右衛門　他　（九―二三―一〇）

御内意之覚

松山手永小曽部村庄屋　御郡代直触　竹馬幾右衛門

右者文化八年親竹馬文四郎庄屋代役申付、同十三年親跡庄屋本役申付、当年迄本役二十九年・代役五年、都合三十四年手全相勤申候。

文政八年七百町新地御築立ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一同十年防禦御備玉薬料弐貫五百目差出候ニ付、御郡筒被召抱候。

一文政十二年立岡堤掘添并松島新川掘替ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一天保二年父寸志之訳ニ被対、父同様御郡代直触被仰付候。

一同五年松合村数度出火、跡家建方之節、厚心配いたし、救浦并下り松新地築立ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一同六年去ル卯年非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付、出精仕候旨ニ而、御間御聞届之御達御座候。

一天保十二年下益城・宇土海邊新地御築立ニ付、無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

右幾右衛門儀、庄屋本役二十八年、代役共三十四年相勤、寸志之訳ニ而、御郡代直触被仰付候得共、是迄年功之御賞美無御座、小曽部村之儀、千石程之村方ニ而、旱田第一之所柄、追々養水方ニ付、新井手・新堤等掘方仕、水田乾地地ニ相成、跡作出来増之仕方、厚心配仕、村中示方行届、一躰被扶居、御年貢・諸出銀茂速相納、会所向諸滞物無御座、村方漸を以成立、不相替精勤仕候。最早八十五歳ニ罷成、至而壮健ニ御座候得共、余命無御座者ニ御座候間、御別段を以、相応御賞美被仰付被下候様。

下松山村庄屋　御郡代直触　中山直右衛門

右者、文政三年松山会所見習申付、文政八年小頭申付、父中山唯助庄屋代役申付、同十一年父跡庄屋申付、見習以来都合二十五年手全ニ精勤仕候。

一文政八年七百町新地御築立ニ付、出精仕候旨ニ而、御間御聞届之御達御座候。

一右直右衛門儀、父唯助病死仕候ニ付、祖父中山武助孫養子奉願、文政十二年、右武助五拾年余之勤ニ被対、御郡代直触ニ被御付候。

一同年立岡堤御塘添之節、心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一天保五年松合村度々出火、跡家建方等、厚心配仕、且救浦并下松新地築立ニ付而も、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一同六年去卯年以来、非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付、出精

仕候旨ニ而、御聞御聞届之御達御座候。

一天保十二年下益城・宇土海辺新地御築立ニ付、無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

右下松山之儀、千石近村高ニ而、名高旱損所ニ御座候処、先年立岡堤塘添前後、養水増之法立等、色々手を盡、新井手又者古堤・古井手凌等仕、一通之照続ニ而者、旱損不仕様相成、近十年旱損之憂無御座、夫々応御免崩候程之儀も無御座、去秋者一統虫害御座候得共、多受除、皆無之畝方も御座候得共、持合ニ而拾石余之御心付来ニ而相済、一躰勧農ニ基、作馬杯も相増、其上立岡水懸ニ而、地性も和、且水気抜等ニ而、跡作地も相増、粮物出来増、農力を得候ニ付、肥・手入も行届、御年貢・諸出銀も次第ニ速ニ相納候様相成申候。直右衛門儀、兼而示方行届候処より、人質茂立直シ、是迄二十五年之勤労被賞、作紋御上下壱具被下候様。

松山手永笹原・網津・下網津三ヶ村御山口

伊左衛門

右伊左衛門儀、文化八年笹原村御山口申付、文政八年下網津御山口兼帯申付、同十二年網津村御山口当分兼勤申付、文政六年松山手永馬瀬・笹原・笠岩村、郡浦手永恵里・鶴見塚・両新開、都合七ヶ村塘筋御仕立櫨下見扨申付、当年迄都合三十四年、格別出精仕候。

一文政十二年御仕立櫨根浚採方手入等、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫五百文被下置候。

一天保二年笹原村養水磧・井樋罷込等ニ付、入目銭寸志差出、寄特之儀ニ付被賞、傘・小脇差御免被　仰付候。先年立岡掘添之節道懸等之節、夫方同前出精仕候旨ニ而、鳥目三百文被下置候。

一同五年松合村度々出火、跡家立等之節、竹木剪出ニ付、格別骨を折、宇土町出火ニ付而も、心配仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。右之通、出精仕、生得手全有之、平日御山廻等心懸厚、扨方も宜、壱人ニ而手広、御山繁茂仕候様、年々杉・桧等植込、世話筋行届、馬瀬列塘筋櫨下見扨ニ付而者、春秋根浚採方等心配行届申候。殊ニ近年所々御作事、又者御普請等ニ付而、竹木御山出等速相調、格別出精仕、彼是三十四年之勤労ニ被対、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右之面々何れ茂書面之通、精勤仕候者共ニ御座候。夫々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十五年三月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

幾右衛門儀、庄屋役二十九年寸志ニ而、御郡代直触被仰付候より十四年相成、役方心懸能出精いたし、新堤・新井手掘方等村方立行之儀、厚心配いたし候ニ付、相応被賞被下候様、達之通ニ付、追々之見合を以、鳥目弐貫文可被下置哉。

直右衛門儀、会所見習二十五年、小頭より二十年、庄屋役十七年相成、前条幾右衛門同様出精相勤、村方立行之儀等、厚世話いたし候儀茂有之候段、達之通ニ付、追々之見合を以、鳥目壱貫五百文可被下置哉。

但直右衛門儀、作紋麻上下一具被下置候様、達茂有之候得

共、夫丈之儀者相見不申、本行之通しらへ申候。
伊左衛門儀、山口三十四年、多年他村山口を茂兼、出精いたし候段、達之通ニ而、年数見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

二一七　井上育太郎　他

（九―二三―一〇）

覚

松山手永井上育太郎列七人、別紙申立之趣に付、見聞仕候処、左之通御座候。

三日村居住、唐物抜荷改方御横目、御郡代手附横目并井樋方助役・津口・陸口見扨兼帯、在勤中諸役人段

井上育太郎

右者数々之役方、数年心掛能、出精相勤、近年手永内、諸御用筋多有之候処、いつれ之役方茂御間抜ニ相成不申様、各別出精相勤候由。

御郡代直触ニ而、松山会所手代・手永見扨兼帯

野村新助

右者役方数十年心掛厚、出精相勤、手永内諸御普請等之節者、根ニ成相勤、且村々零落成立風儀立直等、厚心配仕、惣躰会所役人中、一和ニ申談、御用筋差入、出精仕、諸事精勤之次第、先者抜出之勤方とも可申哉。且又大勢之家内熟和ニ有之、父母江事方宜有之候由ニ而、先年御賞美茂被仰付、其後不相替家内熟和ニ有之、父江事方手厚、起臥・飲食等各別心を用、事方仕候由。

桑蚕請込、在勤中御郡代直触ニ而、三日村庄屋

井上嘉久次

右者役方心掛能、出精相勤、会所役兼帯ニ而、所々庄屋相勤候処、多者零落之村方を受持、所々ニおゐて諸事厚心配仕、御年貢・諸出銀等、速ニ相納、格別精勤仕候由。

在勤中御郡代直触ニ而高良町廻

河野八郎助

右者役方出精相勤、下り松御番人欠跡等之節者、代勤を茂仕、且年々抜米見扨等之節者、心掛打廻候由。尤本紙ニ町廻ニ付而者、昼夜廻勤等、無懈怠精勤仕候と有之候得共、町廻勤方之儀者、並々之勤方之由ニ承申候。

御郡代直触ニ而小曽部村庄屋

竹馬幾右衛門

右同、下松山村庄屋

中山直右衛門

右両人役方心掛能、出精相勤、いつれ之村方も旱田之所柄ニ有之候処、追々新堤、新井手掘方奉願、水田之ヶ所者、乾地ニ相成、跡作出来増之仕法等厚心配仕候ニ付、御年貢・諸出銀も次第ニ、速ニ相納候様相成候由。

笹原両網津三ヶ村御山口

伊左衛門

右者役方心掛能、出精相勤、御山廻等も無油断打廻、年々杉、檜植込等心配仕、松山手永馬瀬村列三ヶ村、郡浦手永恵里村列四ヶ

村、都合七ヶ村塘筋櫨下見扨之儀茂、心懸能相勤候由。
右之通ニ而いつれ茂勤年数之次第等、夫々本紙書面之通、承申候。
以上
辰
四月　　河田俊右衛門　印

二一八　藤九郎、直次　他

（九―二三―一〇）

御内意之覚

松山手永大見村庄屋、無苗御惣庄屋直触
藤九郎　歳五十一

（書込）
此藤九郎事、御郡代直触に相成居、
河野九郎次と申候事。
右者、文化三年松山会所見習申付、同七年小頭役申付、同十四年根扨助役申付、文政四年根扨本役申付、天保三年大見村庄屋兼帯申付、同九年根扨役者依願差免、当時庄屋一遍ニ申付、今年迄都合三十九年相勤申候。
一文化四年御類焼之節、寸志差上候処、傘御免被仰付候。
一同十二年大口村新地築立之節、数十日昼夜出精相勤候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。
一同十三年西本願寺使僧罷下、御国中寺々宗意糺方之節、出精仕候旨ニ而、鳥目三百五拾文被下置候。
一同十四年去子秋、非常凶作ニ付而、御取立被是致出精、且去春以来両手永打込之御普請ニ付、数ヶ所新堤・新井樋居方・井手掘等出精仕、将又御囲籾蔵建方出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。
一同十年七百町新地御築立ニ付而、出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。
一同十二年役方多年出精仕、且立岡堤掘添之節、一切根ニ成、厚心配いたし、且又杉嶋新川掘替ニ付、出精いたし候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付候。
一天保五年大見村ニ而、櫨方新地再興ニ付、始末御普請小屋江詰切、塘手丈夫ニ築立、御出方減之儀、其外一切主ニ成、格別出精仕候旨ニ而、鳥目弐貫文・銭七拾目櫨方より拝領仕候。
一同六年去卯年非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付、余計之夫仕等、厚致心配候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。
一同十一年去々夏、御巡見御用相勤候ニ付、御間御聞届之御達御座候。
一同十二年下益城・宇土於海辺、新地御築立ニ付、石・竹木等差出、自勘ニ而相勤、且潮留之節、出夫仕、船をも差出、格別出精仕候旨ニ而、鳥目三貫文被下置候。
一文政九年松合村初度出火ニ付、即刻駈付、取防灰寄、跡家建方又者焼亡之者共、御救渡等ニ付、昼夜右村江相詰、数日心配仕候。
一同十年右松合村焼亡之者共、取救之為、救浦新地築立ニ付而、出役仕、成就迄御普請小屋江相詰、出精仕候。
一同十一年八月、大風ニ而救浦并大口村新地・大見村新地及破損候節、御普請成就迄数十日、双方ニ懸、昼夜相詰、出精仕候。
一同年十二月松合村二度目火災之節、初度目同様出精仕、翌正月迄相詰申候。
一文政十二年救浦新地風災手残、且同所波戸築方等へ切引受、積方より成就迄、数十日昼夜相詰、各別出精仕候。

一同年宇土町火災ニ付、灰寄より跡家建方材木御山出、彼是数十日罷出、出精仕候。
一同年下り松新地築立ニ付、初發積方より罷出、翌年成就迄始末小屋詰仕、出精仕候。
一同十三年松合村三度目出火節、初度目同断。
一同年右焼失之者、救浦新地江家直ニ付、地形持積方より夫仕迄、数十日相詰、出精仕、家建入用之材木、茂道御山なり被渡下候ニ付、彼方江出役仕、骨折相勤申候。
一文政五年緑川筋刎蔓御普請ニ付、出役仕、始末出精相勤申候。
右藤九郎儀、前条之通相勤、松合村数度之火災、宇土町出火、都合竈数千軒程之焼失跡取建、且子年風災跡御普請、下松・救浦両新地畝数三拾町程出来、大曲水刎御仕継、新開村御米山取與等、出精仕、根扨役在勤中三隅丈八代、松山手永養水として、村々新堤・新井手掘浚等、余計出来仕候ニ付、差入り出精仕、水田乾地ニ相成、地味立直、跡作出来増、上下為合ニ相成、数ヶ条別段出精仕、会所見習已来当年迄三十九年手全相勤、庄屋役申付候後者、村方格別取扨、稜々功跡御座候間、此節苗字御免被仰付被下候様。

岩隈村庄屋并松山手永井樋方小頭兼帯、無苗
御惣庄屋直触
直次

右者、文化三年村帳書相勤、同八年親跡岩隈村・布右閑村庄屋并御山口兼帯申付、布古閑村庄屋之儀者、文化十五年依願差免、岩隈村庄屋并御山口相勤居候処、文政十年御山口者差免、岩隈村庄屋持懸ニ而、井樋方小頭兼帯申付、都合三十九年相勤候内、帳書五年、庄屋・御山口三十四年相勤申候。
一文政八年八代七百町新地御築立之節、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
一同十二年役方数年致出精、立岡堤掘添、且杉嶋新川掘替ニ付、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。
一天保五年役方多年心懸厚、出精仕候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。
一天保十二年下益城・宇土海辺新地御築立之節、始末出精仕候旨ニ而、鳥目弐貫文被下置候。
右岩隈村之儀、小高ニ而御座候得共、廻江手永守富在引続、片穂所ニ而、前々より手永第一之零落所ニ而、平素心配筋多御座候得共、数年世話行届、御年貢・諸出銀速ニ相納、格別御難題ニ至不申候様取計、井樋方小頭ニ付而者、下地余計之井樋数之上、近年大少井樋格別相増、南北海辺潮受之井樋々々、年々戸前替、又者不時破損も多御座候処、是又無間抜取計、両役共格別出精仕候ニ付、苗字御免被仰付被下候様。

松山手永上古閑村庄屋
儀平

右儀平儀、文化十四年父跡庄屋役申付、当年迄親代役十年、本役二十八年相勤申候。
一文政八年七百町新地御築立之節、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
一同十二年役方数年出精仕、立岡大堤掘添、且杉嶋新川掘替ニ付、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。
一天保五年松合村度々大火跡家建方等ニ付、心配仕、救浦并高良村

下り松新地築方ニ付而も、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
一天保六年庄屋代役以来、多年出精仕、村方帰服仕、御年貢・諸出銀速ニ相納、養水等ニ付而、格別心を用、出精仕候ニ付、先役より支配銭之内、壱貫五百文差遣申候。
一天保九年役方多年心懸厚、出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。
一同十二年下益城・宇土海辺新地御築立ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
右者惣躰篤実ニ有之、庄屋役申付候以来、諸事手厚世話仕候ニ付、一村一和仕、勧農ニ基申候。右之通深切ニ相勤申候ニ付、弥以村方風儀宜、一統農業出精仕、御年貢も近年二番・三番迄皆納仕、諸公役も速相勤、諸出銀其外滞物等無御座、手永第一之村立ニ而、偏庄屋示方行届候。所より之儀ニ御座候間、未年数浅御座候得共、御別段を以、此節無苗・御惣庄屋直触被仰付被下候様。左候ハ、所柄風教之一助ニも相成可申奉存候。

松山手永佐野村庄屋

次助

右者数代庄屋之家ニ而、文化十三年兄恵七跡、庄屋役申付、当年迄全二十九年相勤居申候。
一文政八年七百町新地御築立之節、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
一同十二年役方数年出精仕、且立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。
一天保五年松合村度々火災、跡家建方厚心配仕、救浦并下り松新地築方ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
一天保九年役方多年心懸厚、出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。
一同十二年下益城・宇土海辺新地築立被仰付候節、無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
右之通追々御賞美も被仰付、村方示方宜、弥次申談も行届、勧農ニ基、御年貢・諸出銀も、年々手永中二番・三番迄之内、皆納仕、諸公役之儀も一致ニ申談相働、手永寄夫御普請之節も、毎も一番仕上ヶ仕、村方一躰古風取失不申、萬端少茂無申分、際立居、偏次助功業ニ而、前段上古閑庄屋儀平ニ比類仕候者ニ御座候間、二十九年之勤労ニ被対、御別段を以、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

松山手永古保里村庄屋・御山口兼帯

弥平次

右者文化八年松山村佛頭申付、文政元年同村御山口申付、同三年御山口者依願差免、同五年御山口帰役申付、天保七年同村庄屋助役申付、同十一年古保里村庄屋本役申付、当年迄佛頭共、都合三十三年手全ニ相勤申候。
一文政十二年立岡堤掘添ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目三百文被下置候。
一天保十二年下益城・宇土海辺新地御築立ニ付、無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。
右弥平次儀、生得手全ニ有之、御山口之儀、平日見扨行届、各別出精一躰心得方宜、松山村之儀、千三百石余之大村、多人数之所柄取扨筋申談、萬端堅固ニ取計、風儀も立直、御年貢・諸出銀共限々無滞相納、功業相見申候。古保里村入庄屋も申付、不相替精勤仕、心配行届、一躰取扨居申候。庄屋・御山口都合二十六年相勤、佛頭共三十三年相勤申候間、礼服御免被仰付被下候様。

松山手永馬瀬村庄屋

喜助

右者文政五年庄屋当分申付、同七年本役申付、当年迄二十三年相勤申候。

一文化元年御才覚銭壱貫三百目寸志差上申候ニ付、礼服・小脇差・傘・合羽・菅笠御免被仰付。

一文政十二年立岡堤掘添并杉嶋新川掘替ニ付、致出精候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一天保五年松合村度々火災ニ付、厚ク心配いたし、且救浦新地并下松新地築立ニ付而も、出精いたし候ニ付、鳥目壱貫文被下置候。

一天保十二年下益城・宇土海辺ニおゐて、新地御築立ニ付、無間抜出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

馬瀬村之儀、高千石程ニ而、宇土御知行所第一之零落・片穂所ニ而、年々高地も片付兼、御年貢・諸出銀之取立難渋仕、昼夜心配強、其上緑川筋宇土川ニ而、引包居候所柄ニ而、洪水之節、別而心配多、数艘之井樋仕替、彼是余村と違、各別骨折申候。喜助儀、手全ニ有之、村方帰服仕、一躰行届居、当年迄庄屋役全二十三年出精相勤、下地寸志之訳ニ而、礼服・小脇差御免被仰付候者ニ付、此節無苗・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

松山手永柏原村庄屋

喜八

右者文政元年より親長兵衛庄屋代役申付、同五年親跡柏原村庄屋申付、当年迄代役四年、都合二十七年相勤申候。

一文政八年七百町新地御築立ニ付、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一文政十一年非常之風災ニ付、村々一統御足米願出候得共、受免通、請除せ、御年貢速皆済仕せ、示方行届候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一同十二年立岡堤掘添并杉嶋新川掘替之節、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一天保五年松合村度々出火、跡家取建等厚心配いたし、救浦并下り松新地築立ニ付、厚出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一天保六年役方出精仕、村方示方行届候ニ付、勧農ニ基キ候旨ニ而、村方江者酒肴差遣、庄屋喜八江者、支配銭より壱貫文差遣申候。

一天保十二年下益城・宇土海辺新地築立被仰付候節、無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壱貫文被下置候。

一村備之儀、先年以来一統誘方申付候得共、近年不作続ニ付、被行兼居候内、庄屋より手厚相誘候ニ付、去ル文政十三年正月より当卯年迄十四ヶ年之間、軒別より一ヶ年ニ縄四拾五束完差出せ候処、都合六百三拾束余、壱束ニ付壱匁五分完、〆九百五拾七匁余之備高相成、年々貨殖之取計仕、当時弐貫五百目余ニ相成、此後も次第、備増ニ相成可申、此儀茂庄屋功業ニ而御在候間、彼是ニ被対相応被賞被下候様。

右之面々、書面之通、精勤仕候者共ニ御座候間、夫々御賞美被仰付被下候様。於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十五年三月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

衆議

藤九郎儀、小頭以来三十五年、無苗御惣庄屋直触より十六年、相成、心懸能、出精相勤、稜々功業茂有之候段、達之通ニ而見合も御座候間、苗字可被成御免哉。

直次儀、庄屋三十四年之内、無苗ニ而御惣庄屋直触より十一年相成、出精相勤候ニ付、苗字御免之達有之見合年数ニ者、一ヶ年浅候得共、数十年兼帯之役茂有之候ニ付、一ヶ年引上、苗字可被成御免哉。

儀平儀、庄屋役二十八年、次助儀、庄屋役二十九年心懸能出精相勤候段、達之通ニ而、年数見合も御座候間、両人共無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

弥平次儀、山口より二十六年、庄屋ニ而山口兼帯より九年相成、出精相勤候儀、達之通ニ而、山口礼(マ脱か)御免年数ニ者、一ヶ年浅相見候得共、其内九年ハ両役相勤候儀茂有之候ニ付、一ヶ年引上、礼服可被成御免哉。

喜助儀、寸志ニ而下地礼服御免相成居、庄屋役二十三年出精相勤候段、達之通ニ而、年数見合茂御座候間、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

喜八儀、親代役を省、庄屋本役より二十三年相成、出精相勤候段、委細達之通ニ而、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。年数ニ者、二年浅候得共、村備之儀、厚心配いたし候。別段之功業茂有之候ニ付、旁を以、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。

覚

松山手永大見村庄屋藤九郎列七人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、左之通ニ御座候。

無苗・御惣庄屋直触ニ而、大見村庄屋

藤九郎

右者、役方心懸能、出精相勤、村方世話筋厚心配仕、且三隅丈八松山手永在勤中、村々養水として新堤・新井手掘浚等、余計ニ出来仕候節、根扨小頭ニ而差入、出精仕、水田乾地ニ相成、跡作出来仕、村々為合ニ相成候由。

無苗・御惣庄屋直触ニ而、岩隈村庄屋井樋

方小頭兼帯　直次

上古閑村庄屋　儀平

佐野村庄屋　次助

古保里村庄屋・御山口兼帯

弥平次

馬瀬村庄屋　喜助

柏原村庄屋　喜八

右六人役方心懸能、出精相勤、熟茂村方之世話筋心配いたし、直次儀者、両役共ニ各別出精仕、儀平・次助儀者、近年御年貢二番・三番迄ニ皆納仕、喜八儀者、天保元年より村備之仕法手厚相誘、纔之集銭を以、年々貨□之取計仕、当時者弐貫目余之備銭出来仕、村方一稜之為合ニ相成候由、惣躰いつれ茂、小前示方等手厚仕候由。

右之通ニ而、銘々之功業并勤年数之次第共ニ、夫々本紙書面之通承申候。尤相替候儀者、本紙ニ付紙を用、御達申上候。以上

辰

四月

河田俊右衛門　印

（弘化二年）

二一九　小郷藤兵衛　（九―二三―一一）

御内意之覚

松山手永御郡代直触ニ而、病死仕候小郷彦太

悴

小郷藤兵衛

歳三十四

右者、父彦太儀、寛政四年会所見習ニ呼出、同十一年小頭役申付、同十三年会所詰ニ申付、文政三年手永横目兼帯申付、同六年副手代申付、同七年善導寺村庄屋兼勤申付、天保四年差免、昨年迄都合五十三年相勤、同十一月病死仕候。右在勤中文政十年役方数年出精いたし、御蔵払一件厚ク世話いたし、上下之為合相成候旨ニ而、無苗、御惣庄屋直触被仰付、天保九年会所見習以来役方数年心懸厚ク、其余臨時之御用筋、出精仕候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付候。悴藤兵衛儀、文政七年会所見習ニ呼出、同十三年小頭役申付、天保六年会所詰当分申付、同八年本役申付、当年迄都合二十一年相勤、御用筋呑込能、精勤仕、武芸茂心懸、筆算達者ニいたし、往々御用ニ相立可申見込之者ニ御座候間、父五十年余之勤労被対、苗字御免、御惣庄屋直触被召出被下候様、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

弘化二年十二月　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤兵衛儀、達之通父小郷彦太五十年余相勤、相果候付、追々之見合を以、藤兵衛儀、苗字御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

但最前寸志取加申立ニ相成候得共、間違之儀有之、本文之通、猶達ニ相成候付、見聞之書付者、最前之侭相添置申候。

右僉議之通十二月廿日達。

覚

松山手永下松山村居住、御郡代直触ニ而致病死候。小郷彦太悴

小郷藤兵衛

右者、親跡相続、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、手堅人物ニ而、会所見習以来役方数年出精いたし、武芸をも心懸能、炮術者目録相伝相済居、行状ニ付異候唱も相聞不申、且父代寸志銭根譲受候儀、其外勤年数等委細者、本紙書面之通ニ相聞申候。以上

巳

二月　河野子次右衛門　印

（弘化三年）

二二〇　西　玄甫　（九―二三―一二）

御内意之覚

松山手永下網津村居住、独礼医師ニ而病死仕候。西元章悴

病案三条之内　　西玄甫

二法　破的　　歳三十四

一法　失鵠

右先祖者、菊池之後族ニ而、天正之比より農家ニ罷成居候処、高祖父西精甫代医業ニ罷成、金津又四郎支配を請居、曽祖父甫括代、元文五年御郡奉行直触ニ被仰付、寛保四年御郡医師並ニ被召直、安永三年依頼御免被仰付、同年祖父梅寿儀、医業心懸能、療治方手広出精仕候旨ニ而、御郡医師並ニ被仰付置候処、享和元年病死仕候ニ付、亡父元章儀、享和三年家業心懸能、出精仕候旨ニ而、親跡御郡医師並ニ被仰付、天保九年家業心懸能、療治方手広出精仕候旨ニ而、独礼ニ進席被仰付置、今年迄四十三年御郡並之御奉公相勤、当八月病死仕候。然処、右玄甫儀、元章相続之三男ニ而惣躰人柄宜敷、療治方心懸厚ク、当時療治懸之村々、網引・網津・下網津・笠岩四ヶ村ニ而、竈数三百五拾軒余、病人数七百拾人余、其外近郷より頼来候病人茂段々有之、一稜所柄為合ニ相成、殊ニ施薬躰之療治茂多ク有之由ニ而候得共、左様之儀者、無拘真実ニ療治いたし、将又先年松合村疫病流行之節罷出、出精仕候旨ニ而、御銀拝領茂被仰付、其外地場御普請取出役、彼是精勤仕候。加之数代御郡医師並又者進席茂被仰付、亡父四十余年之勤労茂有之候ニ付、旁ニ被対、玄甫儀、此節御郡医師並ニ被仰付被下度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下。（ママ）（候脱か）

以上

引化二年十二月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄甫儀、家業之様子、医業吟味役江及問合申候処、治療習熟、学業篤志之由達有之、再春館御目附見聞之趣も同様ニ而、科目丙科相当申候。依之独礼医師跡目、右科目究之通、御郡医師並可被召出哉。

右僉議之通、閏五月廿一日達。

覚

松山手永下網津村居住、独礼医師ニ而病死仕候。西元章忰　　西玄甫

右者親跡相続、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、家業心懸能、致出精、療治方相応ニ被行、病家貧富之無差別廻診等懇ニ有之、所柄為合ニ相成候由。且行状ニ付、異候唱茂承不申、其外本紙書面之通相聞申候。以上

午三月　　鶴田市喜　㊞

二二一　中村角太

（九―二三―一三）

御内意之覚

郡浦手永地士ニ而致病死候。中村慶太忰　　中村角太　　三十六歳

右家筋之儀者、正保元年一領一疋ニ被召出、其後代々相続被仰付来候処、曽祖父代役前届兼候儀有之、一領一疋被差除、祖父代よ

り地士ニ被召出、父慶太儀、文化元年地士ニ相続被仰付、去巳年迄四十三年、御郡並之御用無懈怠相勤、去七月病死仕候。悴角太儀、武芸茂心懸、生得健成者ニ而、相応御用ニも相立可申者ニ御座候間、家筋旁被対、父跡地士相続被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化三年五月　　杉浦津直

御郡方
御奉行衆中

僉議

角太儀、達之通ニ付、先例之通、親跡地士可被仰付哉。

右僉議之通、十月六日達

覚

郡浦手永下網田村居住、地士ニ而病死仕候。
中村敬太悴　　中村角太

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、右角太儀、壮健成人物ニ而、武芸稽古いたし、行状ニ付異候唱承不申、且亡父敬太儀四十三年相勤候と有之候得共、四十二年相勤候由ニ而、御赦免開等所持仕居不申、其外家筋等之次第、委細者本紙書面之趣ニ相聞申候。以上

午
八月　　本山文助　㊞

二三二　竹馬圓次　（九―二三―一三）

御内意之覚

松山手永御郡代直触、竹馬幾右衛門悴ニ而、会所下代役　　竹馬圓次

右者、文化十四年会所見習ニ呼出、文政三年小頭当分申付、同五年本役ニ操上、同九年差免、小曽部村庄屋代役申付、天保四年会所詰助役申付、同六年本役ニ操上、同十四年下代役申付、当年迄都合三十ヶ年格別精勤仕居候ニ付、勤労被対、相応御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。已上

弘化三年四月　　杉浦津直

御郡方
御奉行衆中

僉議

圓次儀、小頭以来二十七年相成、各別出精相勤候段、達之通ニ而、見合茂御座候間、鳥目壱貫文可被下置哉。

覚

松山手永小曽部村居住、御郡代直触竹馬幾右衛門悴ニ而、同会所手代
竹馬圓次

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、会所見習以来、役方多年心懸能、出精相勤、当時者手代役相勤居、別而精勤いたし候由ニ而、勤年数等之次第、本紙書面之通相聞申候。以上

午

六月　　久野多学　印

二二三　岡村弥次兵衛、稲原久左衛門　他　（九―二三―一三）

御内意之覚

郡浦手永御郡代直触ニ而、波多村庄屋
岡村弥次兵衛

右者、文政六年波多村庄屋役申付、当年迄弐十四年無怠相勤居申候。

同手永栗崎村庄屋
稲原久左衛門

右者文化十二年より村役相勤、文政三年栗崎村庄屋役当分、同九年本役申付、当年迄弐十七年村役ともニ都合三十六年心懸能相勤居申候。

同手永御郡筒ニ而手場村庄屋
三浦久兵衛

右者文化十二年会所小頭申付、文政九年手場村庄屋役申付、当年迄弐十一年会所役ともニ都合三十二年精勤仕候。

同手永御惣庄屋直触ニ而、三角村庄屋
緒方庄兵衛

右者文政七年三角村庄屋役申付、当年迄弐十三年出精相勤居申候。右四人勤年数等、右之通御座候間、いつれも相応ニ被賞被下候様、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

弘化三年三月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

弥次兵衛列四人、庄屋役二十年余出精相勤候段、達之通ニ而見合茂御座候間、鳥目壱貫文完可被下置哉。

覚

郡浦手永波多村庄屋、御郡代直触
岡村弥次兵衛

同手永栗崎村居住、御郡代直触、稲原覚左衛門養父ニ而、同村庄屋
稲原久左衛門

同手永御郡筒ニ而手場村庄屋
三浦久兵衛

同手永三角村庄屋、御惣庄屋直触
緒方庄兵衛

右四人、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂役方多年心懸能、出精相勤、村方之世話筋茂手厚有之候由ニ而、勤年数等本紙書面之通相聞申候。尤久兵衛勤年数三十六年と有之候得共、三十二年ニ相成候由、承申候。以上

午
六月　　久野多学　印　（九―二三―一三）

二二四　堀内徳右衛門

御内意之覚

郡浦手永石橋・神原両村庄屋ニ而、御惣庄屋

直触

堀内徳右衛門

右者、天明七年石橋村頭百姓申付、寛政三年村横目申付、文化九年同村庄屋申付、文政三年神山村庄屋兼勤申付、当二月右兼勤者差免、神原村庄屋兼帯申付、都合六十ヶ年出精相勤申候。

一天保三年役方数十年心懸能、出精仕候ニ付、無苗・御惣庄屋直触被仰付、同八年村役以来五十年余出精いたし、村方成立筋等も厚ク心配いたし候旨ニ而、苗字被成御免候。

右之通ニ而六十ヶ年心懸能、精勤仕候ニ付、年労被対、御郡代直触被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜ク被成御参談可被下候。已上

弘化三年四月　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

徳左衛門儀、頭百姓以来六十年之内、庄屋三十五年、苗字御免より十年相成、出精相勤候段、達之通ニ而、見合茂御座候間、御郡代直触可被仰付哉。

覚

郡浦手永石橋・神原両村庄屋ニ而、御惣庄屋直触

堀内徳右衛門　八十歳

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、頭百姓以来役方六十年心懸能、出精相勤、老年ニ者、未夕達者ニ有之、村方之世話筋等手厚有之候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

午六月　久野多学　印

（九―二三―一三）

二二五　啓右衛門、嘉右衛門

御内意之覚

郡浦手永伊津野村庄屋

啓右衛門

右者、文政六年小頭申付、同十年伊津野村庄屋申付、当年迄弐十年、会所役ともニ都合弐十四年出精相勤居申候間、被賞礼服被成御免被下候様。

朱筆　両恵里村庄屋　嘉右衛門

病死ニ付省ク

右者、文政四年村役申付、同七年恵里村庄屋当分申付、同十二年本役、天保四年下恵里村兼勤申付、当年迄村役共都合弐十六ヶ年出精相勤候ニ付被賞、礼服被成御免下候様。

波多村御山口

新助

右者、寛政九年村役申付、文化十年波多村御山口申付、天保十三年役方数十年出精相勤候ニ付、礼服被成御免、当年迄都合五十年精勤仕候付被賞、無苗・御惣庄屋直触仰付被下候様

前越村頭百姓

勇助

右者、寛政八年頭百姓申付、当年迄五十一ヶ年、無怠相勤居申

候ニ付被賞、礼服御免被成下候様。
右者、何れも書面之通、夫々御賞美被仰付被下候様。於私奉願候。
此段宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化三年三月　　杉浦津直

御郡方
御奉行衆中

僉議

啓右衛門儀、庄屋二十年出精相勤候段、達之通ニ而見合茂御座候間、礼服可被成御免哉。
新助儀、山口三十四年出精相勤候段、達之通ニ而見合茂御座候間、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。
勇助儀、頭百姓五十一年手全相勤候段、達之通ニ而見合茂御座候間、礼服可被成御免哉。

覚

郡浦手永伊津野村庄屋　啓右衛門　四十一歳
同手永波多村御山口ニ而、礼服御免　新助　七十五歳
同手永前越村頭百姓　勇助　七十三歳

右者三人別紙之趣ニ付、見聞仕候処、何れ茂役方数十年出精いたし、啓右衛門儀者、村方之世話筋茂手厚、新助・勇助両人者、最早老躰ニ罷成候得共、心懸能相勤候由ニ而、右三人勤年数等之儀、本紙書面之通承申候。以上

午六月　　久野多学　印

二二六　神尾喜栄

（九―二三―一三）

御内意之覚

（朱筆）　松山手永御郡医師ニ而病死仕候、神尾三鼎忰
「病案三条共　神尾喜栄
破的　」　本道　二十一歳

右者、父三鼎儀、天保十二年家業心懸能ク療治方出精いたし、且祖父代以来寸志之訳、旁被対、弐人扶持被下置、御郡医師被仰付置候処、当二月病死仕候忰喜栄儀、惣躰人柄宜敷、医業村井玄齋門人ニ而、再春館江も出席仕、近年者父代診等も引受などニ而、松山・郡浦ニ而数十ヶ村、其外宇土御家中并町家等数百軒之病家昼夜打廻、深切ニ出精いたし、所柄之為合ニ相成、且曽祖父以来代々御郡医師相続も被仰付来候家筋ニも有之候間、彼是ニ被対、親跡御郡医師被仰付、御扶持方之儀も相応ニ被下置候程、於私奉願候。此段宜ク被成御参談可被下候。以上

弘仁三年閏五月　　杉浦津直

御郡方
御奉行衆中

僉議

喜栄儀、家業之様子、医業吟味役江及聞合申候処、治療習

塾・学業篤志之段達有之、科目丙科ニ相当申候。再春館御目附江茂、問合申候処、見聞之趣同様有之由、夫々別紙之通ニ御座候間、父同前御郡医師可被召出哉。御扶持方之儀者、寸志ニ依而被下置、父代世減を以、弐人扶持被下置候付、三代目より八、無録之究ニ付、無禄ニ而可被召出哉。

右僉議之通、十一月廿八日申渡

覚

松山手永宇土町居住、御郡医師ニ而病死仕候。

神尾三鼎悴　　神尾喜栄

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、右喜栄儀、家業心懸能、出精いたし、近年者父代診等引受程ニ而、病家深切ニ打廻、所柄之為合ニ相成候由ニ而、行状ニ付異候唱承不申、且亡父三鼎儀、療治方出精いたし、祖父代以来、寸志之訳、旁御扶持方被下置、御郡医師ニ被仰付置候次第、夫々本紙書面之趣ニ相聞申候。以上

午八月　　本山文助　㊞

二二七　矢沢源次郎　他

（九―二三―一三）

御内意之覚

郡浦手永水夫小頭　矢沢源次郎

松山手永右同　河野九郎次

五町手永右同　荒木藤兵衛

荒尾手永水夫小頭　松崎儀兵衛

小田手永右同　高木又次郎

坂下手永右同代　山本唯次郎

杉嶋手永右同助勤　佐藤武左衛門

小田手永右同　金森太郎左衛門

右者一昨辰ノ年、異国船渡来之砌、為御試、銭塘手永密柑江浦船乗廻被仰付候節、六月廿五日より七月十二日迄、水夫召連相詰候。諸事無間抜様、厚ク心配仕候ニ付、何れも被賞、鳥目壱貫文宛被為拝領被下候様。尤、高木又次郎儀者日数二日相詰、外御用指合ニ而、右金森太郎左衛門者替合候ニ付、両人割合を以、又次郎江三百文、太郎左衛門江七百文下置候様奉願候。此段宜敷被成御参談、可被下候。以上

弘化三年十一月　　杉浦津直　江嶋伝左衛門　中嶋九郎左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

源次郎列八人、達之通使節船渡来ニ付而、浦船乗廻被仰付候節、水夫召連相詰、諸事無間抜厚心配いたし候由ニ付、又次郎・太郎右衛門を省、残六人江鳥目壱貫文宛被下置、又次郎儀者日数二日相詰候由ニ付、御間承届之及達、太郎右衛門儀者又次郎代として相詰候由ニ付、鳥目七百文可被下置哉。

本行之通

十二月六日達

二二八　野村新助

（九―二三―一三）

御内意之覚

御郡代直触ニ而、松山会所手代・手永見扨兼野村新助

右者、寛政八年栗崎村・郡浦出会所見習申付、同十年松山会所見習申付、享和三年小頭申付、文化三年所々御用宅御作事受込申候。同八年会所詰申付、同十一年根扨役ニ而、会所詰兼帯申付、同十四年宇土御知行所村々御本方受ニ相成候節、同所御免方其外諸御用請込申付、文政二年宇土方受込差免、根扨持懸ニ而、出銀方請込申付、同四年根扨出銀方共差免、下代申付、同十一年手代申付、天保二年手永見扨申付、下地苗字御免・御惣庄屋直触より、在勤中御郡代直触ニ被仰付、同年勧農方兼帯申付、同三年松合村成立受込を茂申付置候処、天保九年勤功被賞、御郡代直触本席被仰付、当年迄都合四十九年数々役方心懸厚、出精相勤申候。

一文化十二年大口村新地御築立之節、百六十日余始末相詰、格別出精仕候旨ニ而、鳥目弐貫五百文被下置候。

一同十三年去春以来、松山・郡浦両手永打込御普請之節、主ニ成相勤、数ヶ所新堤掘・井出浚等之夫積、其末数十日御普請所江相詰、各別出精仕、且御圍籾蔵建方ニ付、地床開明・材木剪出等、大造之御作事丈夫ニ出来仕、旁被対、鳥目壱貫文被下置候。

一文政二年本山御殿御作事ニ付、網引御山より杉木御取出之節、寸志夫を以、速ニ取出候旨、御間御聞届之御達御座候。

一同四年去夏笠岩村新地石井樋破損所御普請之節、数十日罷出、御入目減取計候旨ニ而、御間御聞届之御達御座候。

一同八年七百町新地御築立ニ付、出精相勤、且会所役人出役、跡地場御用等も引受、出精仕候旨ニ而、鳥目壱貫五百文被下置候。

一同十年役方多年手全致出精、請拂精密ニ有之、御年貢取立方行届、余銭備も無異乱取扱、且養水方之儀、種々致心配、水田三ヶ所跡作仕付等、段々出精いたし、上下一稜爲合相成候旨ニ而、無苗・御惣庄屋直触被仰付候。

一同年立岡堤掘添之節、初發根方より取調、地方御買上、代銭取組等、他御郡懸合等煩敷、心配筋も有之候得共、熟知ニ申談、其外御普請ニ懸候筋、始末一切根ニ成申談、偏新助功業ニ而御座候。右ニ付抜群出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付候。

一天保二年大勢之家内、熟和ニ有之、兼々両親江労ク事、且農業精を出、一躰心得方も宜、尤之事ニ付、一家内江鳥目三貫五百文被下置候。

一同六年（ママ）六年去ル卯年非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一天保九年会所見習以来、役方数十年心懸厚、臨時御用受込等、萬

端無間抜格別致出精、稜々功験茂有之、所柄一廉為合ニ相成候ニ付、御郡代直触本席被仰付候。

一同十二年下益城、宇土海辺新地御築立ニ付、始末罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目弐貫文被下置候。右之外宇土方御用申付置候処、出精相勤候旨ニ而、御紋服・御銀鳥目等、数度拝領仕候。

右之通ニ而、新助儀、正直成者ニ而、筆算達者有之、気憶強、才力茂有之、御用筋不寄何事差入り、出精相勤、諸事心を附、一和ニ申談、会所役人中気受宜、且零落之村々成立、風儀立直等迄、厚心配仕候。松山手永之儀、前条之通、松合村・宇土町之火災、立岡大堤掘添、其外数カ所新堤掘・古堤浚・養水井出立・磧所柞又者水気抜井手立、且追々之凶作尻取救等、其外南北海辺新地御築立等、誠大業迄ニ御座候処、根ニ成、抜群出精仕、悉ク卒業ニ至、水旱之災害を除、湿地跡作畝も相増、干田所養水行届、近年者御免方、大崩も無御座、村々穏ニ相成、次第ニ勧農基、上下一稜爲合ニ相成申候。右之通精勤仕、功跡も有之、於松山者新助ニ比類仕候者者、外ニ無御座、是迄抜群御用ニ相立候者ニ御座候間、四十九年之功労被賞、御別段を以、地士ニ進席被仰付下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十五年三月　　筑山又兵衛

御郡方

御奉行衆中

弘化元年之しらへ

新助儀、会所見習以来四十九年、会所見扨より十四年、本席御郡代直触より七年相成、役前心懸厚、諸御普請等根ニ成零落之村方成立等、程々心配いたし、会所中一和申談差はまり、精勤いたし、且家内睦、父江事方手厚有之候付、地士進席被仰付被下候様、委細本行達之通ニ付、先例吟味仕候処、左之通

南関会所見扨

津山團平

文政三年十二月

右者会所詰以来五十一年、御郡代直触より十一年相成、兼々清廉有之役方心懸厚、昼夜精勤いたし一切御用筋心を用、無間抜取計、会所内茂一和申談、万端心得方格別立候付、地士被仰付候事。

中富手永見扨

佐泊彦兵衛

天保九年八月

右者会所見習より五十二年、御郡代直触より九年相成、役方心懸厚各別精勤いたし、村々農業相倡、零落成立之儀等種々心配いたし、追々功業茂有之候付、地士被仰付候事。

右之通相見申候処、通例会所役人より経上り候。会所見扨之類者五十年以上ニ而御賞賜、六十年以上ニ而地士進席を茂被仰付儀ニ候得共、團平列両人ハ名有人物ニ而、追々抜群被申立茂有之、別段を以右之通ニ茂被仰付候儀ニ相見、新助儀も普通之もの者無之様子ニ付、團平列例拠、可被賞ニ而可有御座哉。左候ヘハ両三年浅相見候得共、来年ニ至候ヘハ、惣年数五十年、先賞よりも八年相成申候間、其処ニ而ハ被賞候而茂可然哉。何様四十年台ニ而者難被賞、当年迄ハ見合可被置哉。

付札

新助儀、本紙しらへ之通ニ付、地士進席被見合置候処、其後、

不相替精勤いたし候由ニ而、被賞被下候様、御郡代より内意有之。当年ニ至、惣年数五十一年、先賞よりも九年相成候付、本紙ニ挙置候、佐泊彦兵衛例拠、地士被仰付ニ而可有御座哉。

右付札之通十二月廿五日達

（弘化四年）

二二九　小郷藤兵衛

（九―二四―一）

御内意之覚

松山手永御惣庄屋直触

小郷藤兵衛

一銭壱貫五百目

右者、熊本新坪井伊津野市郎より救飢寸志として、天保八年差上置候を、右藤兵衛父ニ而、御郡代直触小郷彦太より根譲受、願之通被成御免、継目ニ被立下候様奉願置候処、彦太儀、同十五年十一月病死仕候付、忰藤兵衛同年相続奉願節、継目ニ被立下、親同様相続奉願筈ニ御座候処、御様子有之、右寸志之稜者差省、父之勤切迄ニ而、御惣庄屋代直触被召出置候。然処今度依願、右寸志高　御手傳寸志ニ被准、進席等被　仰付旨ニ御座候間、右藤兵衛儀、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様有御座度於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化三年六月　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤兵衛儀、委細書面之通ニ而、寸志高見合之規矩ニ相当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

右僉議之通、三月廿九日達。

二三〇　木下喜兵衛、木下和作

（九―二四―一）

御内意之覚

郡浦手永諸役人段

木下喜兵衛

歳八十三

右者安永六年会所役申付、天明二年迄相勤、同三年より村役申付、文化六年戸馳村庄屋申付、同十二年より尚又会所役兼勤申付、同十三年差免、翌年郡浦村庄屋申付、文政元年水夫小頭兼勤申付、在勤中御郡代直触ニ被仰付、同三年唐物方御横目、在勤中諸役人段被仰付、御郡代手附横目申付、文政八年井樋方助役兼勤申付、天保二年松山手永を茂併勤被仰付、同三年五十余年精勤仕候旨ニ而、地士ニ被仰付、同六年右同断之趣ニ而、諸役人段本席被仰付、同七年老衰ニ付、依願役儀被成御免候。右之通ニ而、役付六十ヶ年御郡並者都合七十一年相勤、最早及極老、御奉行公難相勤由ニ而、御断願出候ニ付、相糺候処、相違無御座候間、願之通被成御免被下候様。

右喜兵衛忰

木下和作

歳五十八

右者、享和二年より村役申付、文化十三年手永横目申付、文政九年会所役申付、天保七年在勤中諸役人段ニ而、唐物抜荷改方御横目被仰付、御郡代手附横目并井樋方助役兼勤申付置候処、病気ニ付、依願右役々被差免候。右之通ニ而、都合四十一ヶ年相勤メ、父子取結候得共、勤年数百年余ニ及ヒ、先ツハ稀成事ニ御座候間、旁被対、親跡諸役人相続被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化四年　　杉浦津直

七月

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜兵衛儀、及極老御奉公難相勤由、願之通可被成御免哉。悴和作儀、父子年数百年余相成候付、父同様諸役人段被相續被仰付被下候様、書面之通御座候。然処喜兵衛儀、村役を省候得者、全勤二十六年之勤ニ而、諸役人段被仰付置候処、病気ニ付、役方者御免ニ相成居申候。和作儀、村役を省、手永横目以来十六年相勤、病気ニ付願之通、役方御免被成、其節金子百疋被下置候付、右之通ニ而、跡目究より宜被仰付筋ニ相見不申候。然処喜兵衛儀、村役以来役方五十年余、出精いたし候付、本席地士被仰付候儀も御座候間、一旦五十年之被賞茂相済居候事ニ付、今更村役之年数被差省候儀も難成、矢張父五十年余之勤ニ被対、究跡式より一階被進、地士可被召出哉。

右僉議之通、十月四日達。

覚

郡浦手永手場村居住　諸役人段

木下喜兵衛

右喜兵衛悴

木下和作

右者父子進退、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、喜兵衛儀、及極老、御奉公難相勤、御断願出之趣、無余儀様子相聞、悴和作儀、手堅人物ニ而、病気茂最早全快ニ至り、行状ニ付而茂異り候唱、承不申候。其外勤年数等之次第、父子共本紙之通相聞申候。以上

未

八月　　河口嘉久次　印

二三一　中村小左衛門

（九―二四―一）

御内意之覚

郡浦手永御山支配役

中村小左衛門

右者寛政八年、親跡諸役人段被召出、文政元年塘方助役并石場見抄兼勤申付、同三年御山支配役仰付、当年迄二十八年出精相勤申候。同十一年剣術・炮術稽古心懸引廻行届候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置、天保八年諸木仕立方行届、旦剣術・炮術心懸厚、相門誘方も出精仕候ニ付而、袷羽織并金子弐百疋被下置候。右之通ニ而、兼々役前心懸能精勤仕、武芸引廻誘方之儀も数十年無怠致心配、相続已来五十四ヶ年手全ニ相勤候ニ付、旁被対別段を以独礼ニ進席被仰付被下候様、有御座度、於私奉願候。此段宜敷被

成御参談、可被下候。以上

弘化四年四月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

覚

郡浦手永御山支配役

中村小左衛門

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、御役前心懸能、数年出精相勤、且剣術・炮術多年心懸厚、御家人中誘方茂行届候由ニ而、稽古出精いたし候面々茂多ゝ所柄為合ニ茂相成候由、尤相続以来之年数五十四年と有之候得共、五十二年と承申候。其外本紙書面之通相聞申候。以上

未六月　　永野敬四郎 ㊞

僉議

小左衛門儀、諸役人段被召出候以来、五十四年之内、御山支配役二十八年相成、役前心懸能、出精相勤、且剣術・炮術不相替心懸厚、在御家人中稽古数十年引受、相倡格別出精いたし候ニ付、独礼被仰付被下候様、達之通御座候。御山支配役右進席見合年数ニ者五年之残相見候得共、武芸出精同門倡方旁ニ付、追々被賞、作紋袷羽織一、金子被下置候より茂十一年相成、猶重ク被賞候。年数ニ茂相見申候。旁被対達之通、独礼可被仰付哉

右僉議之通七月廿八日　　奉窺

十月十三日申渡

二三二　芥川倉之助

（九―二四―一）

御内意之覚

銭塘手永御郡代直触、榲桲見扨、東走潟村庄屋兼帯

芥川倉之助

右倉之助儀、文化十三年御郡筒被召抱、文政七年東走潟村庄屋申付、同十年榲桲見扨申付、在勤中御郡代直触被仰付、天保九年窮民御取救寸志差出候ニ付、御郡代直触被仰付、庄屋当年迄廿三ヶ年、榲桲見扨二十一年ニ相成申候。然処、榲桲之儀者以前走潟在ニ御仕立も御座候得共、成実乏敷御用相整兼、御買上余計之御出方にも御座候由之処、右倉之助見扨相勤候後者、自身手元ニ余計ニ仕立村方をも相倡、当時者十分成実ニ而御用分全備仕候様繁茂仕、榲桲之儀者老木ニ相成候得者、成実無之、仕立候年より五年位者成実不仕、五ヶ年目より十年位之成実ニ付、無油断兼々手入不仕候而者成実少ク、倉之助平常心懸出精相倡候処より、御用分も整候ニ付被賞、相当之御品物ニ而も被為拝領被下候様有御座度奉存候。此段御内意奉願候条、可然被成御参談、可被下候。以上

未四月　　中嶋九郎左衛門

御郡方

御奉行衆中

覚

銭塘手永東走潟村居住、御郡代直触ニ而榲桲見扨、同村庄屋兼帯

芥川倉之助

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、庄屋役以来役方数年、心懸能出精相勤、榲桲見扨申付ニ相成候後者、村方相倡年々仕立方并自身手元ニ茂余計ニ仕立置、且老木ニ相成候得者仕立替、兼而手入等無油断格別心を用出精いたし、見扨方茂行届候由ニ而、次第ニ繁茂いたし、近年成実相増御用分相整候由。尤勤年数相替候儀者、本紙ニ付紙仕置候通承申候。以上

未七月　　平井恒右衛門　㊞

僉議

倉之助儀、御郡筒より三十一年之内、庄屋二十四年、榲桲見扨兼帯より二十一年、寸志ニ而御郡代直触被仰付候より十年相成、出精相勤候段達之通ニ付、相応ニ鳥目を茂被下儀相見候得者、榲桲仕立方見扨共行届、御用分無指支程ニ成実相増候由ニ付、旁被賞、作紋麻上下一具、可被下置哉。

二三三　竹下恵吉

（九―二四―一）

御内意之覚

松山手永馬場村庄屋、御郡代直触

竹下恵吉

七十歳

右者、寛政元年会所見習ニ呼出、同六年小頭申付、其後会所詰・井樋方并出銀方受込等申付、文化九年馬場村庄屋兼帯申付、文政二年右兼帯者差免、会所下代役申付、同四年下代役差免、新町庄屋申付、天保七年松山村ニ所替、同十五年猶亦馬場村ニ所替申付、当年迄都合五十九年手全ニ相勤居申候。且文化六年依年功等ニ、礼服被成御免、文政十二年右同様之趣ニ而、御惣庄屋直触ニ被仰付、天保五年猶亦右同様ニ而、苗字被成御免、同十一年役方五十年余精勤仕候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付、此外年功等ニ付而ハ、数度鳥目茂被下置候。

右之通ニ而、当年迄五十九ヶ年数役精勤仕、惣躰役前之儀、手堅ク取計、村々気受能、零落立直之儀等、種々心を用、一躰心得方宜敷、質素・倹約等堅ク相守、外之手本ニも相成可申程ニて、格別精勤仕、其上最早極老ニも至り候事ニ付、旁別段を以、何卒地士ニ進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

弘化四年四月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

覚

松山手永馬場村庄屋　御郡代直触

竹下恵吉

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、会所見習以来数十年精勤いたし、万端手堅取計、専ラ勧農相倡候由ニ而、村方御年貢等速相納候様相成、一躰其身心得方茂宜有之候由ニ而、勤年数等之次第、本紙書面之通相聞申候。尤相替候儀者、付紙用置候通承申候。以上

未六月　　永野敬四郎　㊞

僉議

恵吉儀、会所見習以来五十九年之内、庄屋前後三十二年、

御郡代直触被仰付候より八年相成、役前心懸能、手全相勤、諸事世話筋行届、一躰心得方も宜段、前条達、且見聞書之通ニ而、見合茂御座候間、地士可被仰付哉。

二三四　北野安右衛門

（九―二四―一）

御内意之覚

宇土人馬所横目役、在勤中一領一疋格

北野安右衛門

右者、文化四年親跡地士ニ被召出、文政五年馬瀬村庄屋後見申付、同六年差免、御制度見扨役申付、其後寺社間数改方受込等申付、天保二年宇土人馬所横目并町見扨兼勤申付、同三年人馬所横目、在勤中一領一疋格ニ被仰付、当年迄都合二十六年相勤、右勤中追々御銀拝領等之御賞美有之、右町見扨人馬所之儀も、厚ク心配いたし候ニ付、旁被対、一領一疋本席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化四年四月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

安右衛門儀、惣年数四十一年之内、人馬所横目、在勤中一領一疋より十六年相成、出精相勤候段、達之通ニ而、年数見合茂御座候間、一領一疋格本席可被仰付哉。

覚

松山手永馬瀬村居住、宇土人馬所横目、在勤中一領壱疋

北野安右衛門

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、役前心懸能、出精相勤、人馬所取締筋并宇土町方之儀茂、諸事心を附、彼是厚心配いたし候様子ニ而、勤年数等之次第、本紙書面之通相聞申候。以上

未

六月　　永野敬四郎　㊞

二三五　虎口源左衛門

（九―二四―一）

御内意之覚

郡浦手永々々見扨、在勤中御郡代直触ニ而、会所手代兼

虎口源左衛門

右者、寛政十一年会所役申付、文政七年手代ニ操上、同十年手永見扨兼勤ニ而、在勤中御郡代直触ニ被仰付、天保十一年本席苗字御免・御惣庄屋直触被仰付、当年迄都合四十九ヶ年役前心懸能、各別精勤仕り、逸稜御用立候者ニ御座候間、右年功被賞、御郡代直触本席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化四年四月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

源左衛門儀、会所詰以来、四十九年之内、手代より二十四

年、手永見扨・在勤中御郡代直触より二十一年相成、役前心懸能、出精いたし候段、達之通ニ而、年数見合茂御座候間、本席御郡代直触可被仰付哉。

覚

郡浦手永見扨、在勤中御郡代直触ニ而、会所手代兼　虎口源左衛門

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、会所役以来、役々心懸能、相勤、別而会所許之儀者、平常御用茂多有之候由之処、数十年格別精勤いたし、一廉御用ニ相立候様子ニ而、勤年数等之次第、本紙書面之通相聞申候。以上

未六月　永野敬四郎　㊞

二三六　廣次、茂七

（九―二四―一）

御内意之覚

郡浦手永長濱村庄屋ニ而、御牧別当兼　廣次

右者、文政六年より会所役相勤、同八年長濱村庄屋当分申付、同九年御牧別当兼帯申付、同十二年庄屋本役申付、当年迄二十五年出精相勤申候間被賞、礼服被成御免被下候様、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

弘化四年四月　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

郡浦手永浦上村庄屋　茂七

右者、文政三年御山口申付、当年迄二十八年出精相勤居申候間、年功被対、礼服被成御免被下候様有御座度、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

弘化四年四月　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

廣次儀、庄屋役二十三年、茂七儀、山口二十八年出精相勤候段、達之通ニ而、見合茂御座候間、両人共礼服可被成御免哉。

覚

郡浦手永長濱村庄屋ニ而、御牧別当兼　廣次

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、会所役以来、役前心懸能、数年出精相勤、村方成立筋、厚心配いたし、一躰示方等茂行届候様子ニ而、勤年数等本紙書面之通、相聞申候。以上

未六月　永野敬四郎　㊞

覚

郡浦手永浦上村御山口　茂七

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、役前心懸能、出精いたし、御山扨方茂宜様子ニ而、勤年数等、本紙書面之通、相聞申候。尤茂七儀、庄屋□有之候得共、御山口と承申候。以上

未

六月　　永野敬四郎　㊞

（嘉永元年）

二三七　郡浦新五左衛門　他

（九―二四―二）

御内意之覚　　飽田、上益城宇土　御郡代

（倉議松山手永地浦新地御築立ニ付而御惣庄屋以下出精之面々江下ニ付私之通拝領方可被仰付哉。）

松山手永北浦在四ケ村之儀、高人数不釣合之所柄ニ而、田畑打混、壱人之作前七八畝ニも当り、兼々村方茂有之粮物及不足候ニ付、石工或者山海之稼を以取続候。無高者多、連々難渋仕候ニ付、先年以来新地御築立願出候得共、潮深之上田尾筋多、差寄ニ者積合応兼候場所ニ付、文化年中より此方追々奉願乱杭柵等を以、埃溜之仕法仕候ニ付、逐年漸々と洲高ニ相成、猶天保十年積前三拾貫目余之江湖埋等、無賃銭ニ而、右四ケ村出夫仕、彼是之手入を以、一円潮尺相減候ニ付、天保十二年追々御見分被仰付候上、塘床際目等取究、精積之上御築立治定被仰付、同年七月於住吉社龍神祭執行申付、鯰・松山・郡浦三手永より出役御用懸被仰付、八月朔日より翌天保十三年六月潮留相済申候。然処塘手之内、砂地之ケ所洩穿之申分差起、塘手落込候ケ所々々、昼夜ニ懸、取防之手段何れも心力を尽、漸取留候処、七月三日高潮仕候ニ付、尚又右同断之申分差起、終ニ五十間程及破損塘床深三四間洗穿直築之潮留出来兼候ニ付、廻築之申談相決、昼夜を不分腕塘石手・土手築立、同十月水中二間余之仕法再潮留仕、井手道立、地割等之手数夫々相整、翌十四年之春村々江割渡過半開明、前冬より麦作等仕付田作・粟作相試、既ニ出穂ニ至居候内、同年之秋非常之高潮ニ而、再潮留口より上手四拾間程及破損、此処も塘床砂受之場所ニ而尚又深四間程洗穿、再穿所ニ押催合、二口より出入仕、潮行烈敷無類之難所と罷成申候。潮留之仕法差寄難相決、丈夫之御普請第一之御主意ニ付、廻塘ニ築方治定被仰付、弐百間余之廻塘并惣塘手笠上腹付内椽付等之御普請打混、昼夜ニ懸夫々出来仕、同十一月潮留相済申候。其後塘手ニ薄ケ所々々者、尚強方申付、塘外水当之所者刎蔓数ケ所出来、種々丈夫之御普請、当五月夫々相済、四ケ年ニ懸漸成就ニ至、則惣仕上目録御達仕候通御座候。右之通類外之難所ニ而、御入目増ニ相成候得共、追々ニ丈夫之手入申付候新地ニ付、向々御手入者薄可有之、且前文之通於所柄者、連々之念願成就仕、御影を以不年ニ成立可申人別相競居申候。第一地味宜、後年者上下共一廉御為合相成可申奉存候。扨又御普請中被差出候御役人之心配者、不一形候得共、在中より御用懸被仰付候。出役之者共儀茂、積通一事ニ成就仕候場所と違、大造御入目相増候程之難所ニ而、種々仕法を以、御出方減之儀も専心配仕、彼是再三之破損、臨時之儀ニ付、骨折候。稜々如何程カ難算尽、数百日之間、家事を差置、必多詰仕候面々多何れ茂暑寒風雨を不厭、砂ニ臥石を枕ニ仕候程之勤労ニ御座候間、右之難所成功之訳ニ被対、御別段を以、何れ茂御出格重ク、被賞被下候様有御座度奉願

候。則銘々差入相勤候次第、左之通御座候。

新五左衛門儀、本行新地出来并別紙、卯秋所々新地塘手等破損御手入出精之儀共取米桜御紋付御帷子一、金子弐百疋、可被下置哉。

独礼ニ而郡浦手永御惣庄屋

郡浦新五左衛門

右者初發精積より塘床際目建等之儀者不及申、其外一切根ニ成、地場御用繁雑中、郡浦会所より山越難渋之所柄、数百日出役仕、惣御用懸之面々江も御出方減を初、熟和ニ申談、御普請之精粗・利害得失之研究筋等、心魂を碎、衆力一致ニ申談、始中終勤続四ケ年之間、暑寒を不厭、南北海辺一同之御普請遠方ニ懸、抜群出精仕、別而数度破損ニ付、丈夫之仕法筋、深心を委、衆議を凝シ、不一形心配仕、大小石・竹木・しだ総而程ニ郡浦海辺より取出、且数度潮留ニ付、右品急速之取出等心配仕、追々大造之出夫も相倡、会所役人共ニも、地場御用間抜ニ不相成様心を用申候。右新地之儀者、郡浦手永ニ而作廻候場所ニ而無之、松山手永迄作廻候ニ付而者、度々大夫差出、下方気受ニ茂響候得共、程能申諭、無残処心を用出精仕候間、御格外重被賞被下候様。

驛之助儀、本行新地并別紙、達、海辺新地等破損所御手入出精之儀共取米、作紋帷子一、金子弐百疋、可被下置哉。

当時内牧

松山手永御惣庄屋

江副寛之助

右者天保十二年十一月、松山手永江所替被仰付候後、右新地江張詰仕、郡浦新五左衛門列申談、御普請之精粗手捌等ニ至迄、一切根受ニ而、抜群出精仕、自手永之儀ニ付、御用懸御惣庄屋之内ニ而、亭主方之儀ニ御座候得者、夫丈一躰之儀ニ亘、各別心配多、寛之助儀、至而壮健ニ而、御普請之審判余人之不及働茂有之、且北浦村々出夫を初、一手永惣出夫数度再偏之事ニ付、下方気受宜様申誘、差入心配仕、卒業迄不軽出精仕、数度之潮留ニ付而者、寸志俵等も相倡、地方開明等之儀迄、種々心配仕候。勤労之儀、新五左衛門同様骨折仕候間、同等重被賞被下候様。

直左衛門儀、達之通ニ付、金子弐百疋、可被下置哉。

甲佐手永御惣庄屋

当時八代高田　遠山直左衛門

右者、地場御用繁之内遠方罷出、御普請向厚申談、其外一躰根ニ成、出役中示合出精仕候ニ付、相応ニ被賞被下候様。

徳七事、玉名海辺損所御手入御賞美ニ取続、嘉永二年五月三日申渡、徳七・平盛儀達之通ニ付、作紋麻上下一具完、可被下置哉。

荒尾手永御惣庄屋

当時小田御山支配役　隈部徳七

右者、松山手永在勤中ニ際目立より諸事根方ニ而厚心配仕、荒尾手所替(ママ、永欠カ)被仰付候迄、主ニ成格別出精仕候ニ付、相応ニ被賞被下候様。

木倉手永御惣庄屋

光永平蔵

右者、手附横目在勤中、遠方ニ懸、数十日新地江相詰、専諸品受拂、御銀方立会相糺、且潮留之節土俵詰之儀、別而心を用、難渋之丁場・塘手取扨筋ニも相加、一躰御普請向之儀申談、精勤仕候ニ付、相応ニ被賞被下候様。

鯰手永御惣庄屋

病死　池邊為之允

右者、天保十三年五月鯰手永所替被仰付、必多度新地江相詰、地場御用繁之中、諸事郡浦新左衛門列申談、主ニ成格別心配仕、且潮留之節々、土俵詰大勢之出夫相倡、明俵等之手配も無間抜、格別出精仕候ニ付、御別段を以重被賞被下候様。

育太郎儀、本行達別紙達、所々破損所御手入出精之儀共取米、作紋麻上下一具、金子弐百疋、可被下置哉。

松山唐物抜荷改方御横目在勤中諸役人段

井樋方助役　井上育太郎

右者北浦海辺作地少所柄ニ付、先年来追々埃溜之仕法、又者初発より数度際目建積方立会、江湖埋之仕法等、種々数年心配仕、御築立治定ニ付而者、第一三ケ所井樋地獄土台道具石割出弁利之場所見立、現取出等迄心を用取斗、且笹原井樋并同所入江塘築立、別段受込、惣塘之見扨・諸品之受払立会御銀受払之紛方・塘手破損、節々取防等、昼夜寝食を忘、差入心配仕、三度之潮留始終骨折、内井手堀或者地割立会、地方開明諸作仕付、倡惣入目銭御算用之紛方、養水取之井樋居込、且水門之儀念を入候処より、聊無申分出来仕、始中終抜群出精仕候者ニ付、御格外重被賞被下候様。

平左衛門儀、達之通ニ付、作紋麻上下一具、金子百疋、可被下置哉。

当時甲佐御惣庄屋当分

丸山平左衛門

右者井樋塘手惣請込ニ而、御銀諸品・請払立会、塘手者際目建蔓入并井樋床究より罷出、出精仕、別而井樋所掘方より居込迄念を入候処より、無申分成就ニ至申候。右ニ付而者、潮間〳〵之仕事向ニ而、潮時次第ニ者昼夜之無差別出精仕、干潟ニ者井樋塘手ニ罷出、汐満候得者、諸品之立会、彼是不一形繁雑ニ而御座候処、地場御用等無間抜重畳差入、遠方相隔数百日必多詰仕、別而数度之破損ニ付而者、出役中を引立、愈差入、無比類出精仕、其後右新地見扨申付候ニ付而者、井手掘地割開明等ニ至迄、四ケ年之間始中終抜群出精仕候。

英之助儀、本行達別紙申立、所々破損所御手入出精之儀共取米、作紋麻上下一具、金子弐百疋、可被下置哉。

一領一疋ニ而郡浦井樋方助役

中園英之助

右者塘手井樋共請持、其外一躰御普請向、功熟ニ而惣受込申付置、新五左衛門列并出役中申談、御普請之利害研究仕、始中終差入出精仕、再三破損ニ付而者、別而心魂を砕、取防之仕法等手を盡、潮留之手段深心を委、四ケ年之間暑寒を不厭相働、且御普請中手附横目助勤申付、御銀方請払ニも立会、彼是抜群出精仕候。右育太郎・平左衛門・英之助儀者、前条之通精勤仕、何れも根ニ成、御普請一躰之儀ニ携、専御出方減之儀、重ニ申談候者共ニ御座候間、郡浦新五左衛門・江副寛之助両人ニ壱等落ニ而、三人共同等ニ重被賞被下候様。

七右衛門より甚之助迄、本行達、別紙達、所々破損所御手入出精之儀共取米、作紋麻上下一具、金子百疋宛、可被下置哉。

松山手永諸役人段御山支配役

野田七右衛門

右者御山間引剪を初、余計之竹木歯朶取出、心懸厚引受心配仕、御入目を茂相減、且又大小石取出之儀も引受相勤、山海ニ懸、日々打廻石割出、運送之儀茂格別出精仕間、作紋御羽織一金子百疋被下置候様。

杉嶋手永唐物抜荷改方御横目在勤中諸役人段

井上甚之助

右者塘方助役在勤中ニ而、専塘手を受持、四百間丁場之儀者、御入目減之御普請等、主ニ成申談、其外一躰之御普請向ニ携、諸事申談、潮留之節々差入、各別御用ニ相立候ニ付、野田七右衛門同等之御賞被仰付被下候様。

三左衛門儀、本行達、別紙所々破損所御手入出精之儀共取米、作紋麻上下一具、可被下置哉。

郡浦手永唐物抜荷改方御横目在勤中諸役人段

積　三左衛門

右者初発より御普請筋諸事申談、専ら御銀方請払諸品請払を糺、潮留土俵詰、且運送等御弁利候様致心配、且地場御用繁之上、南北海辺一同之御普請無間抜出精仕候間、右同等御賞美被仰付被下候様。

忠九郎儀、達之通ニ付金子弐百疋、可被下置哉。

上益城手附横目当時田迎御惣庄屋当分

甲斐忠九郎

右者御銀方請払諸品受払等、専相糺、御普請向之儀も申談、遠方より相詰出精仕候ニ付、作紋御上下一具被下置候様。

玄迪・元甫儀、達之通ニ付、玄迪江銀五両、元甫江同弐両、可被下置哉。

松山御郡医師並

柘植玄迪

松山御郡医師並

西　元甫

右者数千之日雇夫共、御普請中総而施薬ニ而療治仕、出役之面々も療治仕、施薬分者御心附として薬種代も被下候得共、玄迪儀者四ケ年之間、昼夜無差別出精仕候ニ付、金子二百疋、元甫儀、銀弐両被下置候様。

大隅守儀達之通ニ付、金子弐百疋、可被下置哉。

住吉社司

近藤大隅守

右者龍神祭且潮留之節々、御祈禱、其外自勘御祈禱も追々執行仕、地方を茂被下候得共右勤方数度抽丹誠且社山より余計之役石并割石操石、或者地獄土台ニ相用候松大木二本差出候ニ付、相応ニ被賞被下候様。

新助儀、本行達、別紙申立、所々破損所御手入出精之儀共取米、作紋麻上下一具、可被下置哉。

松山会所手代ニ而新地惣受込井樋方助役在勤中

一領一疋

野村新助

右者北浦海辺作地少所柄ニ付、後道新地御築立見込を以、文化之比より埃溜之仕法筋種々取計置、既ニ此節築立被仰付候ニ付而ハ、小屋詰根居申付、新地惣受込ニ而御普請向御入目減、且御普請丈夫・不丈夫之研究等御惣庄屋列申談ニ加、格別出精仕、諸手賦者勿論塘手丁場ども受持、御銀方ニも立加、潮留等之節々、別而働、地割開明作方倡ニ至迄、四ケ年之間心魂を砕、始中終無間抜抜群出精仕候ニ付、郡浦新五左衛門列同等之規矩ニ而、御別段を以重被賞被下候様。

文左衛門儀、本行達、別紙申立、所々破損所御手入出精之儀共取米、鳥目三貫五百文、可被下置哉。

松山会所小頭新地受込兼帯

文左衛門

右者塘手受込ニ而、初発積方より絵図仕立等も引受、御普請向厚心

を用、請持外ニも洩留江湖掘等臨時ニ数ヶ条引受、且再三潮留之節々、共ニ昼夜寒暑を不厭差入相勤、地割開明ニ至迄、四ヶ年之間始末相詰抜群出精仕候。

一郎右衛門儀、達之通ニ付、鳥目三貫文、可被下置哉。

鯰会所小頭　一郎右衛門

右者塘手受持ニ而、地堅蔓入も引受、諸事右文左衛門同様出精仕候間、両人之者共儀者、御格外重御賞美被仰付被下候様。

潮兵衛より敬作迄三人達之通ニ付鳥目弐貫五百文完可被下置哉。

鯰会所小頭
（潮兵衛と改）武吉

右唐手并沖井樋持ニ而波戸築立潮留方、江湖掘等稜々受込、文左衛門、一郎右衛門ニ差続格別出精仕候ニ付、右両人より一等落ニ而重ク被賞被下候様。

御郡代直触　松山会諸詰ニ而網津村庄屋後見
斉藤彌五兵衛

右者小屋詰賄方受持ニ而、大勢之出役支度等寛急ニ応、広賄御銀方ニも差加、地割ニ至迄始末出精仕候。網津村之儀、新地根村ニ而、別段出夫之申談、其外諸手賦筋等、別而繁雑ニ有之候処、手捌能心配仕、且大勢之石工共支配仕、石場ニ懸、船手之手賦等四ヶ年之間無間抜各別出精仕候ニ付、武吉同様被仰付被下候様。

鯰会所小頭　敬作

右者諸品方請持、主ニ成心配仕、竹木・歯朶并編俵・縄其外大造之請払、無間抜取計、御算用潤、地割ニも罷出、始末各別出精仕候ニ付、御別段を以鳥目五貫文被下置候様。

廣次儀、達之通ニ付、鳥目弐貫文可被下置哉。

長濱村庄屋　廣次

右者大造之大小石過半、長濱より取出、大勢之石工并数十艘手支配、御普請之寛急ニ応、無間抜差廻、石代受払等引受相働、御用ニ相立申候。且又御用懸之面々、必多度長濱江罷越候ニ付而茂、諸手賦筋心配仕、石場之儀者、日々打廻、割方相倡、右之通差入、抜群出精仕候者ニ御座候間、御格外重被賞被下候様。

庄兵衛儀、達之通ニ付、鳥目弐貫文可被下置哉。
十左衛門儀、本行達、別紙所々破損所御手入出精之儀共取米、鳥目弐貫五百文、可被下置哉。

鯰会所小頭　庄兵衛
松山右同断　十左衛門

右者、御銀方請ニ而、大造之請払、川口新平申談、厳重ニ取計、御算用仕上迄、始末心懸厚出精仕候ニ付、御別段を以、鳥目四貫文完被下置候様。

新平儀、達之通ニ付、作紋麻上下一具、可被下置哉。

河原御郡代直触　川口新平

右者、御銀方受払根居申付、十里余之遠在より三ヶ年之間詰切、大造之御銀受払稜々ニ亘、精密ニ相糺、厳重ニ手数を盡、聊無異乱取計、受払繁雑之時分者、終夜一睡茂不仕、誠手厚勤方ニ而、御銀方申談行届、余計之米銭一稜茂間違無之、畢竟新平儀、精勤

之續ニ而御座候。御別段を以、作紋御上下一具・金壱両被下置候様。

新左衛門より市兵衛迄三人、達之通ニ付、銀七両完可被

郡浦御山見扨并御牧見扨地士

積　新左衛門

右者、竹木歯朶之手賦并大小石取出、運送船手配、日々石場ニも罷出、海辺ニ懸駆廻、寛急無油断、格別出精、御用ニ相立申候。出勤之日数四ヶ年之間六百日程罷出候間、作紋御上下壱具・金子百疋被下置候様。

池田手永地士

飛鷹喜傳

右者、近津海辺石取出并塘手請持ニ而、両条共心懸厚出精仕、且再潮留之節者、別段請込申付、主ニ成相働、難所之御普請、格別出精仕候ニ付、作紋御上下一具・金子百疋被下置候様。

松山紙楮見扨在勤中地士

大田黒市兵衛

右者、本小屋賄方請込ニ而、抱夫支配仕、且発且積方より、地方開明之儀も厚心配仕、格別出精仕候。

喜十郎より順太迄達之通ニ付順太儀銀五両可被下置哉。喜十郎儀、所々破損所御手入ニ付心懸いたし、英左衛門儀右御手入之節、戸馳石取出方骨を折候段、別冊達之通ニ付喜十郎江作紋麻上下一具、英左衛門江銀七両、可被下置哉。

松山一領一疋塘方助役塘手受持

野田喜十郎

郡浦地士塘手受持蔓入方同断

本田英左衛門

右同御山支配役中村小左衛門悴右同断

中村順太

右三人之者共、塘手等請込数百日相詰、格別出精仕候。

又太儀、本行達、別紙所々破損所御手入出精之儀申立共取米、作紋麻上下一具、可被下置哉。

一領一疋ニ而塘方助役

郡浦又太

右者、潮留方請込ニ而主ニ成、仕法筋手厚心を用、致研究、南海辺一同之御普請筋、無間抜格別出精仕候。

右大田黒市兵衛より郡浦又太迄五人、書面之通ニ付、何れ茂作紋御上下壱具完被下置候様。

麻之助以下七人達之通ニ付、麻之助・市之允・源作・市郎助・甚太郎江銀五両完、藤兵衛江者鳥目弐貫五百文、覚右衛門儀、別紙申立破損之所々手入出精共取米、鳥目三貫五百文、可被下置哉。

江副寛之助悴

江副麻之助

沼山津士席浪人格田島甚十郎悴

田島才右衛門

当時甲佐手永唐物抜荷改方御横目

在勤中諸役人段

梅田源作

松山一領一疋格北野安右衛門悴

北野市郎助

松山御郡代直触笹原村庄屋

大田黒藤兵衛

郡浦右同断郡浦会所根扨

稲原覚右衛門

杉島手永唐物抜荷改方御横目　井上甚之助弟

在勤中諸役人段　井上甚太郎

鯰手永一領一疋野田潤之助被成乙

右者、塘手受持ニ而、御普請之仕法厚心を用、暑寒を不厭出精仕、潮留之節々茂、格別差入相勤、源作儀者、地場御用繁雑之内、無間抜出精仕、藤兵衛儀者、庄屋之勤前ニ而、村方出夫之儀及数度、新地根村丈繁勤仕候。藤兵衛・源作儀者、銀七両残、五人之者共江者六両完被下置候様。

宇作以下四人達之通ニ付、宇作江銀五両、庄次郎・藤次郎・清兵衛江鳥目弐貫文完、可被下置哉。

地士ニ而鯰会所手代　下田宇作

郡浦御郡代直下新開村庄屋　稲田庄次郎

右者、御銀方受込ニ而、大造之受払精密ニ取行、庄次郎儀者、諸品方とも相勤、格別出精仕候。

御郡代直触鯰会所詰　吉冨藤次郎

右同断　木柑子清兵衛

右者、諸品方ニ而、大造之受払厳重ニ取行、御会所儀者、塘手をも受持、各別出精仕候。

甚次郎列三人達之通ニ付、甚次郎・藤左衛門江鳥目弐貫文完。専左衛門儀別紙申立所々破損所御手入出精之儀共取米、鳥目三貫文可被下置哉。

御惣庄屋直触　大田黒甚次郎

右者、出役賄方受込、塘手請持をも兼、始末各別出精仕候。

御郡代直触大田黒藤兵衛弟松山会所小頭　大田黒藤左衛門

松山御惣庄屋直触　河野専左衛門

右者、塘手受持ニ而、専左衛門儀者、主ニ成相勤、藤左衛門儀者、井樋方をも受持、両人共格別出精仕候。

右下田宇作より河野専左衛門迄七人之者共儀者、書面之通相勤申候ニ付、銀六両完被下置候様。

善次郎儀、達之通ニ付、金子百疋、可被下置哉。

町独礼ニ而宇土町別当　沢田喜次郎

右者、出在御役人止宿受持、厚心配仕、潮留之節者、出夫元気付とし、冨家江酒等差出せ、彼是心配仕候ニ付、金子百疋被下置候様。

源次郎より元吉迄八人達之通ニ付、源次郎・七左衛門茂左衛門儀ハ所々破損所御手入出精之儀とも別紙達之通ニ付、旁取米、源次郎・七左衛門江鳥目弐貫文完、茂左衛門江同三貫文被下置、其余五人者本行出精迄ニ付同壱貫五百文完可被下置哉。

下網津村庄屋賄方受込　源次郎

網津村庄屋塘方諸品方　彦左衛門

右者、新地根村庄屋ニ而、初発より種々心配仕、源次郎儀者、賄方受込、彦左衛門儀者、塘方諸品方受込、度々別段夫をも申談、井手掘等何も格別骨折出精仕候ニ付、鳥目三貫五百文完被下置候様。

郡浦小頭初塘方御銀方　七左衛門

本行善八儀、善左衛門と改名仕候由承申候事　本山文助
辰十二月

松山根扨井樋方

塘方受持　茂左衛門
同所小頭同断　三左衛門
同塘方并所々御用使受込　格右衛門
右同賄方　善八
松山会所見習塘方受込　元吉

右者、受持場之儀者、銘々肩書之通ニ而、何れ茂厚心懸、格別出精仕候間、鳥目三貫文完被下候様。

幸右衛門・伊三郎儀、達之通ニ付、鳥目壱貫五百文宛可被下置哉。

御惣庄屋直触ニ而松山井樋方小頭岩隈村庄屋
亀井幸右衛門
鯰井樋方小頭　伊三郎

右者、塘手井樋受込ニ而、井樋之儀者、何れも主ニ成、心を用出精仕候。真次儀者、庄屋之場ニ而、追々出夫引廻、明俵縄等寸志同様差出せ、土俵詰運送等格別心配仕候ニ付、五貫文被下置。伊三郎儀者、四貫文被下置候様。

九郎次より伝兵衛迄三人達之通ニ付、九郎次江鳥目弐貫文、栄助・伝兵衛江同壱貫文完、可被下置哉。

在勤中御郡代直触ニ而大見村庄屋塘方并潮留所受込
河野九郎次
布古閑村庄屋塘手受込　栄助
笠岩村庄屋右船受込　傳兵衛

右三人之者共、肩書之通ニ而、庄屋之場ニ而惣出夫引廻、土俵詰運送等数度之出夫、且明俵縄明松之払等格別出精仕候間、鳥目三貫五百文完被下置候様。

十郎助より仁三郎迄、達之通ニ付、十郎助・忠三郎・仁三郎江鳥目壱貫文完、寅喜・為助江同壱貫五百文完、可被下置哉。恵三郎・太平儀ハ所々破損所御手入出精之儀を茂別冊達之通ニ付、旁取米、恵三郎江同弐貫文、太平江壱貫三百文、可被下置哉。

鯰小頭御銀方受込　十一郎助
宇土町地士竹下恵吉二男塘方受持　竹下恵三郎
地士積和作養子　右同断　積寅喜
御郡代直触林田金助養子初御銀方後塘方石坂勇八
石坂　林田為助
鯰小頭賄方受持　忠三郎
松山小頭塘方受持　太平
同小頭代賄方受持　仁三郎

右七人肩書之通ニ而、何れ茂出精仕候間、鳥目弐貫文完被下置候様。

又左衛門儀本行達別紙所々破損所御手入之右、戸馳より御取出ニ付出精之儀申立共取米、鳥目三貫文可被下置哉。

御郡代直触戸馳村庄屋石場受込

佐藤又左衛門

右者庄屋之場ニ而度々出夫引廻、潮留之節々出精仕、戸馳石場之儀者、引受無間抜、格別出精仕候ニ付、鳥目弐貫五百文被下置候様。

信次より七九郎迄十一人達之通ニ付、信次・保・安右衛門江銀弐両宛、其余八人江鳥目壱貫文宛可被下置哉。但、本行八人之内清七・伍五郎・富太郎・七九郎儀ハ所々破損所御手入之儀茂出精いたし且富太郎儀ハ戸馳石取出方をも心懸いたし候段、別冊達之通ニ付、清七江猶鳥目壱貫文、伍五郎江同五百文・富太郎江同七百文被増下、七九郎心配之段ハ、辞令ニ加申ニ而可有御座哉。

一領一疋小屋見扨　陣内信次

鯰地士斉藤喜一郎弟ニ而右同断　斉藤弥平

郡浦一領一疋戸馳石場受込　佐藤　保

地士鯰小頭御銀方地割兼　米満清七

御惣庄屋直触松山根扨諸品方　河野清七

宇土町一領一疋格石舟支配古塘石取出兼　北野安右衛門

一領一疋小山喜十郎悴土場見扨古塘石出兼　小山伍五郎

郡浦右同佐田九郎八養子戸馳石場見扨　佐田富太郎

松山御郡代直触橘庄助養子小屋見扨　橘　角助

松山右同橘丈平孫小屋見扨　橘　喜又

地士小屋見扨　江本七九郎

右十一人肩書之通出精相勤候ニ付、銀三両完被下置候様。

松山小頭諸品方兄ニ養子ニ成り、山本庫兵衛ト改ル　乙　松

庫兵衛列八人達之通ニ付、右之内庫兵衛・幸作・丈左衛門・藤作儀ハ所々破損所御手入之儀ニ付而茂心配いたし候段、別冊達之通ニ付、庫兵衛列四人ハ旁取米、鳥目壱貫文完被下置、弁吉列四人江者同七百文完可被下置哉。

右同塘方受持　幸　作

右同井樋方塘方受持　丈左衛門

松山小頭代塘方受持　藤　作

松山一領一疋御郡代直触野村新助倅、松山会所見習諸品方手伝　野村弁吉

松山会所見習諸品方手伝　大　作

御郡代直触朝田彦次郎二男松山見習。出役往来案内諸取仕兼　朝田源蔵

松山見習ニ而右同断　冨　次

虎左衛門

右八人之者、肩書之通ニ而出精相勤候ニ付、鳥目壱貫文完被下置候様。

四次より謙右衛門迄三人、達之通ニ付、所々破損所御手入ニ付而も心配いたし候段、別冊達之通ニ付、取米、四次江鳥目弐貫五百文、藤兵衛江同弐貫文、謙右衛門江同壱貫五百文、可被下置哉。

御郡代直触竹馬幾右衛門忰松山会所下代新地出役御銀方

竹馬円次

松山御郡代直触松山会所詰新地出役ハ御銀方

小郷藤兵衛

松山会所詰新地出役諸品方

謙右衛門

右三人之者共儀、御普請半迄者輪番ニ而、新地江詰替相勤居候処、会所向新地方共、不弁利御座候間、地場御用を引受せ勿論、新地御用ニ付、村々江諸手配等一切引受、四ヶ年ニ懸、昼夜会所ニ相詰、数十人新地江引除候跡、御用無留滞取斗、新地ニも数十日相詰内外格別出精仕候ニ付、金子一両完被下置候様。

普三郎儀、本紙達、旦所々破損所御手入之儀茂心配いたし候段、別冊達之通ニ付取米、鳥目壱貫五百文可被下置哉。

松山御郡代直触松合村庄屋

松浦善三郎

右者、追々数度夫方引廻新地江罷出、且又三度目潮留之節、余計土俵日限、通如何躰ニも送方出来兼候処、松合村より数百艘漁舟差出、一時ニ汐留前運送仕、格別心配仕候ニ付、鳥目壱貫五百文被下置候様。

嘉久次儀本紙達、旦所々破損所御手入之儀茂心配いたし候段別冊達之通ニ付取米、鳥目弐貫文可被下置哉。

在勤中御郡代直触ニ而松山村・境目村・三日村庄屋

井上嘉久次

右同断土俵詰ニも罷出、明俵縄等寸志同様差出せ、土俵運送等無間抜心配仕候ニ付、鳥目壱貫五百文被下置候様。

御惣庄屋直触戸口村庄屋諸品出方受込

嶋田源吾

源吾より丈七迄五人達之通ニ付、鳥目七百文完、可被下置哉。

下網田村庄屋諸品出方受込

利平

赤瀬村庄屋石出方受込

庄左衛門

網田村庄屋竹木諸品出方受込

儀三郎

網引村庄屋葺材木出土方受込

丈七

右五人方書之通相勤候上、庄屋之場ニ而三度潮留之節、夫肩召連罷出、格別出精仕候ニ付、鳥目壱貫五百文完被下置候様。

半次郎より清兵衛迄十二人達之通ニ付、右之内太郎兵衛儀ハ所々破損所御手入之儀も骨を折候段、別冊達之通ニ付、同人江ハ鳥目壱貫文其余十一江ハ同五百文完、清兵衛儀ハ別冊三度之潮留ニ付出精いたし候儀も取加ニ、同壱貫文可被下置哉。

御郡筒ニ而二町村庄屋渡船受込

荒木半次郎

右同初葺入方後御銀方

虎口太郎兵衛

笹原村御山口材木取出受込

伊左衛門

松山小頭塘方受込

栄次

鯰根扨相勤居積方受持
病死　嘉八
甲佐小頭土俵詰受持　垣右衛門
松山見習役人小仕案内兼　政吉
右同断　末次
宇土町頭　長平次
右同断　庄兵衛
宇土人馬所惣体　喜兵衛
右同断　病死　清兵衛

右拾弐人肩書之通相勤申候。尤町頭両人者、出在御役人宿等心配仕、且潮留之節も、種々心配仕候。惣代両人者、出在御役人々馬継、且御用状等無間抜心配仕候間、鳥目七百文完被下置候様。

茂次郎以下三人、達之通ニ付、茂次郎・喜助江鳥目七百文完、太郎兵衛江同五百文可被下置哉。

地士北野甚七二男人馬所小頭城神山村庄屋ニ而、人馬所小頭　北野茂次郎
馬瀬村庄屋　喜助

右茂次郎儀者、出在御役人々馬継、御用状等無間抜出精仕、庄屋之場ニ而、土俵詰運送、且明俵・縄等寸志同様差出せ、喜助儀者、右土俵詰以下、茂次郎同様出精仕候上、土俵運送之船別段心配仕候ニ付、鳥目壱貫五百文宛被下置候様。

人馬所小頭　太兵衛

右者、出役人馬継御用状等無間抜出精仕候ニ付、鳥目五百文被下置候様。

右之面々何れ茂序文ニも認置候通、出精仕候間、程能御賞美被仰付被下候様、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

天保十五年八月　愛教四郎次
筑山又兵衛
武藤猪左衛門
中嶋九郎左衛門

右郡浦新五左衛門以下、稜々付札之通、申八月廿八日申渡且達。

御郡方
御奉行衆中

此一綴申八月廿八日達且申渡

覚

郡浦手永御惣庄屋郡浦新五左衛門列百拾三人、別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、松山手永北浦新地御筑立ニ付、何れ茂御用懸被仰付、右新五左衛門并江副寛之助両人者、根方ニ而、諸事主ニ成御普請向研究いたし、出役之面々江茂熟和ニ申談、厚心を用、格別出精仕候由。松山会所手代野村新助儀者、新地惣受込ニ而、始末相詰、昼夜心力を盡、格別出精いたし候由。其外御家人并庄屋会所役人等、

御用懸之面々、塘方・井樋方・御銀方・諸品方等之役付、銘々受持之役前大造之御普請、四ヶ年之間、諸事無間抜取計、何れ茂出精之次第、委細者書面之通ニ相聞申候。尤本紙ニ相替候儀者、稜々付紙用置候之通、承申候。以上

北浦新地御筑立ニ付、御惣庄屋以下御用懸之面々精粗段等、本紙書面之通ニ相見江申候。然処海辺新地築立之之儀者、古来より之儀ニ候得共、中頃仕法筋等茂発絶程ニ相成居候処、文化之末年より文政之初年迄ニ鹿子木量平四百町、七百町之新地取発塘手石井樋之仕法等研窮を以築立、其功業候度相立候処より　段之御賞美茂被仰付候通ニ御座候処、其後十八・九年程も打絶、役筋分相替仕法筋茂漸々□発いたし居候処、天保九年より松橋・亀崎・鹿嶋三郡新地御築立被仰付、御用懸之面々御普請向精議を尽、石請取方を始、石手鞘・石垣・石井樋并土手敷歯朶蔓入養水取入、江湖掘等之儀ニ至迄、重畳簡使之仕法相立、御出方筋茂余計ニ相滅、七町等ニ相勝り候程之新地速ニ成就いたし、御普請丈夫之仕法茂其節ニ相開、其以来何方より右規則を踏へ取行候ニ付是則中興之開業ニ相聞申候右ニ付而者御惣庄屋以下御用懸ニ而者不一方精根を圀候ニ付右新地内割請持之規矩を以相応々々地代銭被渡下候ニ付先御賞美者相済候道理ニ相成候得共、別段者挙業ニ付猶相応之御賞美方被仰付候通ニ而、其後引続□田北浦日奈久松橋添新地御築立被仰付候得共御普請向之規矩合松橋者具合を以取計候ニ付、差寄初発積帳仕立方を始置而手入□□一体□ニ誰□労者□り成功を大ニ相立万端相調候ニ付其以来者御惣庄屋以下ニ者地方割請持方相応ニ被仰付一稜之□録迄相成候得共、夫を先内輪之事ニ付本紙御用懸之面々出精相□候儀者別紙申立書面之通相違□□□候ニ付本文之□□松橋之釣合等を以相応ニ御賞美被仰付可然哉之見□御座候事

御郡方

辰十二月　　本山文助㊞

二三八　辛川良右衛門、虎口源左衛門　他　（九―二四―二）

是より以下松山手永村々御樽肴迄之殺ヲ書也。此三冊之内付札仕置候者共迄御賞被仰付、其余之申立余り煩密ニ過、際限も無之候付、御賞美ニ不及、其侭ニ、可被下置哉。

御内意之覚

地士ニ而郡浦会所手代

一銀弐両完　　辛川良右衛門

郡浦御郡代直触ニ而右同所手代　　虎口源左衛門

右同御郡代直触ニ而右同所下代　　松本岩右衛門

達之通ニ付、良右衛門江銀弐両、源左衛門・岩右衛門江鳥目壱貫文完可被下置哉。

右三人者、諸事根方ニ而、心配出精仕候。

一鳥目七百文完　　郡浦会所詰

喜右衛門

岡村吉之允

橘左衛門

有働嘉右衛門

嘉兵衛

松本平蔵

達之通ニ付、喜右衛門列五人江鳥目五百文完、幾助以下農平迄十一人江三百文完可被下置哉。

右会所詰五人手代下代ニ差続、心配仕、潮留之節出役も仕候。

一鳥目五百文完　右同所小頭　蔵助
幸川喜一郎
宇兵衛
勝　平
未　助
右小頭五人右同所、潮留之節々何れ茂出役仕候。
一鳥目三百文完　右同所小頭代　才　平
次郎右衛門
文　七
栄次郎
松浦農平
見習
右小頭代以下五人潮留之節々も出勤仕候。
右者、住吉新地御築立ニ付而者、郡浦新五左衛門儀、初発より御用懸被仰付、地手永数ヶ所之御普請ニ打混、必多詰程ニ在勤仕候付、地場御用筋之儀者、手代下代以下何れ茂差入、出精相勤候ニ付、無間抜御用相勤申候。且潮留之節々者、村々打廻、夫起シ仕、於御普請所昼夜夫仕等相働申候間、夫々御賞美被仰付被下候様。
達之通ニ付久兵衛列二十人江鳥目七百文完被下置、其余ハ都而御賞美可被差省哉。
手場村庄屋　三浦久兵衛
里浦村右同　直右衛門
郡浦村右同　矢沢源次郎
中村右同　徳永半兵衛
前越村右同　高橋伊左衛門
波多村右同　病死　岡村弥次兵衛
三角浦村庄屋　緒方庄兵衛
城塚村右同　次兵衛
新開村右同　森内甚兵衛
伊津野村右同　啓右衛門
恵里村・下恵里村右同　嘉左衛門
飯塚村右同　孫四郎
椿原村・下椿原村右同　病死　清兵衛
宮庄村右同　林助
石橋村・神山村右同　堀内徳右衛門
神原村右同　弥右衛門
栗崎村庄屋　稲原久左衛門
浦上村右同　忠　助
長崎村右同　喜　平
下長崎村右同　武左衛門
合弐拾人
右者住吉新地潮留之節々、夫方召連罷出、急場編俵等速ニ編立せ、地場御用を茂打混、出精仕候ニ付、鳥目壱貫文完被下置候様。
一頭百姓五人　手場村
一同七人　里浦村
一同七人　郡浦村
一同七人　中村
一同三人　前越村
一同八人　戸馳村
一同四人　波多村
一同三人　三角浦村

一同弐人　大田尾村
一同弐人　赤瀬村
一同拾人　下網田村
一同拾人　網田村
一同四人　長濱村
一同九人　網引村
一同三人　城塚村
一同三人　下新開村
一同三人　新開村
一同弐人　伊津野村
一同弐人　鶴見塚村
一同弐人　恵里村
一同弐人　下恵里村
一同弐人　飯塚村
一同三人　椿原村
一同弐人　下椿原村
一同弐人　宮庄村
一同弐人　石橋村
一同弐人　神山村
一同弐人　神原村
一同三人　栗崎村
一同三人　浦上村
一同五人　長崎村
一同五人　下長崎村

合百弐拾九人

右頭百姓共之儀、潮留之節々罷出、出精仕候ニ付、鳥目三百文完被下置候様。

一四斗入酒樽　一干肴　壱折

達之通ニ付四斗入酒樽三、干肴壱折手永中江可被下置哉。

右者三度之潮留ニ付、郡浦手永惣出夫仕土俵詰等ニも数度罷出、出精仕候ニ付、鹿嶋尻新地御築立之節之御見合を以、右之通村々江御酒肴被下置候様。

右者松山手永北浦新地三度之潮留出夫ニ付而者、何れ茂出精仕候郡浦手永之儀、右新地地方請持候筋ニ茂無御座、既ニ出夫飯米等願出候得共、御入目必多物相増候儀ニ付、重畳相添、庄屋村役人手詰ニおいて、才覚等格別心配仕候ニ付、何れ茂夫々御賞美被仰付被下候様、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可下候。以上

天保十五年九月　宇土　御郡代

御郡方
御奉行衆中

右辛川良右衛門以下、稜々付礼之通、申八月廿八日達。

覚

郡浦会所手代辛川良右衛門列三拾八人、其外頭百姓百弐拾九人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、松山手永北浦新地御築立三度之潮留出夫ニ付而者、右良右衛門以下三人者、諸事根方ニ而心配いたし、会所詰并小頭・庄屋・頭百姓之儀者、潮留之節々罷出、急場之御普請地場御用を茂打混、無間抜何れ茂出精いたし候次第、委細者書面

之通ニ相聞申候。尤本紙ニ相替候儀者、付紙用置候通ニ承申候。
以上

辰十二月　　本山文助　㊞

二三九　北野甚七、田河内茂平　他

（九―二四―二）

御内意之覚

一鳥目壱貫文　地士ニ而松山手永横目　北野甚七

達之通ニ付甚七江鳥目七百文・茂平江壱貫文、彦右衛門・峯次江五百文完可被下置哉。

一同壱貫五百文　在勤中御郡代直触松山会所下代　田河内茂平

一同七百文　御郡筒ニ而右同当分小頭　小郷彦右衛門

一同五百文　松山無苗御惣庄屋直触源三郎弟会所見習　峯次

右者松山手永北浦新地御築立ニ付、天保十二年八月より当五月迄ニ成就仕、御用懸之面々者、別紙を以御賞美奉願候通ニ御座候。然処右甚七儀者、松山会所役人多人数御用懸ニ而出役跡、留守中会所ニ罷出、先潮留之節者、土俵詰方ニ付而、数日罷出、出精仕、且田河内茂平儀者、下代役ニ而、手代已下御用懸ニ而引除候跡地場御用を茂相勤、發旦より心配仕、小郷彦右衛門・郷峯次儀も、地場御用相勤、追々潮留ニ付而も罷出、何れ茂出精仕候間、口立之通、御賞美被仰付被下候様。

一鳥目壱貫文完、境目村庄屋唯右衛門迄十八人

達之通ニ付、新左衛門以下十八人の者共江鳥目七百文完可被下置哉。

松山永尾村庄屋地士　西山新左衛門
小曽部村庄屋御郡代直触　竹馬幾右衛門
松山下松山村庄屋右同　中山直右衛門
松山馬場村庄屋地士　竹下恵吉
同築龍村庄屋右同　中野信次
同立岡村庄屋御惣庄屋直触　釜賀茂助
馬場村先庄屋御郡代直触　岡村伊兵衛
岡村儀平次忰　喜平
曽畑村庄屋無苗御惣庄屋直触　作右衛門
大口村庄屋　恵七
高良村先庄屋　病死　卯平
御領村庄屋　喜八
柏原村庄屋　久平
善導寺村庄屋　弥平次
古保里村庄屋　次助
佐野村庄屋　儀平
上古閑村庄屋　十平
江部村庄屋　唯右衛門
境目村庄屋甚兵衛代役

右同断ニ付而、庄屋共儀三度之潮留ニ付而者、前々日より村方惣夫引連罷出、格別出精仕、初潮留之節者、餘計之明俵・縄寸志同様之直段ニ而差出、土俵詰出夫運送之心配、破損ニ付而者明俵・縄・松明等之拂方、内井手掘出夫彼是出精仕候間、口立之通被下置候様。

一鳥目七百文　笹原村頭百姓　儀助
一同五百文完　右同断　祐助
但直八迄四人右同断　忠左衛門
遠之通ニ付、儀助以下十七人之者共江鳥目五百文完、石之内、同村先頭百姓祐助以下直八迄并貞助江者三百文完可被下置哉。
同村先頭百姓　十平
右同　直八
一同七百文完　下網津村頭百姓　利八
但幸助迄七人
右同断　直助
右同断　甚助
右同断　夫兵衛
網津村頭百姓　新左衛門
右同　助七
右同　幸助
一鳥目壱貫文　笠岩村頭百姓　貞次
一同七百文完　右同　長助
但藤助迄三人右同　藤左衛門
右同　藤助
一同五百文　右同　貞助
右同断ニ付而、根村笹原・下網津・網津・笠岩四ヶ村之役人共之儀、御築立初発より急ニ心配、江湖埋出夫御普請小屋建方、又者追々破損三潮留其外、臨時之儀、再々應之并手掘出夫、地割立合、地方開明等必多度出役仕、骨折心配仕、貞次儀者、御普請中、臨時之手配筋等ニ付而、出役中より之申談筋等、速ニ取計、各別精勤仕候間、何れ茂口立之通被下置候様。
一鳥目五百文完　松合村帳書　伊助
但徳右衛門迄三人
遠之通ニ付伊助以下十一人之者共江鳥目三百文完可被下置哉
右同　弥助
馬瀬村帳書　徳右衛門
一同三百文完　松原村帳書　又次郎
但卯太郎迄八人　城神山村右同　新右衛門
上古閑村右同　作平
右同　卯八
笠岩村右同　恒助
伊無田村帳書　祐次
下松山村右同　豊吉
布古閑村右同　卯太郎
右同断ニ付而、松合村帳書両人之儀者、初潮留之節、餘計之船乗廻、再三潮留之節者、土俵運送ニ付而、数百艘之土俵積船乗廻、彼是目論之手数、船才科ニも罷出、徳右衛門以下之儀者、潮留土俵詰出役、其外臨時之筋ニ茂罷出、何れも骨折心配仕候間、口立之通被下置候様。
一村役人弐人　大口村
一同三人　大見村
一同四人　松合村
一同三人　永尾村
一同四人　高良村
一同三人　御領村

一同弐人　柏原村
一同四人　小曽部村
一同弐人　伊無田村
一同四人　下松山村
一同六人　松山村
一同四人　境目村
一同三人　善道寺村
一同四人　古保里村
一同四人　立岡村
一同弐人　三日村
一同四人　佐野村
一同四人　上古閑村
一同四人　曽畑村
一同四人　布古閑村
一同弐人　岩隈村
一同三人　松原村
一同三人　馬瀬村
一同弐人　江部村
一同弐人　築龍村
一同壱人　城神山村
一同壱人　馬場村

合八拾壱人

右同断ニ付而、三度潮留之節、前々日より村夫引連罷出、其外明俵・縄之拂方、土俵詰運送、又者井手掘出夫・松明拂方等、非常之心配仕候間、右村役人共江壱人前ニ鳥目三百文完被下置候様。

達之通ニ付四斗入酒樽三、干肴一折手永中江可被下置哉

一四斗入酒樽　五（ママ）
一干肴壱折

右者三度之潮留ニ付、松山手永村々惣出夫仕、土俵詰運送等、数度罷出、出精仕候間、鹿嶋尻新地御築立之節之御見合を以、村々江右之通御酒肴被下置候様。

右者、松山手永北浦新地御築立ニ付而、御用懸之面々御賞美筋之儀者、別紙を以御達仕置候。松山手永御用懸外村々庄屋共、又者会所役人帳書等、追々出役、骨折心配仕候者共、取調を申候処、右之通ニ御座候間、何れ茂、外々一同御賞美被仰付被下候様、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

天保十五年九月　宇土　御郡代

右北野甚七以下、稜々村札之通、申八月廿八日達。

御郡方

御奉行衆中

覚

松山手永地士ニ而、手永横目北野甚七列五拾人、其外村役人八拾壱人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、北浦新地御築立ニ付、右甚七以下何れ茂潮留之節々罷出、出精仕、会所役人之儀者、地場御用繁雑之内、潮留ニ付而者、入用之諸品手賦等、無間抜取計、其外何れ茂出精之次第、委細者書面之趣ニ相聞申候。尤本紙ニ相替候儀者、付紙用置候通ニ承申候。以上

辰十二月　本山文助㊞

二四〇　郡浦新五左衛門　他

（九―二四―二）

所々新地損所御修覆ニ付而、出精之面々江弐冊之付札之通拝領方可被仰付哉

覚

郡浦手永御惣庄屋郡浦新五左衛門列八拾弐人、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、去ル卯九月非常之高瀬大風ニ而、海辺一統塘手破損之内、郡浦手永亀崎・塩屋浦・手場・際崎等之新地御普請ニ付、右新五左衛門儀、始末差入、主ニ成、格別出精いたし、且戸馳石御取出ニ付而茂、厚心を用候由。江副驩之助儀、右御普請中始末差入出精いたし、積三左衛門、郡浦又太、岩崎岩太右三人者、受持之場所等、根ニ成、格別出精いたし、其外御家人并庄屋、会所役人等、御用懸之面々、塘手井樋方・御銀方・諸品方等之役付、銘々受持之役前、急場之御普請、諸事無間抜取計、何れ茂出精之次第、委細者書面之通ニ相聞申候。尤本紙ニ相替候儀者、付紙用置候通承申候。以上

午八月　　本山文助㊞

御内意之覚

本行新五左衛門并左之江副驩之助儀、達之通ニ付被賞之儀、別冊達新地一件ニ取続しらへ置申候。

郡浦手永御惣庄屋

郡浦新五左衛門

右者、天保十四年九月非常之高瀬・大風ニ而、海辺一統塘手等破損いたし候内、別而郡浦手永之儀者、亀崎・塩屋浦・手場・際崎之大破、塩留を初メ古方浪受之塘等、一円之破損所ニ而、田畑潮入之ヶ所々々茂多ク、彼是打混候。一時之御普請ニ御座候処、新五左衛門儀、始末さし入、格別致出精候ニ付、数十ヶ所之御普請、速ニ成就ニおよひ、地場之御用筋も、無間抜行届申候。且又以前者、新地等御築立之節々、天草石まで御取入相成来候処、右ニ付而ハ、種々煩敷、難渋之筋茂有之候処、近年戸馳石場御取起ニ相成、大小石無際限割出候ニ付而者、以後他所より之御取入にもおよひ不申、永々逸稜之御便利相成、就中右卯秋一統之大変ニ付而ハ、何方も、急場御普請迄ニて、都合廿余ヶ所より之注文石、惣而右石場一ヶ所引受、混雑無申量由ニ有之候処、新五左衛門儀地場御用、且手永内茂同様数十ヶ所之破損所、御普請込合候折柄ニ有之候処、出役岩佐貞左衛門など申談、厚致心配、大数割石弐十万、栗石六千坪余取出、無滞運送いたし候ニ付、所々之御普請、何茂速ニ出来いたし、御入目も余計ニ相減、永久御國益一稜之筋と奉存候。右之通ニ御座候間、彼是御取結ニ而、重ク被賞被下候様。

内牧手永御惣庄屋　　江副驩之助

右者松山手永御惣庄屋在勤之筋、前文同様両手永ニ懸、数ヶ所之破損所、潮留其外所々御普請等始末さし入、役々申談、格別精勤仕候。

小左衛門より三左衛門迄四人、達之通ニ何、小左衛門金子百疋可被下置哉・七右衛門以下三人、被賞之儀ハ別冊新地一件拝領方ニ取加しらへ置申候。

郡浦手永御山支配役

中村小左衛門

松山手永ニ而右同

野田七右衛門

右同前ニ付、御普請入用ニ竹前力出等、速ニ取計出精仕候。

御郡代手付横目役

右同　　井上育太郎

積　三左衛門

右者、同前数ヶ所之潮留出役、其外御普請積方、且荒地しらべ、立会等精勤仕候。尤積三左衛門儀者、亀崎新地引受ニ而、潮留并総塘手笠服付、且井樋御普請、専始末主ニ成出精仕候。

英之助より又太迄四人被賞之儀ハ、前段野田七右衛門列同断

一領一疋ニ而井樋方助役　　中園英之助

御郡代手附横目　　井上甚之助

塘方助役　　野田亀十郎

右同断ニ而、夫積等を始、御普請之ヶ所々々罷出精勤仕候。

塘方助役　　郡浦又太

岩太儀達之通ニ付、別冊戸馳石取出之儀共取米、銀七両可被下置哉

郡浦一領壱疋石場見扨　　岩崎岩太

右者、亀崎・塩屋浦引受、出精仕、又太儀ハ、井樋御普請をも引受、精勤仕候。尤右之両人者、戸馳石場受込ニ而、石取出之儀も兼相勤候ニ付而者、当正月御賞美筋御内意仕置候通ニ御座間、(候カ)両条御取結被賞被下候様。

清左衛門より八郎助迄十一人達之通ニ付清左衛門・西山武左衛門・麻之助・菊次は銀武両宛、中村武左衛門・柴太江同三両宛、八郎助江島目七百文被下置、順喜儀ハ御聞承届之及達可申哉。七九郎・富太・伍五郎儀ハ別冊新地一件被賞ニ取加しらへ置申候

郡浦一領壱疋　　永松清左衛門

松山右同　　西山武左衛門

内牧御惣庄屋江副驩之助悴　　江副麻之助

木倉手永居住、諸役人段、楠田柳太郎二男　楠田順喜

地士　　江本七九郎

郡浦御山支配役中村小左衛門二男　中村武左衛門

但右武左衛門儀者亀崎御普請之方江も八十日余相詰出精仕候

郡浦地士木下市之進悴　　木下菊次

郡浦御郡代直触末席　　高濱栄太

郡浦一領一疋佐田九郎八養子　　佐田富太郎

御賞美井場武左衛門養子ヲ、当時外様足軽

一領壱疋小山喜十郎二男　　小山伍五郎

松山御郡代直触　　河野八郎助

右者亀崎・塩屋浦破損ニ付、御普請中何れ茂数十日相詰出精仕候。

冬秀・静寿儀達之通ニ付、冬秀江銀弐両、静寿江島目七百文可被下置哉

松山御郡医師並　　御舟冬秀

松山御郡代直触医師　　筑紫静寿

右同断ニ而御普請中并潮留之節等出精仕候。

新助より茂平迄五人達之通ニ付良右衛門江銀五両、源左衛門江島目壱貫文、岩右衛門・茂平江同七百文可被下置哉・別冊新地一件達審ニ取加へしらへ置申候。

松山井樋方助役在勤中一領一疋　　野村新助

郡浦地士ニ而手代　　辛川良右衛門

郡浦御郡代直触ニ而右同　　虎口源左衛門

郡浦御郡代直触ニ而下代　　松本岩右衛門

松山手永ニ而右同　　田河内茂平

右者、数ヶ所之御普請積方より夫仕、其外荒地しらべ等ニ至迄、心配仕、且地場御用筋之儀も引受精勤仕候。

御郡代直触ニ而境目村庄屋　井上嘉久次
郡浦地士辛川良右衛門悴会所小頭　辛川喜一郎

嘉久次より普十迄二十二人達之通ニ付、嘉久次・喜一郎江鳥目壱貫三百文宛、太郎兵衛・寅喜・勘左衛門・市太郎・武左衛門・喜平・卯平・東助・政右衛門・覚兵衛・才平江同七百文宛、藤兵衛江同壱貫五百文、弥平次・普十江同五百文、喜代次江同三百文可被下置哉。専右衛門・恵三郎・源次郎・太平・藤作儀ハ別冊達新地被賞ニ加へしらへ置申候。

御惣庄屋直触ニ而松崎村庄屋　河野専右衛門
御郡筒　虎口太郎兵衛
郡浦地士積恵作養子　積　寅喜
郡浦御郡代直触ニテ致病死稲原傅左衛門二男　稲原勘左衛門
松山地士竹下恵吉三男　竹下恵三郎
御郡筒三浦久兵衛悴　三浦市太郎
下長崎村庄屋　武左衛門
長崎村庄屋　喜平
亀尾村庄屋　藤兵衛
御領村右同　卯　平
高良村右同　源次郎
小頭　東助
右同　政右衛門
庄屋武左衛門悴　覚兵衛
鷺見塚村庄屋当分　才　平
小頭　太　平
津横目　喜代次
小頭　藤　作
長崎村頭百姓　弥平次
右同　善　十

右者、亀崎・塩屋浦破損ニ付、御普請中数十日相詰精勤仕候。

覚左衛門より茂左衛門迄、達之通別冊新地被賞ニ取加へしらへ置申候。

郡浦御郡代直触ニ而根扨　稲原覚左衛門
松山御惣庄屋直触ニ而右同　河野清七
右同ニ而助役　茂左衛門

右者、所々御普請所夫積なり仕上ニ至迄、始末出精仕、夫仕等差入相勤申候。

圓次より嘉兵衛迄八人、達之通ニ付弥五兵衛・嘉右衛門・吉之允・喜右衛門・嘉兵衛江鳥目七百文宛可被下置哉。圓次・藤兵衛・謙左衛門儀ハ別冊新地一件江取加被賞之儀しらへ置申候。

御郡代直触竹馬幾右衛門悴ニ而松山会所下代　竹馬圓次
同会所詰　小郷藤兵衛
同御免方付　謙右衛門
松山在勤中御郡代直触ニ而右同会所詰　斉藤弥五兵衛
御郡代直触ニ而郡浦会所詰　有働嘉右衛門
御郡筒ニ而右同　岡村吉之允
右同免方付　嘉右衛門
右同出限方　嘉兵衛

右者、所々御普請中地場御用筋引受相勤、破損所潮留等之筋、并荒地しらべ方等出精仕候。

御惣庄屋直触ニ而松山手永井樋方小頭　亀井幸右衛門
同会所小頭　文左衛門
右同　尤左衛門

右同　　十左衛門

幸右衛門より七左衛門迄十四人達之通ニ付、幸右衛門江鳥目七百文、潤左衛門・政左衛門・平蔵・幾助・卯兵衛・勝兵衛・次郎左衛門江同五百文完可被下置哉。文左衛門・尤左衛門・十左衛門・庫兵衛・幸作・七右衛門儀ハ、別冊新地一件達書ニ取米、拝領方しらへ置申候。

御郡筒ニ而松山会所小頭　　河野潤左衛門

松山御郡代直触山本幾右衛門養子ニ而右同　　山本庫兵衛

右同　　政左衛門

松山会所小頭　　幸作

郡浦会所詰御郡代直触松本岩右衛門倅　松本平蔵

右同小頭　　幾助

右同　　卯兵衛

右同　　勝平

右同　　次郎右衛門

右同　　七左衛門

右同断、所々御普請且亀崎潮留之節も相詰出精仕候。

新左衛門より作右衛門迄六人達之通ニ付、新左衛門・九郎次・弥次兵衛・久兵衛・作右衛門江鳥目七百文完可被下置哉。善三郎儀ハ別冊達、新地一件ニ取加へ拝領方しらへ置申候。

松山地士ニ而永尾村庄屋　　西山新左衛門

松山在勤中御郡代直触ニ而大見村庄屋　　河野九郎次

松山御郡代直触松合村庄屋　　松浦善三郎

右同波多村庄屋　　病死　　岡村弥次兵衛

御郡筒手場村庄屋　　三浦久兵衛

御惣庄屋直触大口村庄屋　　作右衛門

右者前文同様、御普請中始末心配仕、善三郎儀者、御役人乗船等之儀も、格別世話仕、且亀崎潮留之節も罷出出精仕候。

右之通ニ付何れも相応ニ被賞被下候様、於私奉願候。尤御賞美之段専御惣庄屋共なり見込取しらべ相達申候ニ付、御見渡之ため、下ニ附紙仕置候間、宜ク被成御参談可被下候。以上

弘化三年六月　　杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

右郡浦新五左衛門以下稜々、付札之通、申八月廿八日申渡且達。

付紙　地士　江本七九郎のところ

本紙名前肩書等打替候儀左之通ニ御座候

一中村武左衛門儀、中村小左衛門倅と有之候共、同人二男之由。

一木下菊次儀、木下喜兵衛二男と有之候得共、同人孫ニ相当候由。

一高浜栄太養父、高浜磯右衛門儀、当年閏五月、病死仕候由。

一佐田冨太と有之候得とも、同冨太郎と唱候由。

一野村新助儀、塘方助役と有之候得共、井樋方助役相勤居候由。

一積寅喜養父、積和作と有之候得共、同恵作と唱候由。

一稲原勘左衛門儀、稲原伝左衛門倅と有之候得共、同人二男之由、右伝左衛門儀、去々辰五月病死仕候由。

一竹下恵三郎儀、竹下恵吉倅と有之候得共、同人三男之由。

一小頭藤作と有之候者大口村庄屋作右衛門倅ニ而、御普請中仮小頭ニ申付有之候由。

一小頭謙左衛門と有之候得共、謙右衛門と唱候由。

一河野理左衛門と有之候得共、同理右衛門と唱候由。

一松山会所小頭政右衛門と有之候得共、政左衛門と唱候由。

一小頭卯兵衛儀、当午四月椿原村庄屋申付ニ相成候由。

一小頭次郎左衛門と有之候得共、次郎右衛門と唱候由。
一小頭七左衛門儀、当午三月網津村庄屋申付ニ相成候由。
右之通承申候。以上
午八月　　本山文助

登録番号対照表

番号	人　　名	永青文庫番号	県立図書館番号
天保4年（1833）			
141	筑紫春吹	9-22-3	1473
天保5年（1834）			
146	清八　他	9-22-4	1483
154	勇七	9-22-4	1486
158	後藤五郎右衛門　他	9-22-5	1496
160	辛川良右衛門　他	9-22-5	1496
天保6年（1835）			
164	作兵衛	9-22-6	1498
天保9年（1838）			
168	沢田良平	9-22-11	1536
170	北野甚七　他	9-22-11	1540
171	伊勢田渡右衛門	9-22-11	1541
172	宇土町御本陣再興御作事出来目録	9-22-11	1541
173	小田久次郎　他	9-22-11	1545
174	糸石玄碩	9-22-11	1545
175	上田藤吉	9-22-11	1545
176	神尾三伯　他	9-22-12	1547
177	卯八	9-22-12	1549
178	幸平	9-22-12	1549
179	松山徳七	9-22-12	1549
180	貞平列六人　他	9-22-12	1549
181	市兵衛	9-22-12	1549
天保10年（1839）			
182	郡浦新五左衛門	9-23-1	1558
183	中野信次	9-23-1	1558
184	郡浦又太	9-23-1	1558
185	橘庄助	9-23-1	1558
天保11年（1840）			
186	虎口源左衛門	9-23-2	1566
187	渡　三壽	9-23-2	1567
188	谷村佐平次　他	9-23-2	1568
189	岡村伊八郎	9-23-2	1569
190	田河内茂平、藤九郎	9-23-2	1571
191	竹下恵吉	9-23-2	1571
192	大田黒圓右衛門	9-23-2	1571
193	田代勘右衛門	9-23-2	1572
194	銭塘久右衛門　他	9-23-2	1572
195	田上壽助　他	9-23-2	1572
196	郡浦新五左衛門、隈部徳七	9-23-2	1572
197	森内甚兵衛　他	9-23-3	1573
198	桑原作平次	9-23-3	1573
天保12年（1841）			
199	本郷岩吉	9-23-4	1582
200	伊勢田渡右衛門、伊勢田渡恵太	9-23-4	1583
201	隈部徳七　他	9-23-5	1586
202	大田黒藤兵衛、卯兵衛	9-23-5	1586
203	徳永半兵衛　他	9-23-5	1586
204	文助	9-23-5	1588
天保13年（1842）			

番号	人　　名	永青文庫番号	県立図書館番号
205	神尾等載、金田亀齢	9-23-6	1597
206	松岡謙濟、庄野逸記	9-23-7	1598
207	尉右衛門　他	9-23-7	1600
208	岡村儀平次　他	9-23-7	1600
天保14年（1843）			
209	堀内徳右衛門、伴右衛門	9-23-8	1604
210	柘植玄迪	9-23-8	1604
211	愛甲　操　他	9-23-8	1607
212	北野甚七、喜平	9-23-9	1610
213	清七	9-23-9	1610
214	壽七郎	9-23-9	1610
天保15年（1844）			
215	中園英之助、郡浦又太	9-23-10	1616
216	竹馬幾右衛門、中山直右衛門　他	9-23-10	1620
217	井上育太郎　他	9-23-10	1620
218	藤九郎、直次　他	9-23-10	1620
弘化２年（1845）			
219	小郷藤兵衛	9-23-11	1632
弘化３年（1846）			
220	西　玄甫	9-23-12	1636
221	中村角太	9-23-13	1639
222	竹馬圓次	9-23-13	1640
223	岡村弥次兵衛、稲原久左衛門　他	9-23-13	1640
224	堀内徳右衛門	9-23-13	1640
225	啓右衛門、嘉右衛門	9-23-13	1640

番号	人　　名	永青文庫番号	県立図書館番号
226	神尾喜栄	9-23-13	1643
227	矢沢源次郎　他	9-23-13	1643
228	野村新助	9-23-13	1645
弘化４年（1847）			
229	小郷藤兵衛	9-24-1	1647
230	木下喜兵衛、木下和作	9-24-1	1649
231	中村小左衛門	9-24-1	1649
232	芥川倉之助	9-24-1	1649
233	竹下恵吉	9-24-1	1650
234	北野安右衛門	9-24-1	1650
235	虎口源左衛門	9-24-1	1650
236	廣次、茂七	9-24-1	1650
嘉永元年　（1848）			
237	郡浦新五左衛門　他	9-24-2	1698
238	辛川良右衛門、虎口源左衛門　他	9-24-2	1698
239	北野甚七、田河内茂平　他	9-24-2	1698
240	郡浦新五左衛門　他	9-24-2	1698

新宇土市史基礎資料　第三集

町在㈢　―天保四～嘉永元年―

発行　宇土市教育委員会
熊本県宇土市浦田町五一番地

発行日　平成九年三月二五日

印刷　㈾　下田印刷